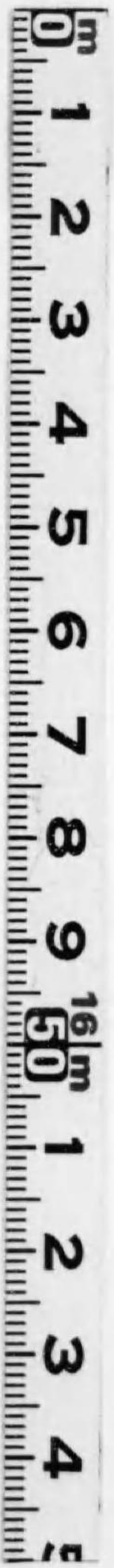
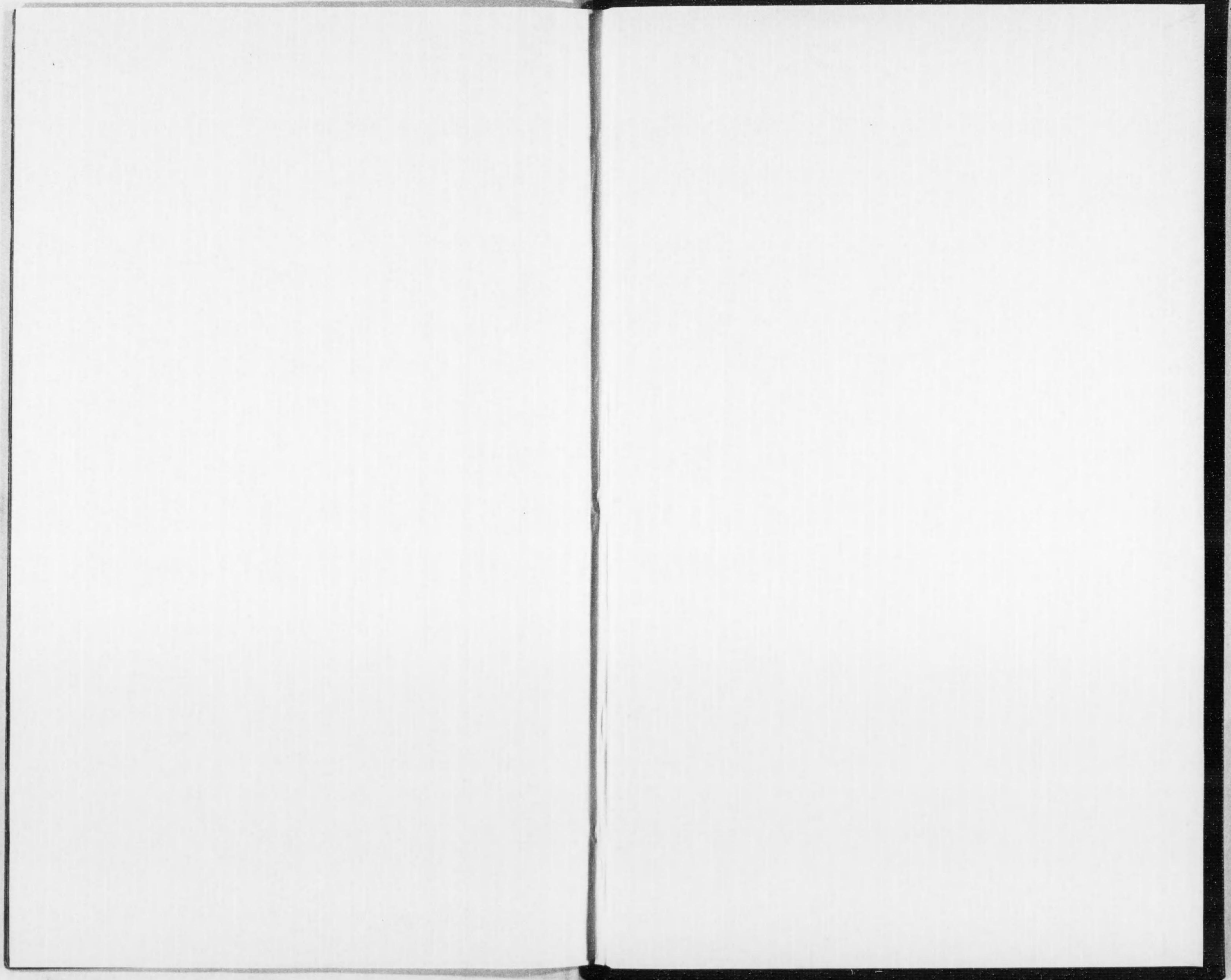


519
6



始





KZ4K-10

O BRASIL EM PROGRESSO

EDIÇÃO COMMEMORATIVA DO CENTENARIO

DA INDEPENDENCIA DO BRASIL

POR

NOTICIAS DO BRASIL

1822—1922

新進之伯刺西爾

獨立百年紀念

伯刺西爾時報社發行

796

O BRASIL EM PROGRESSO

EDIÇÃO COMMEMORATIVA DO CENTENARIO
DA INDEPENDENCIA DO BRASIL
POR
NOTICIAS DO BRASIL
1822—1922

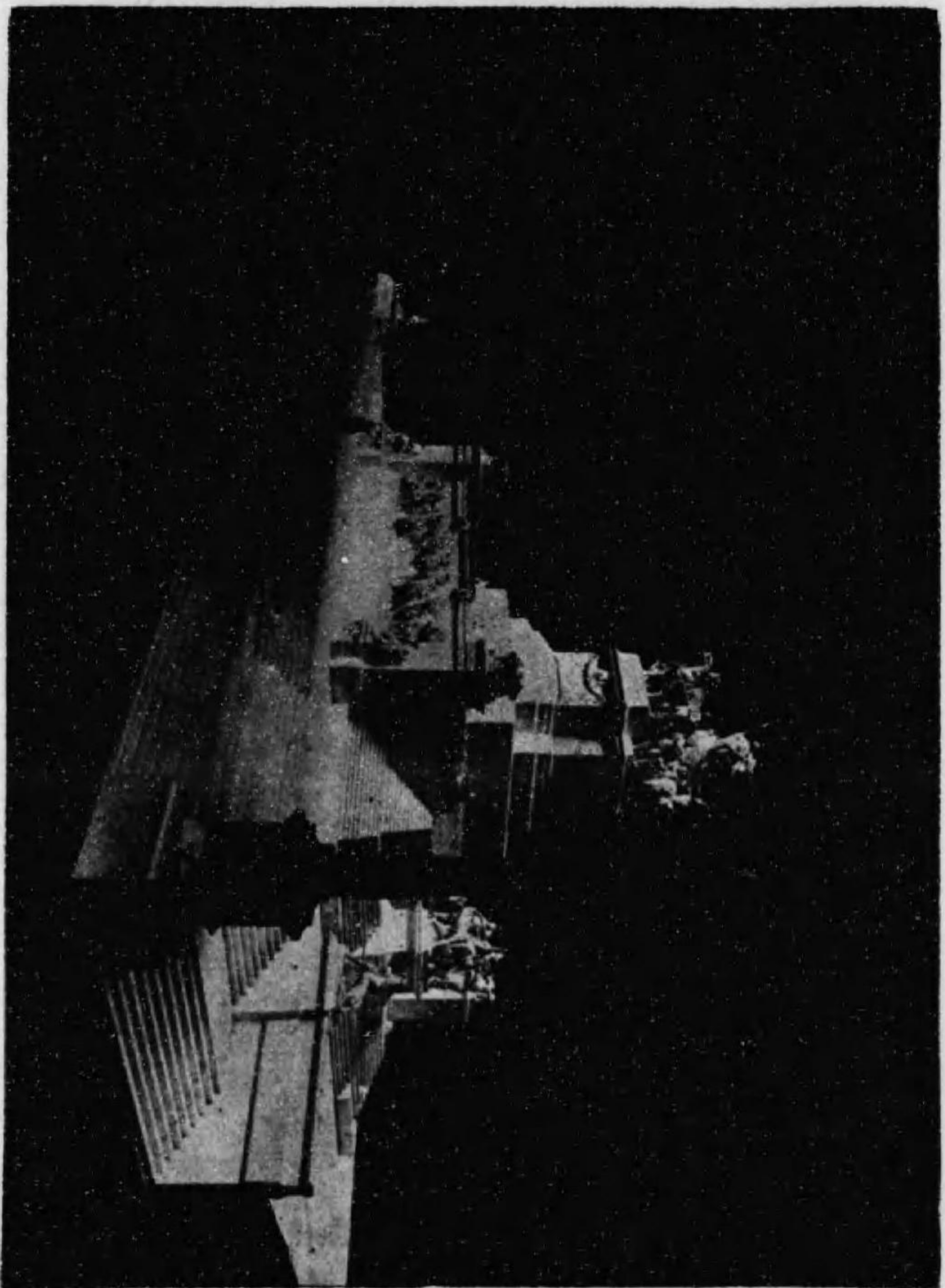
獨立百年紀念

新進之伯刺西爾

伯刺西爾時報社發行

大正
11
寄贈

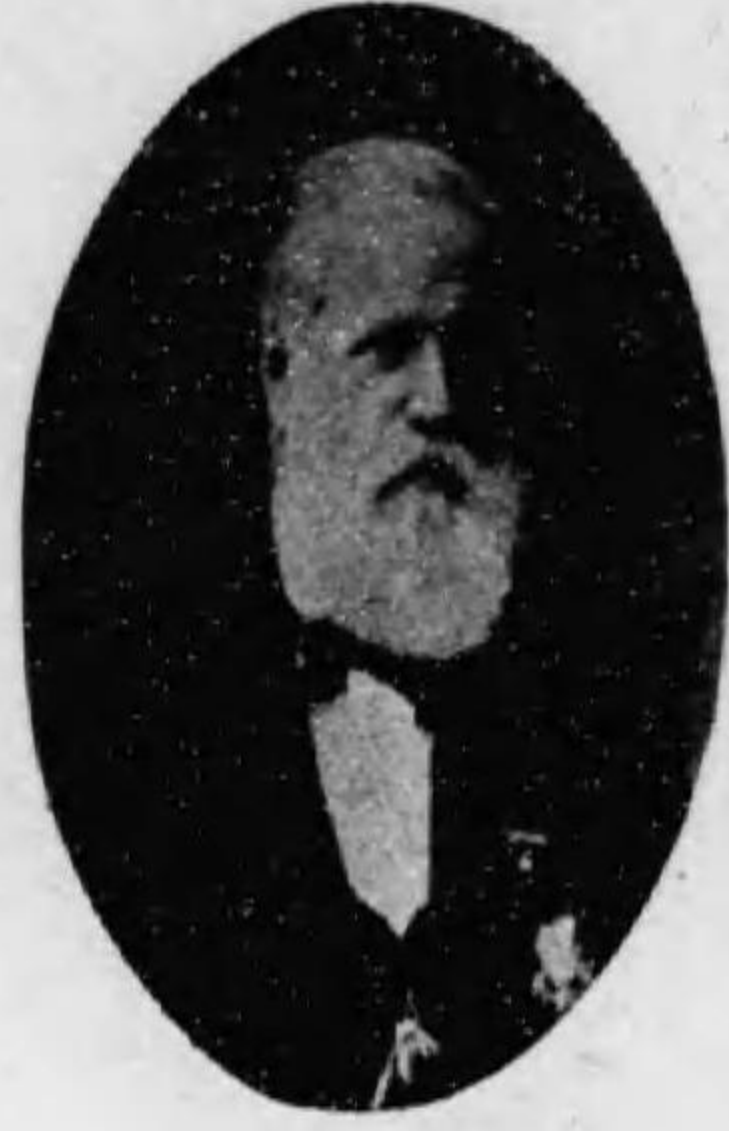
社



外市ロウマンベサ地たげ華を榮の立獨が世ーロドム、ソド
塔念記立獨つ建に前館物博ガソラセイ

歴代皇帝及び大統領

ド
ン
・
ス
ド
ロ
二
世



ド
ン
・
ス
ド
ロ
一
世



將大ロオドオア

士博アンデルブ



ラスセンエウ
士博スラブウ



オシタピロ
士博アツツベ



ンイフルテ
士博ラーレモ



將大ノアリロフ



將大スメルエ



ツベ、ロニ
士博ヤニサ

スゲリドロ
士博スベルア



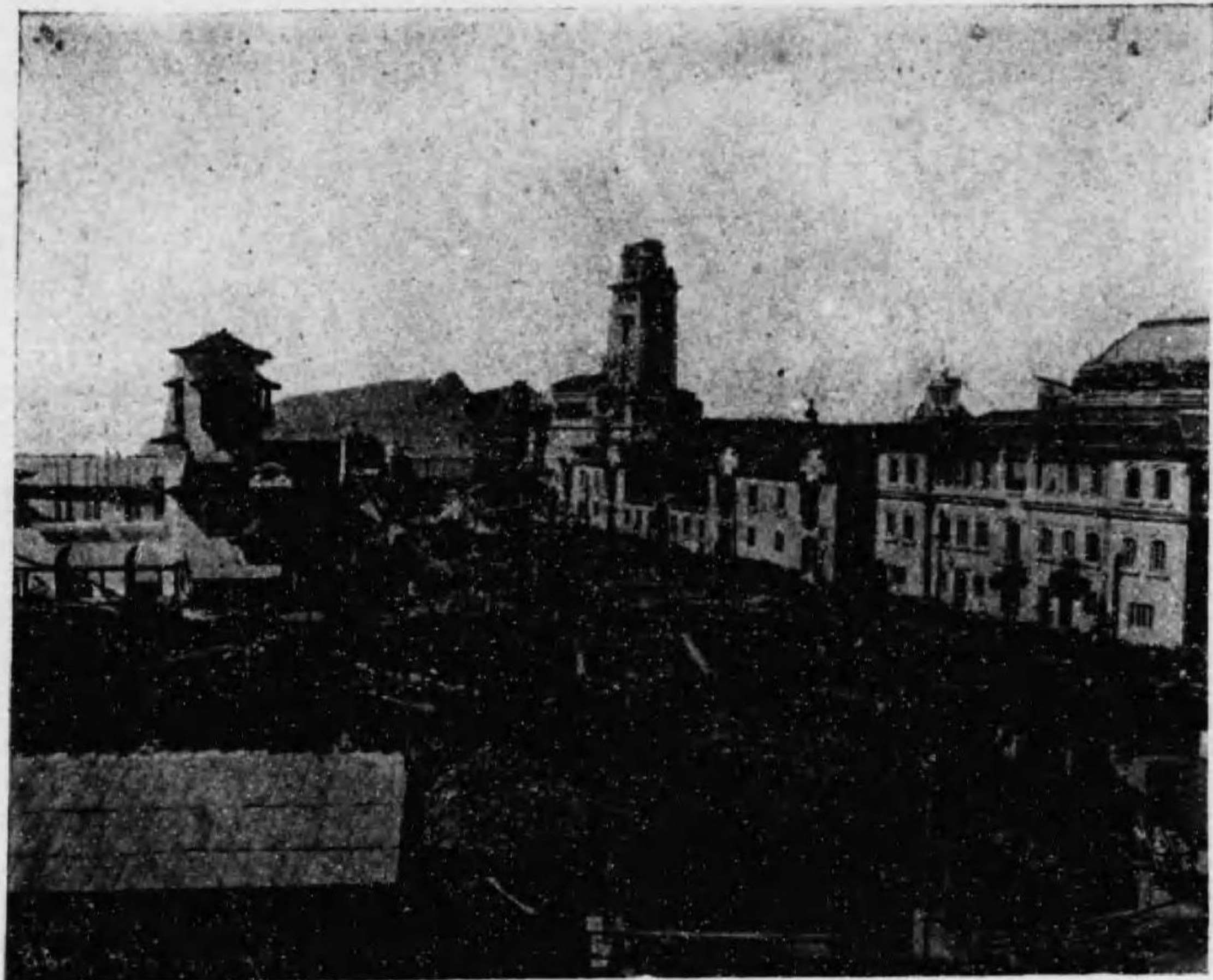
ライレモ
士博ナンハ



スボンカ
士博スレーサ



の世一ロドベ、ンドに上丘ガランラセイ日七月九年二二八一
(畫名の藏校館物博ケランラセイ)た、しか湧な血の人國伯全はび叫の「か死が立獨」



館國內會覽博大國萬念記年百立獨ロイ子ヤジ.テ.オリ (上)
 物建の坪百三に地敷の坪塗有百五てしに館本日の中上同 (下)



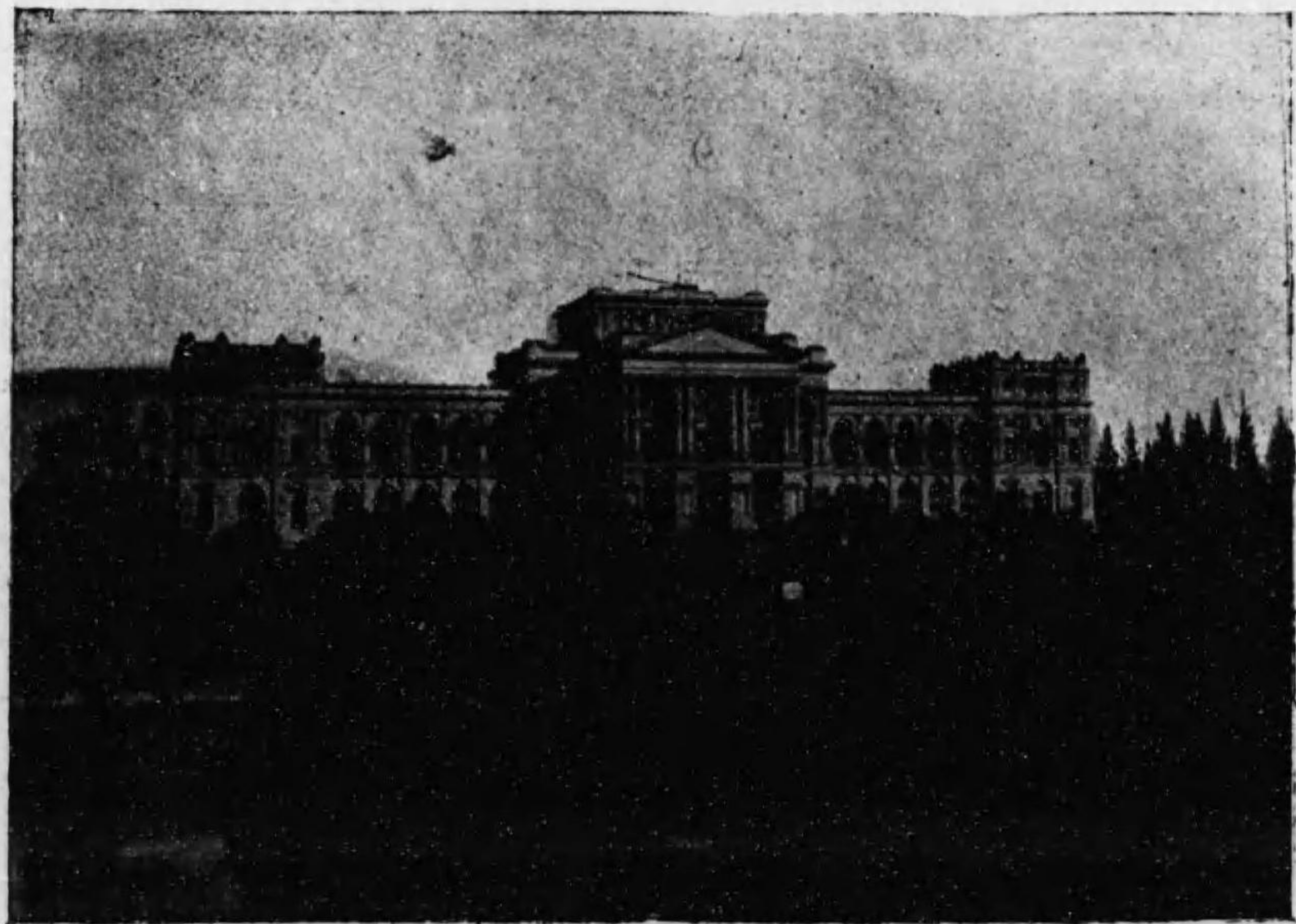
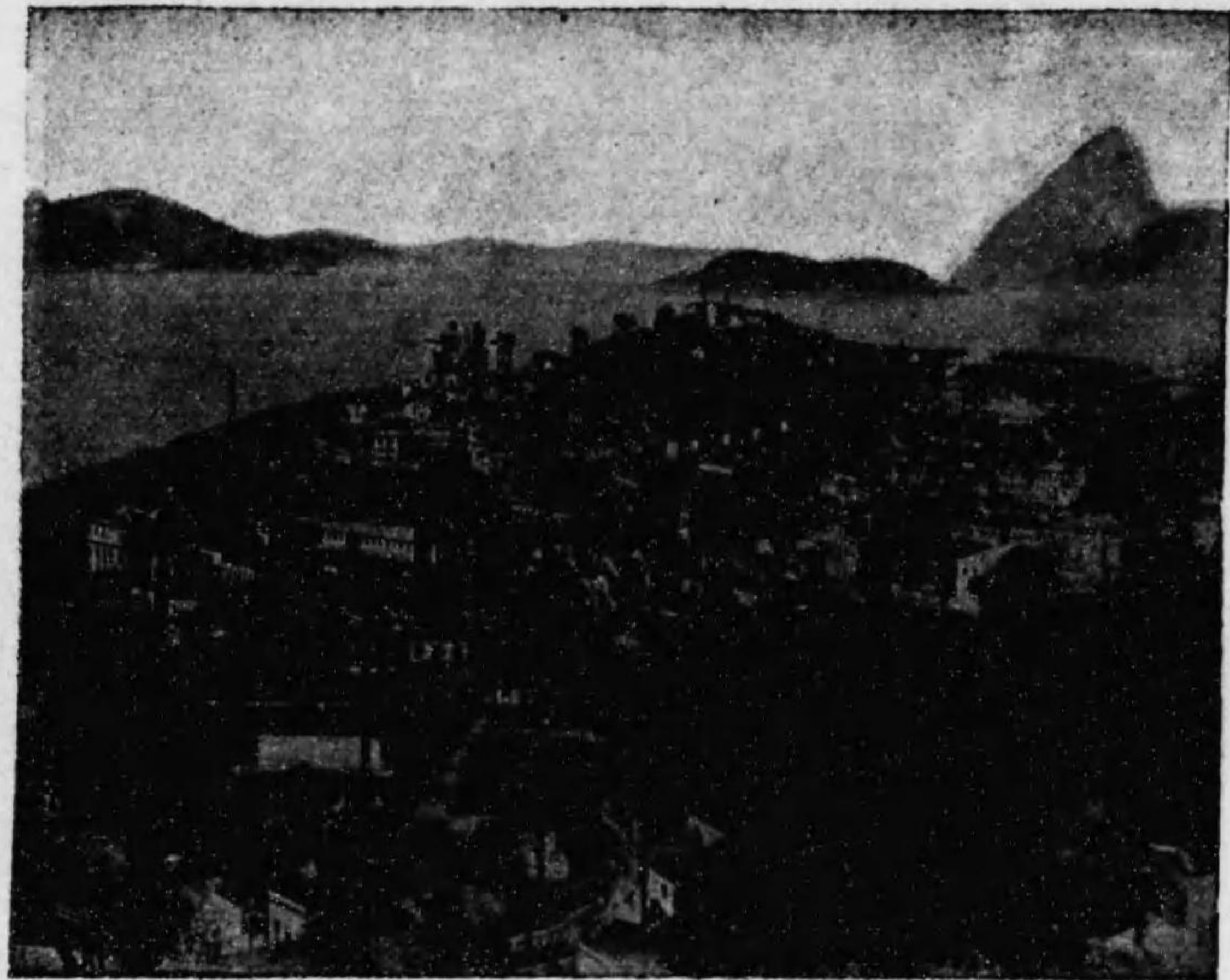
ステンテラチ者驅先の立獨國伯
 夕消ミ露の場刑日一廿月四年二九七一



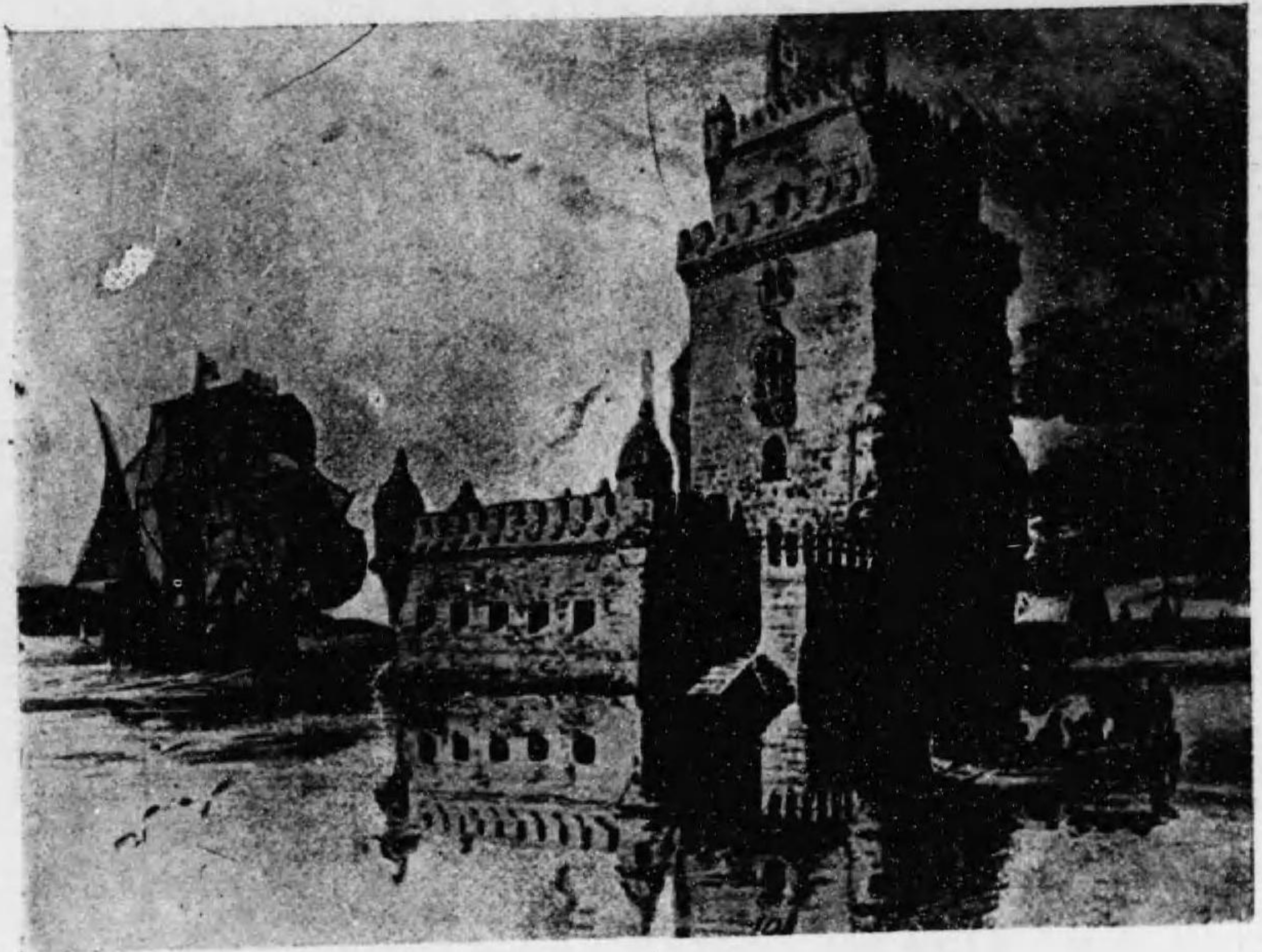
ホ.セヨシ者勳偉の時當立獨國伯
 パルシ.イ.ダーラダンア.テ.オシアフニ



ステンテラチ者驅先の立獨國伯
 ルエビヤシ.パルシ.ダ.セヨシ.ンキアヨシ

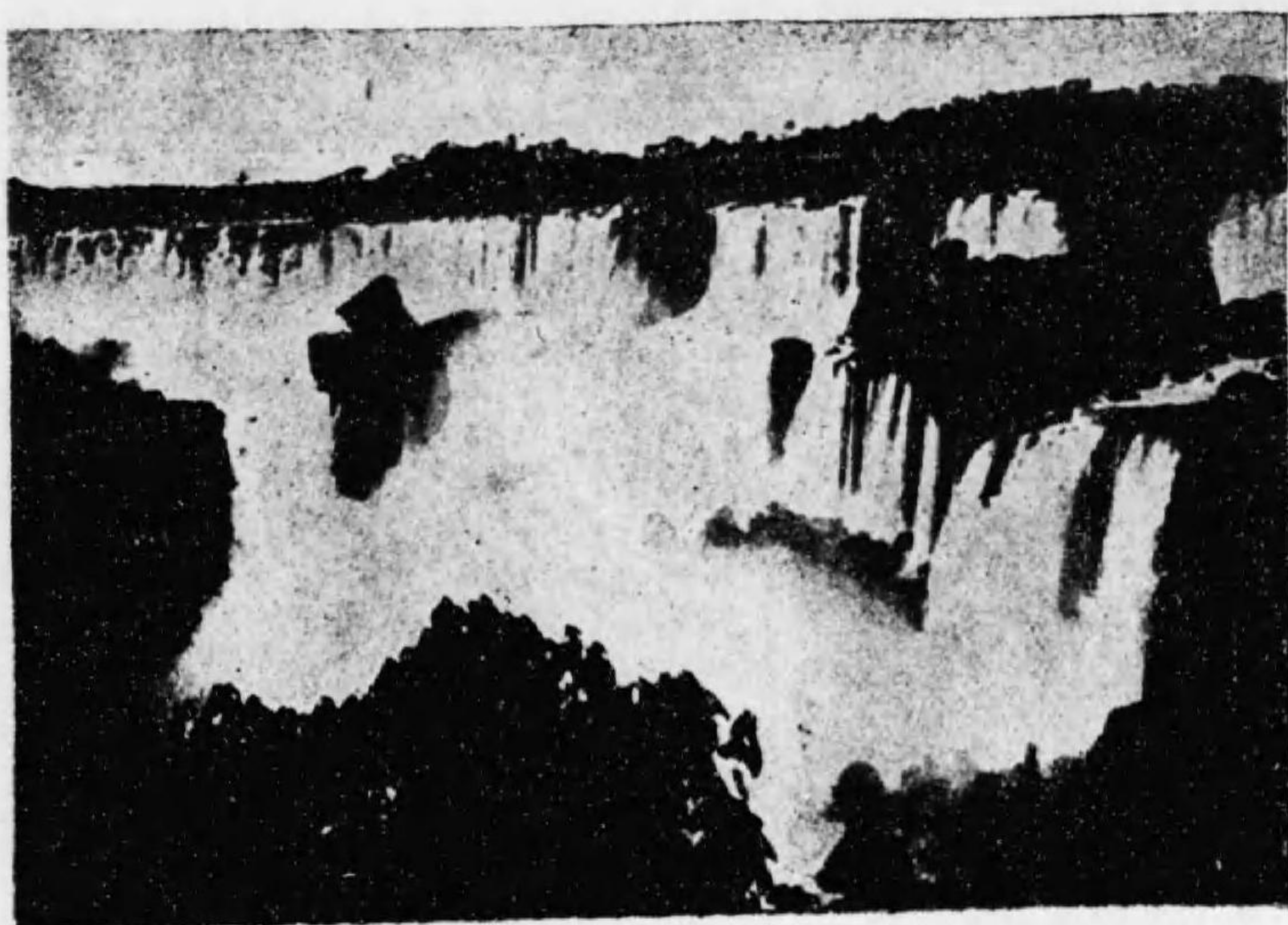


館物博の在現ガンラヒイ(下) 景全のロイヤル・デ・オリ府首(上)



が督提ルラアカ、ロドへ日九月三年〇〇五一 (上)
港ンレベたつ立旅に見發國伯れさ授親を旗國らが王ルエヌマ、ンド

ソノフツア、ンナルマ年二三五ー (下)
港テンセピンサたけ設な地民植陸上ため初



布瀑大ースアケイの一第界世 (上)
イテリアチウらせ稱ミラガヤイナの國伯 (下)

序 同和の論陳西爾の希望を成し得ることこそ
 陳世界の 大勢に遅れて出發したる日本は、過去半世紀の間に長足の
 進歩をした。西洋と東洋の文明を融合渾和し、今後世界の文明に何物
 かを寄與するものは、日本である。自惚れ出した間に、最早う徐ろ徐
 ろ社會の各方面が行詰つて來た。若し今の内適當の方法を講じない
 なら、折角登りかけた日本の進歩も、坂の途中で逆轉するなきを保し
 難い。斯る時は、米の消費を減らすこと、米の消費を減へ
 資之に反して伯刺西爾は、是から彌々世界の水平線上に押昇らんこ
 する新進國だけに、國內の總てに綽々たる餘裕がある。疆土廣大に比
 し人口は稀薄、天産無限なるに拘はらず、勞資が乏しいから、此の國の
 富源を開發して、人類生活に必要な物資を供給せんことをするには、勢
 ひ他國の勞資移入を俟たざるを得ぬ。乃ち今回の獨立百年祝典は、表

面は名譽ある獨立百年を記念するにあるや勿論なるも、其の内實は此の國の富源を廣く列國に紹介し、以て顯著なる發達を遂げんとするものである。

然れども刻下の場合、歐洲諸國は戦後の復舊に忙がはしく、北米は資本豊富なるも勞力に乏しきが爲め、一手で伯刺西爾の希望全部を充し得る國は歐米には見當らぬ。そこで余は考へる、此の機會を捉へて伯刺西爾發展を策するは、日本の最も利益とする處ではあるまいか。一體日本の行詰りは、幾分政治の行り方の善からぬせいにも寄らうが、それよりも一層深い原因は、土地と人口、資本と事業の關係が平準でない點にあるや明白であるから、此の際此の機會に乗じて伯刺西爾發展を實行するなら、日本は自分自からの行詰りを變通し得ると同時に、伯刺西爾の希望を充し得ることになる。

茲に於て我社も此の機會を逸すべからずとし、同人微力を振つて此の光輝ある伯刺西爾の獨立百年祭を記念すると共に、伯刺西爾の真相を日本に紹介せんが爲め、敢て本書を公刊することにした。固より勿々の企圖、體裁の整はざる點は我社の甚だ遺憾とする處なるも、内容に於ては目次に擧ぐる如く伯刺西爾發達の徑路を略述し、且つ統計は最も斬新にして正確なる材料を掲ぐるに意を用ひたから、本書を繙かば自から伯刺西爾の過去及び現在に通じ、眞に伯刺西爾は世界の太富源國であり、移民國であり、企業國であることが判明すると思ふが、兎に角本書にして伯刺西爾紹介の役目の幾分を果し、之が延ひて日本の伯刺西爾發展實行の一助ともならば、我社の喜び之に過ぐるものなしである。

本書を公刊するに方り、葡語著名の諸書に、負ふ處大なるは勿論、材

4 料蒐集、其の他本書公刊に助力せられたる「リオ」の堀口公使、野田書記官、伯國視察中の星野錫氏、「サンパウロ」の藤田總領事、青柳海外興業會社重役、山口書記生、山田揚之助氏、高岡醫師及び輪湖俊午郎氏等に謹んで感謝の意を表す。

大正十一年八月天長節

伯刺西爾時報社長

黒石清作

序
 伯刺西爾の歴史と地理
 伯刺西爾の位置
 伯刺西爾の面積
 伯刺西爾の人口
 伯刺西爾の地質
 伯刺西爾の地勢
 伯刺西爾の氣候
 伯刺西爾の土產
 伯刺西爾の産業
 伯刺西爾の交通
 伯刺西爾の教育
 伯刺西爾の宗教
 伯刺西爾の政治
 伯刺西爾の外交
 伯刺西爾の文化

新進之伯刺西爾目次

目次

一、伯國歴史の概要……………一

 (イ) 發見と國名の起源……………一

 (ロ) 植民地、獨立帝國、共和國……………二

 (ハ) 歴代の大統領及その治績……………八

二、伯國地理の概要……………一四

 (イ) 位置、公定時及時差……………一四

 (ロ) 境界及面積……………一五

 (ハ) 地勢……………一六

 (ニ) 地質……………一八

三、氣候……………二四

 (イ) 熱帶……………二四

 (ロ) 亞熱帶……………二七

 (ハ) 温帶……………二九

四、人口……………三〇

五、人種……………三四

一六、投	資	一七五
一五、交	通	一六八
	(イ) 鐵道	一六八
	(ロ) 航運	一七四
一四、工	業	一五三
	(イ) 全國工業概要	一五三
	(ロ) 紡織工業	一六三
	(ハ) 鐵工業	一六五
	(ニ) 肥料製造	一六六
	(ホ) 水電事業	一六七
	(ト) サントスに於ける輸出入貿易	一七八
	(チ) サントスに於ける對日本貿易品	一二五
	(リ) 伯刺西爾出入船舶	一二九
	(ヌ) 最近爲替相場	一三四
	(ル) 主なる輸出品に就て	一三五
	(ヲ) 主要輸入品に就て	一四八
	(ワ) 正貨外國銀行券輸出入	一五一
	(カ) 内外國銀行	一五二

六、林	產物	一四〇
七、鑛	物	一四二
八、聯邦の憲法		一四六
九、國法上外國人の地位		一四九
一〇、歸	化	一五四
一一、財	政	一五九
	(イ) 歳入豫算	一六〇
	(ロ) 歳出豫算	一六六
一二、租	稅	一七四
一三、商	業	一七九
	(イ) 外國貿易發達の經路	一七九
	(ロ) 最近に於ける對外貿易	一八四
	(ハ) 一九二一年の輸出貿易	一八七
	(ニ) 輸出貿易上の狀勢	一九二
	(ホ) 一九二一年の輸入貿易狀勢	一九二
	(ヘ) 一九二二年對外貿易情況	一九九

(イ) 英國の伯國投資……………一七
 (ロ) 佛國の伯國投資……………一七
 (ハ) 米國の伯國投資……………一八〇
 (ニ) 其他諸國の投資……………一八〇

一七、農 業……………一八一

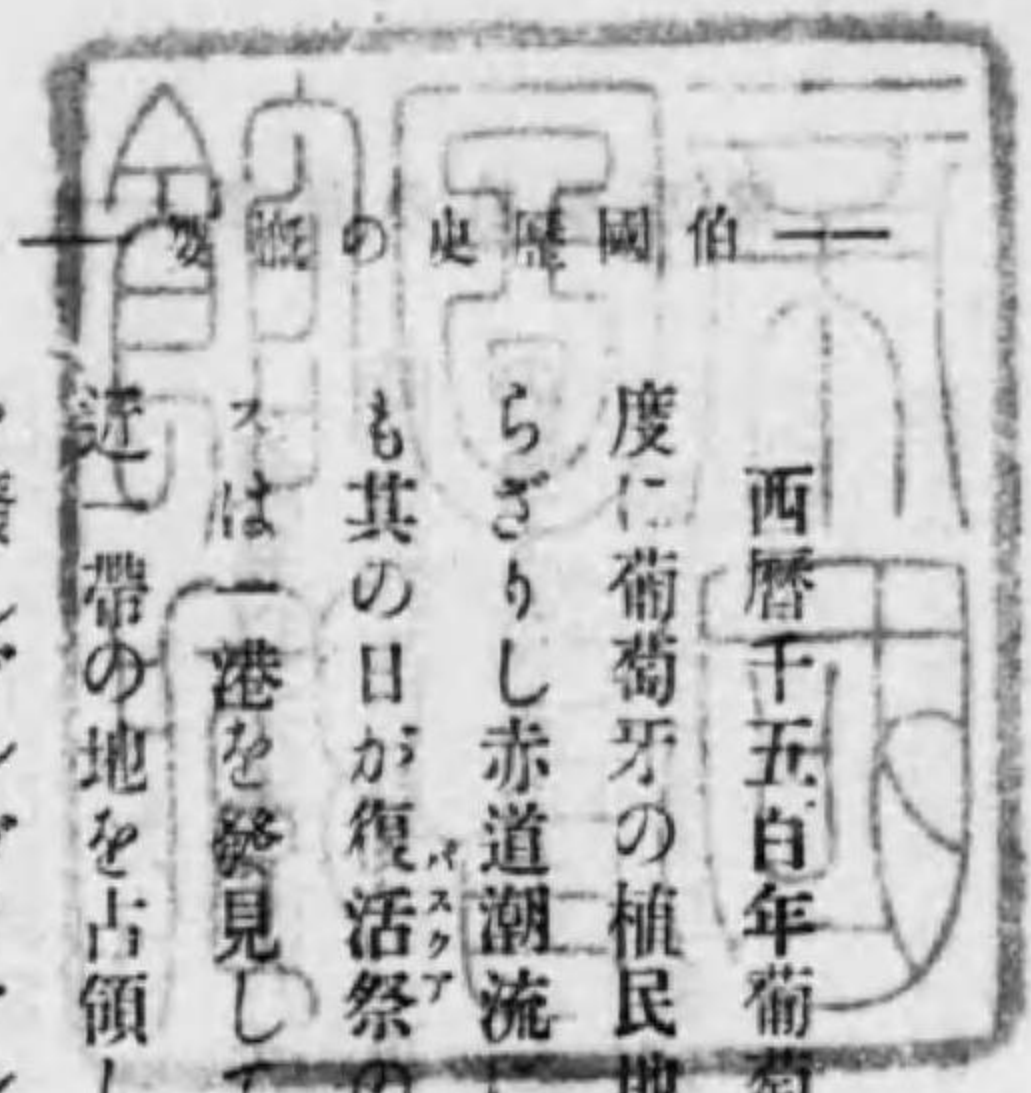
(イ) 一般農産状態……………一八一
 (ロ) 主要農産物に就て……………一八五
 (ハ) 牧畜及畜産物加工……………一九四
 (ニ) サン・パウロ州農業状態……………一九六
 (ホ) 入國移殖民……………一九九
 (ヘ) 日本人現在數及其分布……………二〇〇
 (ト) 珈琲園労働……………二〇五
 (チ) 半獨立農……………二〇六
 (リ) 獨立農……………二〇八
 (ヌ) 保健衛生……………二一〇

——(目次終り)——

新進之伯刺西爾

一、伯國歴史の概要

(イ) 發見と國名の起源



西曆千五百年葡萄牙の航海家ベドロ・アルヴァレス・カブラルは、國王ドン・マヌエルの勅命を奉じ、印度に葡萄牙の植民地を建設する爲め、印度に向つて阿弗利加の西海岸に沿ひて航海中、當時尙世に知られ居らざりし赤道潮流に押流され、偶然伯刺西爾の北部海岸に近づき、先づアイモレー山脈中の一峯を認め、恰も其の日が復活祭の第八日であつたから、之をバスコアル山と名づけ、翌日一行中のアツフランソ・ローベスは一港を發見して之にポルト・セグーロ(安全港)と名づけ、カブラル之に上陸し葡萄牙國王の名に於て附近一帯の地を占領した、これは同年四月廿二日のことであつたが、其後千五百八十二年に至りジュリアン厓を廢しグレゴリアン厓を採用した結果、新厓に改算すれば五月三日となるのである。尤も西班牙の航海家ピセンテ・ヤーチス・ビンソンは之より數箇月前伯刺西爾の北岸南緯八度の邊に在るサント・アゴスチーニョ岬に來り、沿岸を巡航してアマゾン河口を横ざり、其の海水の甘きに驚き其の附近を淡水海と命名し、續いてビンソンの同國人デイエゴ・デ・レッツベも千五百年中伯刺西爾の北部海岸に上陸し之を占領せしも西班牙人は公然之を公表することが遅かつた爲め、伯刺西爾發見の名譽は遂にカブラルに歸した。

而して最初カブラルが發見した時には之にテーラ・デ・ベラ・クルース(眞十字架の地)といふ名稱を與へ

たが、後に至りてテーラ・デ・サンタ・クルース(聖十字架の地)と改められた。其の後の古い地圖には「鵝の地」、「伯刺西爾の地」など記され遂に一般に之を伯刺西爾と呼ぶやうになつたのである。而して此の伯刺西爾なる稱呼は、亞米利加大陸發見後この地方から盛に歐羅巴に向け輸送され、専ら染料に供せられた所の伯刺西爾木(荳科に屬し土語で *Tirapitanga*、學名を *coccoloba echinata* と呼び譯して蘇方木といふ)から起つたもので、炭火色の染料用木を産する國といふ意義である。

(ロ) 植民地、獨立帝國、共和國

發見以來今日に至る四百二十有餘年間の伯刺西爾歴史は、之を葡萄牙植民地時代、獨立帝政時代及共和政時代の三に分ち、更に植民地時代を三期に、又帝政時代を二期に區分することが出来る。之を表記すれば左の通りである。

- (一) 葡萄牙植民地時代 (自一五〇〇年—明應九年)
 - 第一期 アッズ朝 (自一五〇〇年—文政五年)
 - 第二期 ハブスブルグ・アラゴン朝 (自一五八一年—三百二十二年間)
 - 第三期 ブラガンサ朝 (自一六四〇年—八十二年間)
- (二) 獨立帝政時代 (自一八二二年—文政五年)
 - 第一期 ドン・ペドロ 第一世治期 (自一八二二年—六十七年間)
 - 第二期 ドン・ペドロ 第二世治期 (自一八三一年—九年間)
 - 第三期 (自一八三一年—五十八年間)

(三) 共和政時代 (自一八八九年—現今)

葡萄牙政府はカブラルの新天地發見の報を得て後、千五百一年、千五百三年及千五百五年の三回に亘り大規模の探險隊を送り、専ら内地の富源を調査させたが未だ植民を實行するには至らなかつた。

千五百三十一年に至り、葡萄牙政府の派遣せるマルチン・アッフアンソ・デ・ソウザは艦隊及四百名の植民者を率ゐてバイヤに上陸し、其の翌年南方にサン・ヴィセンテ植民地を創設し、漸次南下してラブラタ河邊までを探險した。尋いて葡萄牙王ドン・ジョアン第三世は伯刺西爾植民獎勵の策を立て、千五百三十四年之を八個の「カピタニヤ」と稱する領地に分ち、封建制度に倣ひ世襲として之を功臣に賦與した。斯くて此の制度により、新植民地の開拓は稍々見るべきものがあつたけれども、領主は各暴慢に流れ且外敵防禦の必要上勢ひ植民地を總轄する中央政廳を設置すべき必要が生じたから、千五百四十九年葡萄牙政府はバイヤに植民地政府を置き、トメー・デ・ソウザを總督に任命した。

爾後凡百年間は總督時代であつて、此の期間に於ける顯著なる事跡は、千五百六十七年一月二十日總督メロン・デ・サーが南部地に侵入蟠居せる佛國人を擊攘してリオ・デ・ジャチイロ市を建設したこと、千五百七十三年伯刺西爾を南北の二政府に分割してリオ・デ・ジャチイロ市を南方伯刺西爾政廳の所在地と定め、千五百七十七年に至り之を復舊して一政府としたこと、千五百八十年西班牙王フェリツペ第二世が葡萄牙を征服し之を西班牙に併合した結果伯刺西爾は一時西班牙領土となつたこと、千五百九十一年より約十年間英人及蘭人が伯刺西爾海岸に出沒して屢々侵襲、掠奪を行ふたこと、千六百八年再び南北の二政府に分ちたるも千六百十六年又々之を合したこと、千六百四十年十二月一日葡萄牙が西班牙から分離獨立した結果伯刺西爾は再び葡萄牙領となつたこと、蘭人の侵入に對抗して屢々奇捷を奏したこと等である。

千六百四十年伯刺西爾を太守國と爲しリオ・デ・ジャネイロを以て其の駐在地と定め、第一代の太守としてトールの伯爵ドン・フェルナンド・デ・マスカレニャスを任命した。併し爾來絶えず太守が在任した譯ではなく、前任太守と後任太守との間に總督が執政した年も少くない。

此の時代より奴隷問題が漸く喧しくなつた。當時の高僧アンキエタの記述せる所に據れば、千五百八十五年に於ける伯刺西爾の各植民地在住の白人は凡二萬五千人に達し、其の使用せる奴隷は阿弗利加より輸入した黑人一萬三千、歸順せる印甸人凡一萬九千に及んだ。而して此の奴隷問題に關し植民者と「ジェスイット」派の僧侶の間に屢々抗争が起り、植民者は印甸人を捕へて之を奴隷にして使はんとし、僧侶は印甸人を保護せんとし、その確執連年止まなかつたが、千七百五十九年に至り禁令を發し、印甸人を奴隷として賣買することを廢止した。併しながら印甸人に代るべき阿弗利加黒奴の輸入は益々盛であつて、千七百九十八年には八十萬人の白人に對して百五十萬人即ち殆ど倍數の黒奴があつたが、時勢の推移に伴ひ文明諸國の間に奴隷廢止の議論漸く旺盛となり、米國は南北戦争までして其の目的を貫き、佛國は千七百九十二年八月十一日の國民大會に於て奴隷貿易は自由主義に反すと宣言し、殊に英國が奴隷貿易廢止を双肩に擔ふて起つに及び、伯刺西爾の獨立後間もなく、千八百二十六年十一月廿六日英伯兩國間に奴隷貿易廢止條約を締結した。然るに此の條約は忠實に履行せられず、諸外國人、就中葡萄牙人中に依然奴隷交易を行ふ者が絶えなかつたが、伯刺西爾は千八百五十年九月の法律を以て更に之を嚴禁し、其の後二年にして伯刺西爾への奴隷輸入を全廢せしむることが出來た。續いて起つたのは奴隷解放の叫びであつて、最初は帝政時代に憲法を制定するに當り、其の草案第二百五十四條に漸次黒奴を解放して之に宗教及實業上の教育を施すといふ箇條を見たに過ぎなかつたが、時既に米國の奴隷解放後一世紀を経た事として、伯刺西爾にはベルデイゴン・マレイロス、タ

ヴァーレス・バストス、ジョアキン・ナブコ、ルイ・バルボザ等の有識者輩出して、或は議會に於て、或は新聞著者等を以て大に輿論を喚起し、之が動機となつてルイス・ガマ、フェレイラ・デ・メネーゼス、ジョゼ・ド・バトロシニオ、アントニオ・ペント、ジョアン・コルデイロの徒出で盛に運動した結果、遂に攝政イザベル内親王の裁可を得て、千八百八十八年五月十三日に奴隷全廢が布告さるゝに至つた。

次に伯刺西爾獨立の嗚聲が初めて擧つたのは千七百八十九年のことである。當時佛國革命及米國獨立戰爭の餘波は、著しく伯刺西爾人の愛國的精神を挑發し、若し之に一片の導火を投じたならば、如何なる爆發を見るやも計るべからざる状態に迫つた。之より先き葡萄牙國コイムブラに留學せる伯刺西爾學生の一團は死を賭して伯刺西爾自由の味方たらんことを盟ひ、其の一人たるジョゼ・ジョアキン・ダ・マイヤは巴里駐劄の米國公使トーマス・ジェファートソンに面會し若くは書面を以て伯刺西爾獨立の爲に米國の援助を借らんことを懇請した。又學生の領袖たるジョゼ・アルヴェス・マシエールは伯刺西爾に歸り、其の出身地ミナスジェラエスの人民が苛租重税に苦しめられ不平滿々たるに乗じ、之を煽動して獨立の大業を企畫したけれども不幸にして事敗れ、其の黨類多くは一旦死刑の宣告を受け、後に減刑の恩典に浴したが、齒拔師を業として居つた一勇士ジョアキン・ジョゼ・ダ・シルヴァ・シャヰイェールのみは、罪を一身に引受け絞殺の刑に處せられた上、屍體を四つ截りにして梟首された。此の獨立先驅者中の最大の犠牲者たる齒技師の芳名は永く伯刺西爾の青史に輝き、後百年を経て今の共和政體を樹立したる革命の萌芽を胚胎せしめた。

千八百七十七年佛國ナポレオンの大兵葡萄牙國に臨むに當り、當時女王ドナ・マリヤ第一世の攝政たりし王子ドン・ジョアンは到底之に抗する能はざるを知り、王族を擧げて難を伯刺西爾に避け、千八百八十八年三月七日リオ・デ・ジャネイロに到着し、一時之を葡萄牙王國の首都となすこととなつた。越へて千八百八十五年十二

月に至り攝政ドン・ジョアンは葡萄牙、伯刺西爾及アルガルヴェス聯合王國の攝政なりと布告して、伯刺西爾を王國と爲し、翌年三月二十四日女王ドナ・マリヤ第一世崩御するや、攝政はドン・ジョアン第六世と稱して王位を繼いだが、盛大なる即位式を挙げたのは、二年後の千八百十八年二月五日のことであつた。

斯くして葡萄牙朝廷が一時伯刺西爾に移つた結果として、直に伯刺西爾の港を開放して貿易を自由とし、盛に産業を奨励し、印刷所、兵器廠等を設け、續いて國有圖書館を建て税關を設くる等、伯刺西爾文化の上貢献する所多大なるものがあつた。併しながら此の朝廷の移轉は、葡萄牙本國と植民地伯刺西爾との關係上主客顛倒の觀を呈したのみならず、殊に伯刺西爾諸港開放の影響として著しく葡萄牙國の商工業を阻害したから葡萄牙の不平漸く高まり來り、而して一面ナポレオン戦争既に終結を告げ、西班牙、伊太利の兩國各々立憲政府を樹立するに當り、葡萄牙人も亦その例に倣はんとし、旁國王の歸國を要求した。然るは他の一方に於て伯刺西爾人は、國王の歸國は必ずや植民地に不利を齎すべきを慮りて之を喜ばず、双方の反目軋轢其の極に達したが、其の間に挟まれたるドン・ジョアン王は頗る優柔不斷にして朝に甲に傾き夕に乙に靡き常に戦々兢兢として容易に決せず、遂に其の子ドン・ペドロを攝政の位に定め、留つて伯刺西爾を統治せしめ、王は千八百二十一年四月二十一日リオ・デ・ジャネイロより乗船し、遂に葡萄牙に歸つた。

時にドン・ペドロ親王は年齢纔に二十三の青年であつたから、伯刺西爾内の保守派は攝政の年少なるに乘じて一意母國の利益を増進せんことを圖り、伯刺西爾の幸福となるべき自由的施設には事々物々反對し、且葡萄牙政府は種々の奸策を弄して漸次伯刺西爾の政權を奪ふて其の手中に收めんとし、尙伯刺西爾の財政をして益々窮乏に陥らしむる處置を執るのみで之を救ふの道を講せず、遂に暴戾なる二法令を發するに至つた。即ち其の一つは伯刺西爾に假政府を置いて既往の植民地制度を復興すること、其の二はドン・ペドロ親

王を葡萄牙に召還することであつた。是に於て葡萄牙本國の態度に慊焉たらざりし伯刺西爾は齊しく起つて大に決する所あらんとし、攝政ドン・ペドロも亦人民の冀望を容れて伯刺西爾に留まる旨を公言したのは千八百二十二年一月九日(此日を「余は留まる」の日として記念する)であつた。同じ年の九月七日ドン・ペドロ親王はミナス・ジエラエスよりの歸途サンパウロのイビランガといふ小川の岸邊に於て、葡萄牙朝廷からの誹謗的公文を讀んで大に憤慨し「獨立か然らざれば死あるのみ」と叫んで伯刺西爾の獨立を宣言し、十月十二日の自身の誕生日に伯刺西爾帝國を宣し、十二月一日嚴肅なる戴冠式を行ひ、ドン・ペドロ第一世の稱號を以て伯刺西爾の帝位に即いた。

ドン・ペドロ第一世の帝位に上るや、初めは頗る人望を博したけれども其の素行修らざりしと、其の施政が保守的であつたのと、其の内閣の更迭が頻繁であつた等の事實に依り、漸次民意を失ひ内治甚しく困難に陥つたから、遂に千八百三十一年位を其の子ドン・ペドロ第二世に譲りて葡萄牙に歸り、後その女ドナ・マリヤが葡萄牙女王に擁立せらるゝを見るに及んで崩御した。

ドン・ペドロ第二世は齡僅に五歳にして帝位に即いたのであるから、千八百三十一年四月七日から千八百四十年七月二十三日迄攝政を置き、最初の三年間は三名の攝政があり、其の後は一人の攝政となつたが中途に一度更迭があつた。ドン・ペドロ第二世の即位後、國內漸く政黨の簇生を來し、内治益困難を加へ、諸所内亂起りて絶えざること十年の久しきに及んだ。尋いで伯刺西爾、亞爾然丁及ウルグワイの三國同盟してバラグワイを攻め南米史上稀有の大戦争となり、千八百六十五年から千八百七十年まで前後六年間繼續し、此の間皇帝親しく聯合軍を統督して水陸共に大に伯刺西爾の武威を發揚した。

皇帝ドン・ペドロ第二世は頗る賢明なる良君であつたけれども、晩年に及び身心衰弱して自ら政務を視る

こと能はざるに至り、皇嗣マリヤ内親王を攝政とし、次いで位を之に譲らうとしたが、人民甚だ之を喜ばず且内親王の配遇者エウ伯も亦民望を失ひ、帝政に對する嫌怨頓に高まつて來た。是に於て共和黨は革命の時機熟せりとし、平常薄給の爲政府を怨嗟せる海陸軍人を籠絡使嗾し、該黨員は千八百八十九年十一月十五日革命を起し、時を閱する僅に二十四時間、一滴の血をも流さずして首尾能く其の目的を遂げ、皇帝及皇族に國外退去を迫つた。皇帝は革命勃發の當時ペトロポリス市の離宮に在つて總理大臣より電報に接し、急遽リオ・デ・ジャチイロの帝宮に歸り、革命黨の要求を容れて此の怨色なく翌日一族を率ゐて英國汽船アラゴアス號に搭じて葡萄牙に去つた。斯くして伯刺西爾の革命は及に軋らずして成り、且この政變の爲め國內の秩序一絲亂れざりしは確に伯刺西爾史上の一大光輝といふべく、革命黨は直に陸軍大將デオドロ・ダ・ファンセカを擧げて共和假政府の首長とし、千八百九十一年二月二十四日を以て聯邦憲法を採用すると同時にファンセカ將軍を第一期大統領に選舉した。

(ハ) 歴代の大統領及其の治蹟

千八百八十九年十一月十五日共和政體樹立後に於ける伯國歴代の大統領及其の代理者は左表の如くで

假政府時代	(自一八八九年十一月十五日 至一八八九年十一月二十二日)	陸軍大將 マノエル・デオドロ・ダ・ファンセカ
第一期	(自一八八九年十一月二十二日 至一八八九年十一月三十日)	同 上
同代理期	(自一八八九年十一月三十日 至一八八九年十一月十五日)	副大統領 陸軍大將 フロリャノ・ベイシヨート
第二期	(自一八八九年十一月十五日 至一八八九年十一月十五日)	ドクトル・ブルデンテ・ジョゼー・デ・モラエス・イ・バルロス

第三期	(自一八八九年十一月十五日 至一九〇二年十一月十五日)	ドクトル・マノエル・フェーラス・デ・カンボス・サーレス
第四期	(自一九〇二年十一月十五日 至一九〇六年十一月十五日)	ドクトル・フランシスコ・デ・パウラ・ロドリゲス・アルヴェス
第五期	(自一九〇六年十一月十五日 至一九〇九年六月十四日)	ドクトル・アウグスト・モレイラ・ペンナ
同 殘 期	(自一九〇九年六月十四日 至一九〇九年十一月十五日)	副大統領 ドクトル・ニコ・ベサニヤ
第六期	(自一九〇九年十一月十五日 至一九一四年十一月十五日)	陸軍大將 エルメス・ロドリゲス・ダ・ファンセカ
第七期	(自一九一四年十一月十五日 至一九一八年十一月十五日)	ドクトル・ウエンセスラウ・ブラーリス・ペレイラ・ゴームス
第八期	(自一九一八年十一月十五日 至一九二二年十一月十五日)	ドクトル・フランシスコ・デ・パウラ・ロドリゲス・アルヴェス (就任せずして逝去す)
同代理期	(自一九一八年十一月十五日 至一九一九年七月二十八日)	副大統領 ドクトル・デルフィン・モレーラ
同 殘 期	(自一九一九年七月二十八日 至一九二二年十一月十五日)	ドクトル・エビタシオ・ベッソア

尙各大統領及其の代理者の治蹟の概要を記せば次の如くである。

共和政府宣言せらるゝや、曩に帝政時代にバラグワイ戦争に於ける偉勳功勞に依り最も人望を博したる、陸軍大將デオドロ・ダ・ファンセカ自ら假政府の首長となり、千八百九十年憲法制定會議開かるゝや、第一期の大統領及副大統領は國會之を選舉すべしとの決議に基き、國會は千八百九十四年十一月十五日を以て終了すべき第一憲法期の大統領及副大統領としてデオドロ・ダ・ファンセカ將軍及陸軍大將フロリャノ・ベイシヨートを選舉した。

然るに大統領デオドロ・ファンセカ大將は、就職後憲法違反の所爲多かりし爲め、忽ち議會と衝突し、その結果將軍は議會の解散を命じ且首府リオ・デ・ジャチイロ及其の附近に戒嚴令を布いたから、之に對しリオ・グランデ・ド・スール州及其他の地方に激烈なる反對運動起り、他の一方に於て海軍々人は國會議員と氣脈を通じて、千八百九十一年十一月二十三日海軍少將クストディオ・ジョゼ・デ・メロの指揮の下に艦隊を擧げて大統領に反抗したので、將軍は即日大統領の職を辭し、執政を副大統領の手中に委するの餘儀なきに至つた。

副大統領フロリャノ・ベイショート將軍は、就職後直に議會解散令及戒嚴令を撤廢するに至れど、元來前任者と同じく武斷派の人であつて、陸軍の勢力を藉りて其の地位を維持せんと企て、專横壓制の處置多く、且財政及經濟上の大變化が進展しつゝある間に、一大恐慌が襲來した爲め、偶此の一事が政治的不平の火中に油を注いだこととなり、國內諸所に動亂起り、就中上記のクストディオ・デ・メロ提督は千八百九十三年九月六日その旗艦「アキダバン」に反旗を掲げ伯刺西爾の軍艦全部を率ひて再び政府に反抗したが、翌年四月力竭きて降伏した。従て此の副大統領の任期中は、内亂及騷擾續發の状態であつて、後に至り漸く之を鎮定することを得たれど、國會議員の勢力尙盛なりしリオ・グランデ・ド・スール州の内亂は、遂に其の任期中に之を平定することが出来なかつた。

第二期大統領ブルデンテ・モラエスは伯刺西爾最初の文治派大統領として、先づリオ・グランデ・ド・スール州の内亂鎮定に成功し、全國の秩序を回復すると共に産業の發達を計り、又幾多の國際問題を解決して外國に對する伯刺西爾の威信を維持するに努め、就中トウリンダーデ島所屬問題及アマバー・ミツソエス兩地方の境界問題を處理して、伯刺西爾の爲に大約三十萬方基米突の地域に對する領土權を確保した。然れども當時政治的感情尙熾烈なるものあるを免れなかつた。殊に北部ベルナンブコ州生れのアントニオ・マシエー

ルと呼ぶ一種の狂信的人物を首魁とせる暴徒がバイヤより約四百哩の内地カストゥスに起つて正當官憲に反抗するあり、之を征伐する爲め數回に亘りて合計一萬三千の出兵をするなどの事件があつて、充分に其の行政的手腕を揮ふことが出来なかつたけれども、其の強き義務心と清廉潔白なる心事を以て専ら國事に奉じたのは何人も認むる所である。尙モラエス大統領は政治的隱謀の爲め千八百九十七年十一月五日一兵卒に狙撃せられたが幸運にも其の犠牲となることを免れ、其の場に居合せた陸軍長官の方が却つて兇行者の爲めに刺された。

第三期の大統領カンボス・サレスは前任者と同じくサンパウロ州の出身であつて、就任後、心を專にして内亂と恐慌の爲に紊亂せる財政を整理し且外國に對する伯刺西爾の信用を回復するに努め、此の目的を達成する爲、大統領に選舉され未だ就職せざる間に歐洲に赴きて、外債の利子を正貨を以て支拂ふ代りに別の公債證書を以てする方法を協定し、且巨額の紙幣を回収して之を焼却することとした。又伯刺西爾新民法の編纂を主唱して之に着手せしめたなども其の功績の一端である。

第四期大統領ロドリゲス・アルヴェスも亦サンパウロ州出身の政治家である。前任者の施政方針を踏襲して財政の整理及經濟的發展を圖ると同時に、首府の衛生工事を起して之を全然健康地と變せしめ、大規模の築港を行ひ、中央廣小路の開通を完成せしむる外、尙市の美觀を増さしめ、又接壤諸國との境界を平和的に徐々劃定し、千九百三年十一月十七日ポルヴィヤ國との間にベトロポリス條約を締結して廣大なるアクレ直轄州を獲得し、秘露國との取極を以てアクレ州の一部及アマゾナス州の大地域を得、エクワドル及蘭領ギヤナとの劃境條約を結び、海牙に於ける第二回平和會議に參同し又リオ・デ・ジャチイロ市に第三回全米會議の開催を見たる等、國際關係に於ける伯刺西爾の地位を高めた事決して尠少でない。首府の改良を斷行す

るに當り一時頑迷なる人民の反對を買ひ、大統領の身邊に危険の虞ありしが爲、灣内碇泊の軍艦に避難を勧められた時、『予の場所は此處なり』と答へ毅然として大統領官邸カテテ宮に留まつたのは、此の大政治家の逸事の一である。

第五期大統領アツファンソ・ペナはミナス・ジェラエス州の出身である。在任中幣制を改革して其の基礎を一層鞏固たらしむる爲、兌換局を創設し、移植民の誘入及交通の發達を圖り、伯刺西爾の港を外國貿易の爲開放した第百年を記念する爲、千九百八年リオ・デ・ジャネイロ市に内國博覽會を開催する等、施政者としての技倆を發揮しつゝあつたが、惜いかな任期中途に於て千九百九年六月十四日病歿した。

從て其の殘期一年五箇月間は、副大統領ニコ・ペサニヤ氏が大統領として執政した。氏はリオデジャネイロ州出身の壯年政治家で曩に同州の知事たりしことがある。其の執政期の短か、つたに拘らず、治績大に見るべきものがあつた。

第六期の大統領エルメス・ダ・ファンセカ將軍は、第一期大統領デオドッ・ダ・ファンセカ將軍の甥でリオグランデ・ド・スール州の出身である。前期大統領アツファンソ・ペナの内閣に陸軍長官となつて居つたが、武斷派の大統領候補に立つ爲その職を辭し、文治派の候補者ルイ・バルボザ氏に勝つて當選した。就職後間もなく海軍暴動や海軍陸戰隊兵團の一揆があつたけれども、其の治績は頗る見るべきものがあつた。

第七期の大統領ウエンセスラウ・ブラースはミナスジェラエス州出身の温好廉潔なる政治家である。前任者の期末に國費膨脹と經濟的恐慌の爲に擾亂された財政の整理に熱心盡瘁し、政費節約を斷行した。伯刺西爾が先づ獨逸と斷交し、續いて宣戰を布告して聯合國に加擔し、聯合國側に對する物資供給を以て伯刺西爾の任務なりとし、盛に生産獎勵の方法を講じ、國外に對しては伯刺西爾の國際上の地位を著しく高めたのは

其の執政中の事である。

第八期間の國政を總攬すべく再び大統領として選舉された元老政治家ロドリゲス・アルヴェスは就任期の以前より病氣に罹り、千九百十八年十一月十五日の就任宣誓式にすら出席することが出来なかつたから、任期の劈頭から副大統領デルフィン・モレイラが大統領として就職した。モレイラはミナスジェラエス州の出身で曾て同州の知事となつたことがある。翌年七月二十八日まで九箇月足らず國政を總理したが、ロドリゲス・アルヴェス大統領は千九百十九年一月十六日、モレイラ副大統領は千九百二十年七月一日いづれも病歿した。

ロドリゲス・アルヴェス大統領が任期の前半に歿した爲、その殘餘期に對して新に大統領を選舉することとなり、千九百十九年三月の選舉に於て、現大統領エビタシオ・ベツツア氏が當選した。氏は北方の一州パラíbaの出身であつて、レシフェ法科大學卒業後間もなくベルナンブゴ州ボンジャルデイン及カポの檢事に任せられたが、共和政府成立後パラíba州政府の總務長官となり、法律家として特に重せられた結果、レシフェ法科大學の教授に任せられ、二十六歳の時第一期聯邦議會に於ける自州選出の下院議員となり、千九百九十二年議會に於て政府攻撃演説をなし、之が爲次の選舉に落選し、一旦レシフェ大學教授の職に復したが、齡三十三歳に満たざるに第三期大統領カンボス・サレスの執政中三年間司法内務長官となり、後千九百一一年に至り大審院判事に擧げられ、共和國檢事總長の任に當り、その在職中全米法律會議に提出さるべき成文國際公法草案を起稿した。その後病氣の故を以て大審院判事を辭したが、靜養後聯邦上院議員に選ばれ、講和會議に於ける伯刺西爾の全權委員長として巴里に滞在し、大統領候補に推されて當選し、歐洲諸國及北米合衆國を歴訪して歸國の上、千九百十九年七月二十八日を以て共和國大統領の職に就いた。その内閣を組

織するに當り陸軍及海軍長官を執れも文官としたこと、その任期中白耳義皇帝及皇后兩陛下の伯刺西爾訪問があつたこと、氏が専心財政整理に心を傾け政費節減を行へること、同時に生産業及交通の發達を奨励する方針を執つたことなどは、其の在任中の顯著なる事蹟の一斑である。

一、伯國地理の概要

(イ) 位置、公定及時差

伯刺西爾國の地學上の位置は北緯五度九分四十秒に起つて南緯三十三度四十五分に至り、グリーンヰッチ西經三十四度四十七分四十秒に始まり同七十四度五分三十二秒に終る。

千九百十三年六月十八日の法律第二千七百八十四號及同年十一月五日の大統領令を以て公定時の制を設け翌千九百十四年一月一日以降グリーンヰッチ西經を基礎として全國を東より西に四分し、第一區はグリーンヰッチ標準時より二時間を減じたもの、第二區は同じく三時間、第三區は同じく四時間、第四區は同じく五時間を減じたるものを以て公定時とした。

而して第一區は大西洋中に位するフェルナンド・デ・ノロニヤ群島及トウリニダツド島を含み、第二區は沿海諸州と内部諸州(但しマトグロツソ及アマゾナス二州を除く)とパラ州の東部を含み、第三區はパラ州の西部マトグロツソ全州及アマゾナス州の東部を含み、第四區はアマゾナス州の西部とアクレ直轄州である。首府リオ・デ・ジャチイロ市は南緯二十二度五十三分五十一秒、西經四十三度七分六秒に位し、第二區域内に含まれて居るから、其の公定時はグリーンヰッチと三時間の差があつて、倫敦の正午はリオ・デ・ジャチ

イロ市の午前九時である。又東京との時差は正に十二時間である。

尙伯刺西爾國は上記グリーンヰッチを基本とする標準時採用と同時に一日二十四時間制を採用したから、公文書などに時間を記す場合には午前午後の稱を用ひず、午接一時、二時と呼ぶ代りに之を十三時十四時と稱へ以下順次に數へて夜半の第二十四時に終らしむることとした。

(ロ) 境界及面積

伯刺西爾は智利、エクワドル及パナマの三國を除いた南米各國と其の境界を接して居る。即ち北は佛蘭英三國分領のギアナ並にヴェネズエラ及コロンビヤの二共和國、西は秘露、ボリヰイヤ、パラグワイ及亞爾然丁共和國の四箇國、南はウルグワイ共和國に連り、東は茫々たる大西洋に面して居る。

隣接諸國との境界は、半世紀以前に在りては一も確定して居らず、屢々紛議葛藤を生じたが、帝政時代に千八百七十二年一月九日の條約を以てパラグワイ國との境界を明確にしたのを手始めに共和政府となつてから爾餘の境界問題解決に努め、或は直接談判により或は仲裁々判に訴へて逐次之を落着せしめた。

次に伯刺西爾國の面積に關しては其領域著しく廣大にして未だ精確なる調査が出来て居らぬから幾多の異説があつて必ずしも一定して居らない。即ち方哩を以て其の面積を示せる數字には

英文政治年鑑(舊版)

三、二一八、九九一

ウイテカー「アルマナック」(一)

三、二二〇、〇〇〇

英文政治年鑑(一九二二年版)

三、二七五、五一〇

ワイルマン著伯國年鑑

三、二九一、四一六

パンアメリカンウニオン發行伯國要覽

ウイテカー「アルマナック」(一一)

パレー著南部伯國

ウインター著「今日の伯國及其人民」

三、二九二、〇〇〇

三、二九八、八七〇

三、二二九、三六五

三、三三二、三七〇

等があるけれども、要するに大同小異である。

伯刺西爾が如何に大國であるかといふ概念を得んとすれば上記の如き數字を駢列するよりも、寧ろ左の如き簡單明瞭なる比較法に依るのが得策であらう。

伯刺西爾の面積は地球上の陸地總面積(五千五百五十萬方哩)の凡十五分の一に當り、亞米利加大陸(千四百八十萬方哩)の五分の一以上、南米大陸(六百八十萬方哩)の約半分に匹敵する。

之を我が國と比較するときは、臺灣、朝鮮、樺太等の屬領地を含める日本全帝國の十三倍半を超へ、又帝國より此等屬領地を除きたるもの、二十二倍餘に當る。又國中最大の一州アマゾナスは日本本土の約五倍、之に亞ぎて廣大なるマトグロソ州は同じく三倍半有餘、パラ州は約三倍、ミナス・ジェラエス州は約一倍半に相當し、マラニオン、バイヤー州は日本本土よりも稍々大きく、サンパウロ州は稍々小さい。アマゾン河口に近き大河中のマラジョー島すら其の長さ百七十一哩半、幅百八哩であつて、其の面積は我が九州に比べては稍小なれど、白耳義若くは和蘭よりも廣大であるといふことを知らば思ひ半ばに過ぐるであらう。

(ハ) 地 勢

伯刺西爾の地勢は、土地の高低より見て之を高原地方及平野地方の二に大別し、更に後者をアマゾン平野

及ラブラタ河系方面の平野に區分することが出来る。

北方に於ける起點に關して異説があるけれども、兎に角海岸に沿ふて國の南方に及んで居る長き一條の山脈がある。之を總稱して海岸山脈と呼んで居るが、諸所に於て部分的の稱呼を有し、北の方リオ・グランデ・ド・ノルテ及バイライバ二州を貫通する部分はボルボレマ連山と稱へられ、リオ・デ・ジャネイロ州を通過するときはオルガン連山と呼ばれて居る。而して此の海岸山脈は北方の幾分を除き其の他は概して海岸に向つて急勾配を以て聳立し、内方に向つては緩傾斜を爲し、以て山脈以奥に甚だ廣濶なる高原を形成する。此の高原は最高所に於て標高凡五千尺、最低所に於いて同じく二千尺内外であつて、其の廣さは全國總面積の半ばに達する。

又この海岸山脈と海岸との中間に位する、所謂海岸の平低地は北部に於ては幅稍濶く、ボルボレマ平原の如きは其の一例であるが、國の中部及南部に於ては其の地幅狹隘となり、首府リオ・デ・ジャネイロ市及サントス港附近の如きは其の顯著なる例である。尚サンパウロ州以南に於ては、此の山脈を横斷する河流は一もなく、一方は直に海岸に向つて流れ、他方即ち此の山脈の内側に發源する河川は總て内奥に向つて流れ、結局ラブラタ河に注ぐのである。

アマゾン平野は玆にアマゾン平野と言ふのは當にアマゾン大河の本流及支流のみならず、トカンチンス河をも併せた所謂アマゾン河系に屬する廣大なる一帯の平低地を指すのであつて、アマゾナス州の全部及パラ、マラニオン二州の大部分を含み、其の面積八十萬方哩で殆ど伯刺西爾全國の面積の四分の一に匹敵する。此の廣大なる地域は到る處樹木翁鬱たる密林であつて、人跡絶えて印せず、斧鉞未だ加はらざる地が多い。又この平原はギアナ方面に於て海拔四百尺、最高きマトグロソ州方面に於て海拔一千尺足らずであつて、

之に大小幾百千の河川が蜿蜒として流れて居るのであるから、完全なる岸なしと言はれて居る本流の如きは、一度び雨期に入れば、河水は汎濫して兩岸數十哩の地を化して一面の濁海たらしめ、獨木舟は深林中の樹間を漕ぎ抜けて往來するといふ奇觀を呈する。

ラブラタ河系方面の平野—高原地方の南方傾斜及南部に於ける海岸山脈の内側から流下する水は、合してバラグワイ、バラナー及ウルグワイの三大河となり、前の二大河は合してラブラタ河となり、ウルグワイ河も亦下流に於てラブラタ河に注ぐから、此等三大河の流域に屬する平野を便宜上ラブラタ河系方面の平野と名づくる。その面積は可なり廣大であるけれども、正確なる數字を以て之を示すことは出来ぬ。

(二) 地 質

地勢上から見て伯刺西爾の中樞はマトグロッソ州の中央部高地であつて、此所から土地は北と南とに向つて傾斜し、北方傾斜に沿ふて落つる水は右岸よりアマゾン大河に注ぎ、南方傾斜を流下する河水はバラグワイ河に合する。而して此の高地の東にエスピニャソ山脈、その次ぎにマンチケイラ山脈、更に其の東に海岸と並行して長く南北に連亘せる海岸山脈がある。

アマゾン上流地方の地質は第三紀系統で、主として水平であるが、其の下流地方に至れば第四紀系統である。

アクレ直轄州、マトグロッソ州西方の大部分及ゴヤス州は未だ曾て適當なる地質調査を行つたことはないが、今日まで研究された所を綜合すれば、この地方に最も多き岩は太古代のものである。

アマゾン大河の北方及東北に連れる山塊全部は、主部伯刺西爾の地質系統から全く別離して居る。

サンフランシスコ河は、中央高地の東界をなして連亘せる海岸山脈の爲に遮られて、直に大西洋に流出することが出来ぬから止むを得ず數百里の間、北及東北に向つて無理やりに推進むが、一旦その出口を發見するや、廣き峡谷に沿ふてパウロ・アフチソン瀑布となつて、一層低き地に直下する。この瀑布を成せる部分は片麻岩質及花崗岩質構造の斷口若くは節理を無理に押開いたもので、瀑下に至れば河の兩側には、紫色の閃長岩の高き絶壁が聳ち、深き峡谷を成して居る。又この河は中流地方に於ては兩側の斷崖は主として石灰岩であるが、夫れより遡つてピラボラより上流及ダス・ヴェリヤス河の合流點に至れば再び砂岩が多くなる。パウロ・アフチソン瀑布より河口に近きベチドまでも亦同様である。

海岸に於てはアブロリョス諸島から北方に向つて、バイヤの近傍及セルジーベは、白堊質の低丘より成り、夫れよりバライバまで連続して一線を成して居る。此等の岩は水成岩であるが、中央高地は概して結晶質の要素(花崗岩、片麻岩及片岩)から成立つて居る。石灰岩はジャコピナ附近に於て發見され、バイヤ州に於けるデイヤマンチナ低丘の大部分は新しき赤色の砂岩より成り、此の岩の露頭はアマゾン下流地方及ビヤウイーにも、白堊紀の化石せる魚類を含める石灰質の團塊及閃綠岩斑岩等の貫入せる岩脈が散見する。

マトグロッソ州に於ては、高地に發源する諸川は砂質の片岩の上を流れ、デイヤマンチノの近傍には泥盆紀の砂岩成層の上に玄武岩の露頭がある。バラグワイ河上流地方の流域に發見せらるる岩の種類は、ポルトムルティンニョに於ては透輝石閃長岩、バンデアスーカルに於ては響岩、フチャイト(岩)等、コイムブラに於ては石英結晶、紫水晶、黃水晶等を含む晶簇を有する石灰岩であり、ウルクンに於ては鐵及滿掩が發見され、コルンバーには石灰岩の斷崖がある。カーセレスに於ては「カンガ」(鐵の膠結せる蠻岩)及輝綠岩及この河の上流地方では砂岩輝綠岩等である。

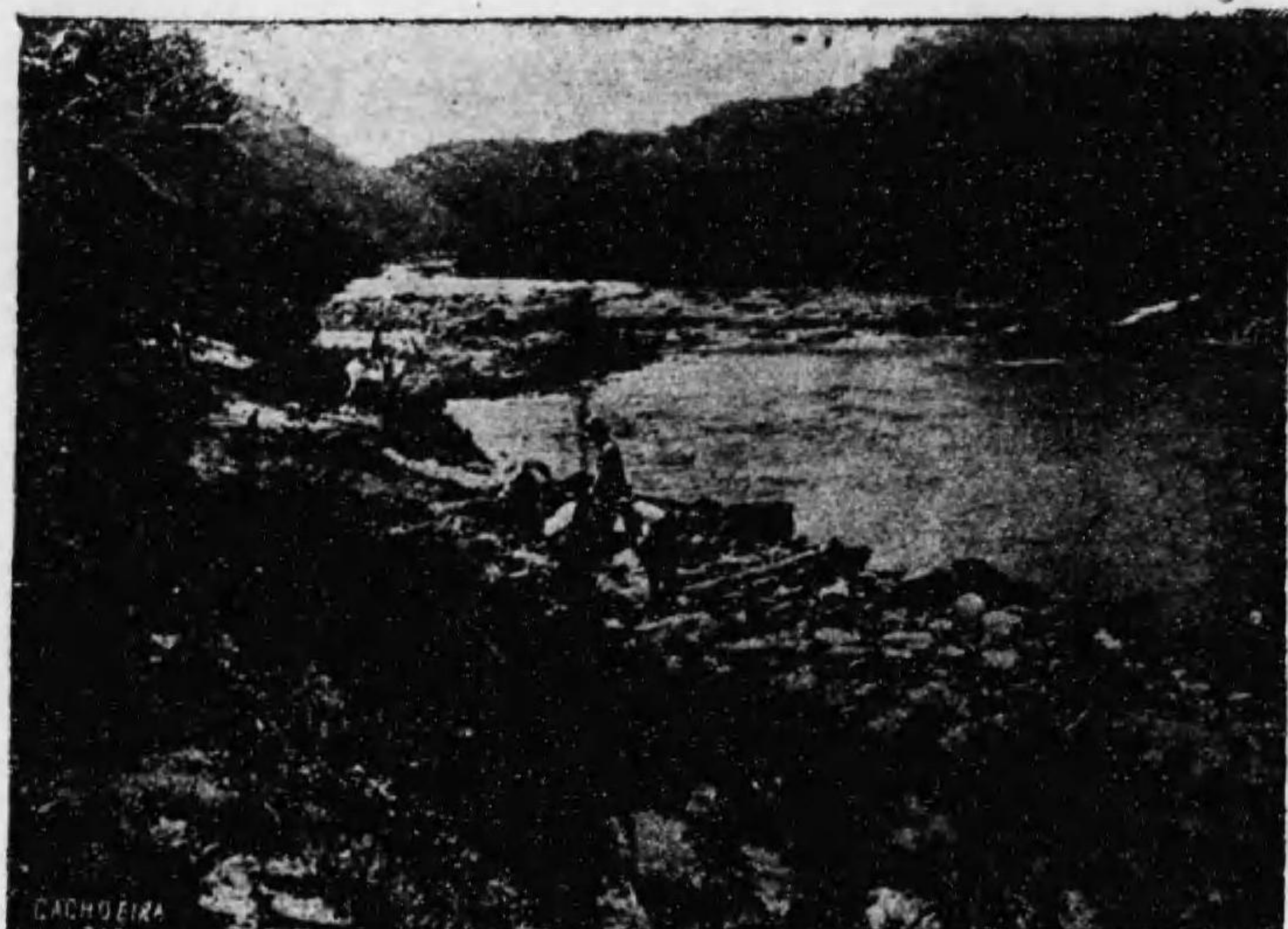
タビラブアン連山は輝石斜長岩性の多数の杏仁状熔岩を含んで居る。夫れより遙に西北に進んでマデイラ、マモレト、シイングー、タバジョー其の他の諸河川に於て、航行の障害をなせる岩塊は大概結晶質の岩、片岩、花崗岩、閃長岩等に屬する。

トウリニダッド及フェルナンド・デ・ノロニャ諸島、テイングアー峯、リオデジャチイロ州のカポフリョ、ミナスジェラエス州のボソス・デ・カルダス地方、並に伯刺西爾山系中の最高所たるイタチアヤ、サンパウロ州のシリ、カ及イグアベは大部分響岩及フチャイト(岩)をも加へたる其他の霞石質岩を以て構成されて居る。地質學者故オーヴィル・ダービー博士は霞石質岩を含める深成岩は、眞の火山塊に變形して居ることを指摘した。此等の地方は火山活動の唯一の明白なる痕跡を表示するものであつて、首府から望むことの出来るテイングアー峯は、海拔五千尺以上の錐状塊となつて隆起して居る。

ミナスジェラエス州特にカルダス地方には、多数の温泉がある。

海岸山脈及マンティケイラ山脈は、「ローレンシア」系に屬し、主として片麻岩より成り、リエーは此の片麻岩の厚きはオルガン山脈に於て二萬呎以上に達すると推定して居る。エスピニャソ、カナストラ及マタ・ダ・コルダ連山中に位するミナスジェラエス州の高地は「ヒューロニャ」系に屬すると推定され、鐘層の大部分を含んで居る。

エスピニャソ連山中には、變質片岩、硅岩及石灰岩の種類に従屬する一層古き結晶質の岩があり、石灰岩は特にダスヴェリヤス河の流域、ガンドレラ及エスピニャソ山脈の眞の境界以外のバイヤ州の中央に特に顯著である。片岩は鋭く折疊まれ、新種の砂岩(撓曲石英片岩)が、一層古き岩の上向ける片端の上に伏臥して居る。此の構成を最も著明に示して居るのが、オウロブレト市の後方に聳ゆるイタコロミト峯自體である。



景の地掘採玉寶州スエラエジ・スナミ



伯國特産のダイヤモンド



(右) ミナス州産出の綠色寶玉
(左) ミナス州産出のダイヤモンド



硅岩及後年の天然セメントの結束作用により形成された變岩は、金剛石を含む岩であり、片岩は鐵滿俺及金の鑛層に富むで居る。

海岸山脈は諸所に於て五千尺以上の高さ達しリオ・デ・ジャチイロ州に於てオルガン山脈と稱せらるゝ、部分の最高峯ペドラ・アスーは片麻岩の一大塊であり、其の他の五千尺以上の高所は、大抵片岩、閃長岩、斑礫岩、閃綠岩及花崗岩より成り、此等の岩は地質調査局長ゴンサガ・デ・カンボス博士の説に従へば、之を組合せられある片岩よりは一層近代のものであるといふ。

エスピリト・サント州に於ては、海岸山脈は粘土質硅酸鹽及石灰石と共に多量の第三紀岩を有する。

ミナス・ジエラエス州の東南リヅラメント・ボンジャルディン等に於ては花崗岩及鹽基性火成岩の貫入せる片麻岩及雲母片岩が発見され、その中に頻々ベグマタイト(岩)の岩脈があり、且黒電氣石の加はれる高陵土の著大なる層を含み、時として透明なる電氣石、水晶等を含む。而して此等の岩は通例深く分解されて居るボンジャルディンの西北に於ては、片麻岩は柘榴石の散布せるを特徴とし、従つて其の狀變岩に似たる所がある。又リオ・グランデ(大河)の流域地方に於ては其の構成は甚だ複雑なるものである。

ミナス・ジエラエス州の西方高地に於ては、礫が多量に発見されるが、略同緯度(南緯二十五度三十五分)の南阿弗利加に於ける Dwyka 變岩中の礫に絶對に類似して居る。

サンパウロ州の地質調査委員は、千九百十六年中ソロカバナ鐵道沿線地方をイタバチニンガまで、廣く一帯に調査したが、此の地方は二疊紀層を含み、砂岩、變岩及漂礫岩より成る古代氷河層と、燧石團塊を含める石灰岩及粘土質片岩との中間に位するものである。而して此等の觀察の極南點は、氷河砂岩で、夫れより遙に北方のタツイーは片岩上に位する。



松ナラバ産名國伯(上)
供小及女甸印國伯(左下) アイ・ムダ甸印國伯(右下)

プランナー博士は其の著「初等地質學」中に二疊紀中、氷河作用は伯刺西爾ではサンパウロの南方に起り漂礫岩の漂礫はリオ・グランデ・ド・スールの高原全部に發見せられると記して居る。

地震は千五百六十年以後千九百十二年までに六十回、その後今日までに數回の微震があつたのみで、強震は一回も無かつた、此等の地震が最も顯著なりし部曲は、セアラ、バイヤ及マト・グロソ州である。

リオ・デ・ジャネイロ以南の海岸線は、確に沈溺したもので、原生岩の深さは十五乃至二十米突から漸次増加してリオ・グランデ・ド・スール州のペロタスに至つて百米突に達する。千九百十七年出版の「バラナー州の地質」に據れば、此の沈溺階段は海面下二百米突の深さを以て、グリーンヰッチ西經四十五度まで横布し、此の經度に於て急激に一千乃至二千米突に降落して居る。

海岸線の直ぐ内側に沖積層が狹帶狀に南方に向つて延び、バラナー陸上階段の脚下若くは一層低き層皮にまで及んで居るが、此の地層は海面上千四百米突以上、即ち前泥盆期岩より成る階段の平均の高さを超ゆること四百米突以上に隆起して、一帯の不正な巒峯となつて居る。又この層はクリチーバの北方、サンパウロ州の南境に近きリベイラ・ド・イグアペ原野を形成せる一大陥落を有する。又この層はバラナグワ、クリチーバ鐵道の横斷せる邊より、南方リオ・グランデ・ド・スール州に至るまで、漸次低下し諸所に丘陵の狭き連鎖を見るのみで、殊にサンタ・カタリナ州の南部に於ては、此の地層の本脈は洋面下に落下し、石炭層の下に匿れて居る。

クリチーバの西方には、一部分は二疊紀、一部分は泥盆紀に屬する第三の階段が「カンボス・グランデス（大草原）」を形成し、夫れよりカストロ及ジャグワリイブを越へて東北及西方に延び、北はサンパウロ州に入つてアルマス連山になつて居る。

夫れより更に西方に進めば第四即ち最後の階段は、主として「トラップ」(岩)より漸次砂岩となり平均一千米突の隆起をなして居る。而して此の地帯には軟質の層が全然消失し孤立せる岩塊が奇妙に群集して居る部分がある。ボンタ・グロッサ附近のヴィラ・ヴェリヤの如きは其の標本的例である。尙此の階段中には、火成岩の廣濶なる織込があり、又諸所に頁岩及片岩の層が交り疊岩となつて居る部分がある。

バラナバチマ河の西北に於て白堊紀構成層は「ツリアス」の帶狀層によつて二疊紀から分離されて居る。バラナー河及其の支流チエテー河は、曾て伯刺西爾の土地の大隆起があつた事の明證である。

珈琲地帯の有名な赭色土は「トラップ」(岩)の粉碎されたものであり、又イグアッス其の他多數の瀑布は大抵、火成岩の貫入せる岩脈の上を、河川が道を造つて進まざるを得ざりし結果として出來たものである。

海岸山脈を形成せる岩石の大部分は、甚だ古く且頗る葉狀の性質を帯びたものであつて、時として結晶質の片岩が混入して居る。この山脈はサンタカタリナ州に於て兩側に一の山坡を派出し一方はリオチグロ(黒河)の南方のジャラグワ連山、他方はミラドル連山であつて、イタジャイ河を南北の二枝に分つ一大山塊を成して居る。最近この山嶺中に火山區域が發見されたが、霞石はリオ・デ・ジャネイロ州に於て見るものと同一である。

南方高原の砂岩は屢々玻瓈化し、且殆ど常に輝綠岩、斑岩の厚き扁板を以て蔽はれて居り、尙この扁板中には輝石、斜長石、磁鐵礦、「チタン」鐵礦を含み、綠砒銅鐵の痕跡もある。

サンタカタリナ州の南部に於ては疊岩は六米突の厚さを有し、此の下に厚さ二十七米突の頁岩と砂岩とが花崗岩を蔽ふて居る。

トゥパロンに於て二疊紀成層は三十二米突に達するが、リオ・グランデ・ド・スールのサンジェローニモでは、

僅に其の半分である。フロリヤノーボリス港の對岸エストレイトより、海岸山脈中のライジスに至る道中では、原生岩の深さは二百七十二米突で、夫れより西方に向つて北部バラナー及サンパウロ州に至れば、更に増大して三百五十米突以上となる。

三、氣 候 風 土

伯刺西爾の氣候風土を論ずる前に、先づ吾人は伯刺西爾が極北から極南まで一直線に測つて、實に二千六百五十九哩の大國であること、熱帯と温帯とに跨つて居ること、之と同時に北方の一小部分は北半球に位するも、國の大部分は南半球に在ること、従つて伯刺西爾の曆法では年中の季節は、北半球に位する我が國とは全く反對になつて居ることを承知して置かねばならぬ。以下全國を熱帯、亞熱帯及温帯の三帯に別つて各地帯の氣候及風土の概要を記述せん。

(イ) 熱

帶

茲に熱帯といふのは南緯二十三度半の回歸線以北にある、所謂熱帯圈内の地を指すものでなく、赤道附近の地帯といふ意味で、アマゾナス、バラト、マラニオン、ビヤウイー、セアラ、リオ・グランデ・ド・ノルテ、ベルナンブゴの七州とゴヤース州の幾分並にマトグロソ州中キャバ以北の部分を含んで居る。即ち三地帯に區別した中で面積最高大なる地帯である(凡二百六十萬方哩)。此の地帯の平均温度は場所により攝氏二十

五度乃至二十七度(華氏七十七度乃至八十度六)であるが、其の位置海岸に在ると、内地にあると又降雨の分配の工合により更に之を三個の地方に細分することが出来る。三地方の第一は即ちアマゾン平原一帯の地域であつて、氣候は炎熱にして濕氣多けれども「フリーアージェン」と呼ぶ時期の外は急激なる温度の變化がない。この「フリーアージェン」は熱い風の無い日が長く續けば寒暖計が著しく昇騰すると同時に晴雨計は若干密米突降下し、斯く大氣が急に稀薄となる結果として、アグデスの寒冷なる風が吹來り數時間後に大氣は變じて清涼となり、時としては寒冷を覺えしめる現象を呈するのである。アガッシーズ及その他の著述家の證言に據ればアマゾン地方の氣候は、一般世人が唱へる程に險惡ではなく、日中は實以て暑いけれども、朝六時から八時までは清涼爽快で、夜間は決して暑苦しさを感じない、四年間アマゾン地方を旅行した有名なるアルフレッド・ラッセル・ワレス教授(英人)は其の著「アマゾン及リオネグロ旅行談」中に、同地方の温度は佳良なり、何れの他の部分にも自然及び氣候とが勞働者にとりて斯くの如く有利なる所はないと記し、ハバート・エッチ・スミスは其の著「アマゾン及海岸地」中に、世人が驚く程の炎暑は存在せざる旨を裏書し、オルトンはバラトを「老耆者の天國」と呼ぶに躊躇せなんだ。既記ワレス教授の朋友であり兼ねて其の同伴者であつて、アマゾン地方に十年を過した著名なる博物學者ヘンリー・ベーツは「アマゾンに於ける博物學者」と題する著書中に、「英國人はバラトに三十年住んでも、其の本國を出た時に有したと同一の容貌と同一の血色を保存する」と記し、レジナルド・ノックは其の著「アグデス及アマゾン」中に、「アマゾン地方は世界に於ける最良熱帯地の一であつて其の氣候は歐洲人種の發展に有利である」と書き、英國の某科學者は「伯刺西爾事情」の著者オーケンフルに「予はマナオス在住中に體量二「ストーンズ」を増した」と書き送り、最後にアマゾン大河を秘霧の領分まで溯航した英國巡洋艦の一醫官は、同じくオーケンフルに告げて、同艦が河中に在つた間

は乗組員の健康は始終甚だ良好であつたと言ふて居る。

此の地帯の中心地たるマナオスに於ける平均温度は攝氏二十六度五三(華氏七十九度七五)、今日までの観測による最高温度攝氏三十七度半(華氏九十九度半)、最低十八度八(華氏六十五度八四)であり、五月から七月までの間強く寒い西南風が多く吹いてフリアージョンが起る。雨は常に多量には降らぬが併し度数は頻繁であり、一月二月は乾燥し、二月から六月までは大雨多く河水旺溢して數米突の増水を見る。七月から十月までと十二月とは小雨降り河水時に氾濫する。

赤道附近地帯中の第二地方たるバラ、マラニョン、ビヤウイー三州の内地及マトグロソ州の北部は温度に於てはアマゾン地方に似て居るが、併し一層變化し易く、彼の地方と同一の温度及同一の湿度でありながら寒暖計の高下は一層強く且一層急激で、之に續いて濕氣を含める強風又は寒氣が卒然として起つて來る。此の地方は地域廣大なるが故に、温度は場所により自ら異つて居るけれども、平均して攝氏二十六度半(華氏八十九度七)、絶對最高温度は四十一度(華氏百五度八)最低は攝氏四度(華氏三十九度二)であるが、併し此の如き極端なる温度の昇降は實際甚だ稀である。又この地方でも一層高き土地では冬季は霜及霰を見ることがある。

赤道附近地帯中の第三地方即ち海岸地に於てはバラ州よりベルナンゴ及アラゴアス二州に至るまで、一年中殆ど平均した氣候で春夏秋冬の區別なく、只風向と降雨によつて季節を分別するのみである。此の地方全體の平均温度は攝氏二十六度(華氏七十八度八)、絶對最高温度は攝氏三十七度三(華氏九十九度一四)、絶對最低温度十六度三(華氏六十一度三四)であり、濕氣はこの地帯中最濕潤なるベレーンに於ける平均百分の八十八より漸次減少してジョアゼイロに至り、百分の五十四となる。バラ、サンルイス及ベルナンゴで

は多量の降雨があるが、ナタール、バライーバ、フナルタレザに於ては雨量大に減じ、セアラ州の内奥では殊に雨少く、此の内奥地では一年は雨季と乾燥季とに別れる。キシエラモピンといふ地で十一年間観測をした結果四箇月間晴天のみ打續いて一滴の雨も無かつた年が二年と、三箇月打通し雨の無かつた年が三年あつたが、尙時として此れ以上長期に亘つて雨のないことがあり、之が爲セアラ、リオ・グランデ・ド・ノルテ及バライーバ三州の一部は旱魃を以て有名な地方であるが、近年政府は銳意同地方の防旱治水工事遂行に努力して居る。

(ロ) 亞 熱 帶

亞熱帶地即ち氣候溫暖なる地帯はセルジベ、バイヤ、ゴヤース、エスピリト・サント、リオ・デ・ジャネイロ、ミナス・ジェラエスの六州、マトグロソ州の殆ど全部及サンパウロ州の一部を包含し、此の地帯の平均温度は海岸及内奥の平地地に於て攝氏二十三度二六(華氏七十二度八)中位の海拔を有する高地に於て攝氏十八度二一(華氏六十四度七八)である。而して此の地帯も亦、その海岸に位すると内奥に位するにより、又風雨分配の状態により、之を若干の地方に細分して説かねばならぬ。

セルジベ全州及バイヤ州北部の海岸地方は、氣候溫和にして變化少く、平均して温度は攝氏二十三度から二十六度(華氏七十二度四乃至七十八度八)までの間を上下するに止る。最も温度高きは十二月、一月、二月最も涼しきは六、七、八月であつて、此の清涼季には雨量多く且雨天續き勝だが、尙十月、十一月にも降雨が頻繁であり、又夏季に於ても驟雨がある。暑氣は極暑の日と雖もさまで甚しからず、朝夕及晝間は他の同緯度の地に於て稀に見る所の最も愉快なる温度である。

バイヤ州南部の海岸地、エスピリト・サント及びリオ・デ・ジャチイロ二州並にミナス・ジェラエス州の東北部は、濕氣は前項記載の地方と差異はないが、彼の地方よりは遙に爽快なる氣候を有する。平均温度は攝氏の二十三度二四(華氏七十三度八三)で、雨は十二月から四月までの間が多い。此の地方の南に位するリオ・デ・ジャチイロ市は、絶対最高温度攝氏三十九度(華氏百零二度二)、最低十度二分(華氏五十度三六)、平均二十三度二一(華氏七十三度七八)であつて、既に此の近傍から季節の差異が顯はれ初め、夏冬の區別は判然となるが、併し春と秋とに當る季節は左程目立たない。

内奥の低地は中央高地以奥のマトグロソ州が其の大部分を成して居る。此の地方は大陸の中核に位するに拘はらず、其の氣候は赤道附近地帯の第二地方に酷似し、温度、湿度、風向及氣温の高下著大なる等、殆ど前項地方と同一である。クヤバ市に於ける温度は平均攝氏二十五度五(華氏七十七度九)、絶対最高四十一度(華氏百〇五度八)、最低四度(華氏三十九度二)で、西北の風は温暖にして濕氣を帶び、東南の風は寒くして乾燥して居る。夏の間は「バムベイロ」と呼ぶ西南の風吹き、暴雨を齎らして温度を急下せしむる。

終りにゴヤース、ミナス・ジェラエス及サンパウロ州内奥の高地は、緯度と海拔との關係上、氣候最も温良にして中には歐羅巴の南部に似たる氣候を有する所もある。サンパウロ州リベロン・ブレト市に於ては平均温度攝氏二十一度四(華氏七十度五二)、絶対最低一度五(華氏三十四度七)、カムビーナス市では十九度八(華氏六十七度六四)、絶対最低零度五(華氏三十二度九)、ミナス・ジェラエス州ウベラバ市では平均温度二十一度二(華氏七十度一六)、ジュイス・ダ・フォーラ市では平均二十度七六(華氏六十九度三七)、絶対最低二度五(華氏三十六度五)、ディヤマンティナでは平均十八度四六(華氏六十五度二三)、絶対最低九度(華氏四十八度二)である。

(ハ) 温帯

温帯地はサンパウロ州の南部、及バラナー、サンタ・カタリナ及リオ・グランデ・ド・ストールの三州を含み、氣候中和を得て、其の平均温度は攝氏十六度一九(華氏六十一度一四)である。冬季即ち六月より八月までは寒氣稍強くして、歐洲人種の健康に適するのみならず、尙全世界の有らゆる作物の栽植に適するが故に、歐洲移住者は好んで此等諸州に來集定住する。バラナー及サンタ・カタリナ二州の某々地點及リオ・グランデ・ド・ストールに於ては冬季降雪がある。

地幅狭き沿海地の大部分と内奥に向つて緩漫に傾斜せる凹凸多き廣大なる高地とより成れる此の地帯の氣候は、ミナス・ジェラエス州の乾燥なる部分と似ては居るけれども、然かも此の地方では四季の區別が判然して居る點に於て如上の地方と異なつて居る。尤も海岸地は緯度の關係上季節の相異微弱であつて、亞熱帯地の海岸と同じ氣候を有し、その平均温度は若干の地點に於て漸く攝氏二十度(華氏六十八度)に達する。又山地即ち海岸山脈附近に於ての平均温度は此れよりも更に低いが、海洋の影響を直接に蒙ることは海岸地と同様であつて、海の方から軟風と雨とを受取る。此の第三地帯中で最も廣大なる内奥の平野地は、海岸山脈の内側に擴がり、其の標高は場所により著大なる差があるけれども、氣候は伯刺西爾中にて最良最快であつて、此の國全體の平均温度よりは遙に寒く且湿度も一般に全國平均よりは遙に低い。

リオ・グランデ・ド・ストール州は、伯刺西爾諸州中その温度が西部歐羅巴に最近似して居る州である。四季の差別最も明瞭であり、冬季に於ける温度は屢氷點以下に降下する。

總じて此の第三地帯即ち温帯地に於ては、降雨は常に夏季に於てのみならず、他の季節に於ても頻繁であり、多く吹く風は「ミヌアノ」と呼ぶ寒き濕氣を帶びたる東南風、尙一層寒くして強き「バムベイロ」と稱する

西南風である。サンパウロ市に於ける平均温度は十八度二(華氏六十四度七六)、絶對最低二度五(華氏三十度五)、バラナー州首府クリチーバ市に於ける平均温度十六度四(華氏六十一度五二)、最低八度二(華氏四十六度七六)、リオ・グランデ・ド・スール州ペロタ市に於ける平均温度十八度(華氏六十四度四)、最低三度五(華氏三十八度三)である。而して此等の温度は歐羅巴の最温和なる地方の温度と比較することが出来る。以上記述した所に依つて見れば、伯刺西爾國は早魃の患憂ある一小地帯(併し此の一小地帯も既記の如く防旱設備實行中である)を除き、その大地域内いづれの部分に到るも人類の安樂なる生活に適する氣候風土を有し、世界の有らゆる方面から移住し來る者の爲に、發展繁榮の一大舞臺たることが知り得られる。

四、人口

新國伯刺西爾は其の國土が餘りに尨大なる爲に、諸事茫漠として精確綿密を缺く點に於て、極東の老帝國支那に似通つた所がある。伯刺西爾の境界は既述の如く、漸く近年に至つて全部決定したばかりであるから、其の境界線の延長も全國の面積も未だ正確なる數字を以て顯はすことは出来ぬ。又人口調査も今日まで既に數回行はれたけれども、その結果依然不正確たるを免れぬ。何となれば印甸人の如きは稍開化して外界と接觸して居る部落を除いては、何處に何種族の印甸人が棲息して居るか、未調査といふよりは寧ろ未探檢の部分が多く、全然不明に屬するものさへある。又無智なる田舎者は人口調査を以て課稅若くは強募徵兵の目的の爲に行はるゝもの、如く誤解し、家族の人員殊に男子の數を實際よりは少く申告する弊習があるから、折角の人口調査も完全に行はれず、唯だ漠然たる數字を得るに過ぎぬけれども、然かも此れになりと據らねば

伯刺西爾の人口は全く判らなくなる。

伯刺西爾が尙未だ葡萄牙の屬領たりし第十九世紀の初頭に於て其の人口は四百萬たらずと稱へられて居つたが、バラグワイ戦争の二年後(千八百七十二年)に、第一回調査を行ふて人口一千零十一萬二千零六十一といふ數字を得、千八百八十八年の第二回調査によつて、人口は千三百九十一萬九千四百四十六に増加せることを知り、千九百年十二月の調査を行った際には、不完全なる報告をした州が多かつた爲、頗る不正確ではあるが、人口千七百三十七萬千零六十九といふ數字を得、降つて千九百零六年には此の不正確なる數字に毎年増殖する人口の概數を加へて、伯刺西爾の人口を二千五百五十萬と推算した。アフナンソ・ベンナ大統領が就職勿々計畫した國勢調査は、千九百十年十二月三十一日を期して行ふ筈で其の準備に着手したが、經費の不足を生じた爲に中途にして之を廢し、最近千九百二十年九月一日を以て人口調査を行ひ、全國人口三千零六十四萬五千二百九十六といふ、稍實際に近い數字を得た。

今日まで行はれた調査若くは推測による人口數を列舉比較すれば

時代	年	人口
葡領時代	一六五五年 (明曆元年)	五七、〇〇〇
	一七七六年 (安永五年)	一、九〇〇、〇〇〇
	一七九七年 (寛政九年)	三、二五〇、〇〇〇
	一八一七—一八一年 (文化十四年—文政元年)	三、八一八、〇〇〇
帝政時代	一八三五年 (天保六年)	五、三〇〇、〇〇〇
	一八七二年 (明治五年第一回調査)	一〇、一一二、〇〇〇
	一八八八年 (明治二十一年第二回調査)	一三、九一九、一四六
共和時代	一九〇〇年 (明治二十三年)	一四、三三四、〇〇〇
	一九〇〇年 (明治三十三年第三回調査)	一七、三七一、〇〇〇

であつて、伯刺西爾の人口は最近一世紀間に約七、八倍の大増加を示して居る、此の人口増殖の最大要因は死亡数を超過せる出生数即ち自然増殖にあること勿論なるが、千九百十九年を以て終れる一世紀間の各國移住民入國數三百五十有餘萬も亦此の人口増殖に與つて力あるのみならず、これら移住民の半數以上（恐らく七八割）は伯刺西爾國に土着し、漸次子孫を繁殖せしめて、此の大移植民國の人口増殖に貢獻する所があつたのは明かな事實である。

最近の人口調査を州別とし且之を各州の面積に割當て、一方哩の平均人口を示せば左表の如くである。

州名	面積 (方哩)	人口	一方哩平均
アラゴアス	二二、五七七	九九〇、二七八	四三、八
アマゾナス	七三一、三六三	四九九、四四八	六、六
バイヤ	一六四、六〇一	三、三七二、九〇一	二〇、四
セアラ	四〇、二四一	一、四三六、三〇九	三五、六
エスピリトサント	一七、三〇八	四七九、一八八	二一、九
ゴヤ	二八八、四六二	五二八、八七九	一、八
マラニオン	一七七、五一五	八五三、〇五〇	四、〇
マトゲロツソ	五三二、二一〇	二七四、一三八	〇、五
ミナスジエラエス	二二一、八九四	五、七八八、八三七	二六、五
パラ	四四三、七八九	九九二、二九〇	二、二
パライバ	二八、八四六	七八五、三四四	二七、二
パラナ	九三、二六九	六七四、一一三	七、二
ペルナンブコ	四九、五六〇	一、九七五、四四一	三九、八

一九〇六年
一九二〇年

(明治三十九年政府推算)
(大正九年人口調査)

二一、五〇〇、〇〇〇
三〇、六四五、二九六

ピヤウイ	一一六、四九四	五四八、二五〇	四、七
リオデジャネイロ	二六、六二七	一、五〇一、九六九	五六、四
リオグランデノルテ	二二、一八九	五五二、〇七一	二五、三
リオグランデスール	九一、三一〇	二、一三八、八三一	二三、四
サンタカタリナ	二〇、七八五	六三三、四六二	三〇、四
サンパウロ	一一二、二七八	四、八二二、一〇〇	四二、〇
セルジペ	一五、〇八九	五三三、〇九四	三五、四
聯邦	四三一	一、一五七、八七三	二、六八六、五
アクレ直轄州	五八、六七二	一〇四、四三〇	一、七
總計	三、二七五、五一〇	三〇、六四五、二九六	九、三

而して以上二十二個の行政區劃中、首府リオデジャネイロ市に其の附近を併せたる聯邦府の人口稠密なるは例外として、之を除き、爾餘の諸州に就いて觀察すれば、人口比較的稠密なるは、リオデジャネイロ、アラゴアス、サンパウロ、ペルナンブコ、セアラ、セルジペ、サンタカタリナ等概して濱海諸州殊にリオグランデ・ド・ノルテ以南の所謂中南部諸州で、是れ交通の便利なると氣候善良にして外來人種の永住生活に最も適當せるからである。之れに反し人口の稀薄なるはマトゲロツソ州の一方哩平均に半人といふを筆頭に、アマゾナス州の六分之二に亞ぎ、續いて指を屈すべきはアクレ直轄州、ゴヤス、パラ、マラニオン、ピヤウイ州等、内奥に在つて交通不便なるか、又は純熱帯に位し氣候炎熱なるが爲に、歐洲人が移住を好まざる地方である。

漸くして州により人口の密度は可なり之差等があつて、決して平均しては居らぬけれども、併し全國を通じて一方哩の平均人口僅に九人三分に過ぎざること、伯刺西爾が今後尙數億の人類を容れて之を養ふことの出来る餘地あることを最も雄辯に語るものである。

五、人種

伯刺西爾國の住民は、國籍の上から之を内國人及外國人に區別することが出来る以外に、伯刺西爾國人乃至は伯刺西爾國の住民全體を、人種の上から分類することが出来る。

元來伯刺西爾國は印甸人といふ先住民が棲息して居つた所へ、歐羅巴人種に屬する葡萄牙人が移住し來り、續いて阿弗利加の黑人種を奴隸として輸入し、更に最近一世紀間に歐洲各國から多數の移住民を受入れ、茲に三人種の共存を見るに至つたのみならず、此等の異りたる三人種は互に雜婚混血し、斯くして生じたる雜種人は、更に本來の三人種と雜婚するは勿論、雜種人相互の間にも混血し、其の回数を加ふる毎に人種は益々錯綜して多岐複雜となつたのである。

即ち伯刺西爾の現住民(又は其の大部分を占むる伯刺西爾國人)は大別して印甸人、白人、黒人及雜種人の四種と爲すといへ、同じく印甸人といふ中にも熟蕃と生蕃との區別があり、又之れを種族に從つて數族乃至數十支族に分類することが出来るし、白人種も拉甸系、チユートン系、スラヅ系等に分ち、或は其の移住前の國籍に從つて葡萄牙系、西班牙系、伊太利系、獨逸系、露西亞系などに區別することが出来る、黑人種も決して阿弗利加の一地方に生れた者の子孫に限られて居らぬ、殊に雜種人に至つては其の混血の配合及分量は千種萬態にして、第一次の混血によりて生じたる雜種兒は、白人種と印甸人間に出來たものを「カボクロ」(caboclo)といひ、白人種と黑人種間に出來たものを「ムラト」(mulato)と名け、黑人種と印甸人間に出來たものを「カフース」(cafuz)と呼び、其の稱呼の定義も又人間の膚色相貌骨格も、區別歴然たるものがあるけれど

も、夫れ以上は混血の回数を加ふるに從つて、稱呼の定義及適用も漸く曖昧となり且其の本人を見ても、「クリボカ」「フラ」「バルド」「クレオウロ」「タブヨ」等の幾多の分類稱呼の内、其の孰れを之に適用すべきか、其の判別決して容易でない、故に伯刺西爾の住民を人種的に精細に分類し、且各人種別に（カボクロ）した人口の正數を知ることは到底不可能と思はれる。

仍て稍不精確の難は免れないが、普通に承認された方法により、伯刺西爾國の住民を左の如く分類し、其の各一に就き概略の説述を試みる。

- 一、印甸人
 - (イ) 熟蕃
 - (ロ) 生蕃
- 二、白人種
- 三、黒人種
- 四、雜人種

伯刺西爾の印甸人の起原に關しては、隨分想像的の諸説も多く、中には蒙古人種と祖先を同じうするなどの説もあるが、未だ充分に信憑すべき定説なく、只多分亞細亞大陸から移動し來つたものであらうと、推測するに過ぎぬ。伯刺西爾發見當時の探險家の傳ふる所に據れば、土人の種類は百六十種以上に及んだと云ふことであるが、其の後外來人種の壓迫を受けて海岸地方より漸次内地に移轉し、現今は海岸地方に殆んど殘存せるものなく、遠隔せる内奥地方に於て尙その餘喘を保ち而かも其の人口年々減少し、其種族數も漸次滅したらしい。

植民地時代の葡萄牙人は、土人を「ツビー・グワラニー族」と「タバヤ族」との二に区分し、前者は海岸地方に住し、比較的開化し居り、後者は多く内奥に住み、性質悍猛で未だ野蠻の生活状態に在ると見做して居つたが、後に至り諸學者は之を言語に基いて八種或は七種に分類した。結局人類學上より見れば總べて同一人種と推定するの外は無いやうである。

現在伯刺西爾國內に棲息せる印甸人の數はキーン著「南米地理提要」に従へば凡八十萬で、其内三十萬は全く野蕃の状態に在ると記して居るが、之が果して事實に近き數字であるや否やは疑はしく、又如何なる種族が何れの州に如何なる程度に分布されて居るかを精確に知ることも不可能である。

伯刺西爾を實地に視察した佛人、ポール・ウナルが、現存せる印甸人の種族及其の分布に關して記述して居る所に従へば南部三州即ちバラナー、サンタ・カタリナ及リオ・グランデ・ド・スール州には、古きグワラニー族の残りが村落を成して棲息し、野蠻状態に在るコリアド一名カイング族も、此等三州と特にサンパウロ州中タイエター及バラナパチマ兩河の中間地方に棲息して居る。ミナス・ジェラエス及エスピリト・サント二州の境上なるドーセ、ムクリー及モサス河の流域には、諸所にボックド族が群居して居り、その内若干は宣教師の教化に耶蘇舊教に歸依して居る。北部及内奥諸州は森林尙廣く生活が安樂な爲めに、土人が最多數に残存して居り、ゴヤス、マトグロッソ、マラニオン、バララー、アマゾナスの諸州及アクレ直轄州は土人の人口比較的稠密である。

此等總ての現存印甸人は、多少文化の一端に浴して居ると否こによつて二類に區別し、全然野獸の如き状態に在る者を「インヂオ・ブラボ」(慄悍なる印甸人)又は「ブグレ」と稱へ、多少文化に浴せるを「インヂオ・ド・メスチカドス」又は「インヂオ・マンソ」(馴化せる印甸人又は溫柔なる印甸人)と呼んで居る。即ち

彼は熟蕃にして此れは生蕃である。熟蕃は既に外來人種に接近し、素より半開ながら一定の土地に常住し、多少幼稚なる農牧の業を營んで居るが、生蕃は全く外來人種と相親まず、之を見れば忽ち襲撃するといふ危険な種族であるが、内地開拓の業進歩するに従ひ漸次その勢力と棲息區域を縮少せられ、今は漸く森林地帯若くは低地濕潤の不健康地に退き、天然痘、熱病その他の惡疫に襲はれ、徐々に其の數を減じつゝある。伯刺西爾政府は近來土人の馴致に意を注ぎ、保護局を設け、宗教に依らずして土人を教化するに努めてゐる。即ち陸軍少將カンジド・ロンドン氏の如きは、その佐官時代より土人の保護教化に盡瘁し、伯刺西爾の蠻界通として實に第一人者である。

白人種中伯刺西爾國人(乃至伯刺西爾國の住民)の構成上、數に於て最も多く貢獻して居るのは伊太利人であるが、其の關係の最も深く且密なるは葡萄牙人である。葡萄牙人は最初に移住して來たから、最も古き歴史の緣故があつて、獨立の際にも、共和政體樹立の際にも、伯刺西爾國民の中堅は葡萄牙人の後裔であつた。由來葡萄牙人は他の白人とは素より、印甸人や黑人種とも雜婚することを少しも厭はぬから、伯刺西爾獨立後に移住した者も、多くは獨身で渡來し、相當成功の曉には伯刺西爾人と結婚し、且言語を始め文化の系統も自國と同じき爲、他の外國人よりは一層速に伯刺西爾化することが出來た。これ葡萄牙人が伯刺西爾國民の構成上、最も重要な分子となつた所以である。

伯刺西爾在留の伊太利人は千九百十二年頃に於て既に百二十萬と註せられ、内三分の二はサンパウロ州に在つて、州民を助けて同州を伯刺西爾聯邦中最も進歩せる一州たらしめた。爾來その數は新移住者の渡來及伯刺西爾に於ける子女の出生により、著しく増加したことは疑ひなき所であり、且又此等の伊太利人中には既に多數の歸化者をも出し、又伯刺西爾で生れた子女は、伯刺西爾の國法に従ひ伯刺西爾人であり、且言

語風習も近似して居る所から容易に伯刺西爾人と雜婚し、且不動産を購入し、又は大小の工場を起しなどして永住するもの多く、従つて伯刺西爾國民の構成上に貢獻する所多きに至つたのである。

次に多數伯刺西爾に移住し來つた白人は獨逸人(埃地利人をも加へた獨逸民族)である。千九百四年の測算に於て既に四十萬人の獨逸民族が主として南部諸州に割據せるが爲、世人は頻りに「獨逸禍」を云々したが併し如何に獨逸民族でも二代三代と歲月を経るに従ひ伯刺西爾化せずには居られないこと幾多事實の證明する所で、伯刺西爾の人種を改良し、産業の勃興に刺激を與へ、伯刺西爾を進歩發展せしむる上に、頗る重要な分子となつたのである。

之に次いで波蘭人、西班牙人、露西亞人等亦いづれも伯刺西爾國民の構成上有力なる要素である。更に又阿弗利加の黒人種を奴隸として伯刺西爾に輸入したのは、千五百八十三年から千八百六十年まで、前後二百七十七年間のことであり、此の間に輸入された人員は詳でないけれども、千八百十八年の統計は黒奴の數を百九十三萬人と計上し、千八百七十年には百八十萬人、千八百八十五年には二百五萬人の黒奴があつたと記録されて居る。現今果して幾何の純黒人種が伯刺西爾國內に住するかは、正確に之を知るに由なきも、キーンは千九百七十年に二百三十萬の黒人があつたと記して居る。而して此等の黒人は單に阿弗利加の一地方から來たものでなく。ギニア、コンゴ、アンゴラ及モサムビクから連れ來られ、其の出所の異なるに従ひ、種族も異り、伯刺西爾到着後の名稱も異つて居る。即ちギニア出身の黒人は「マンチンガ」及「ヨルバ」種族によつて代表され、伯刺西爾では「チグロ・ミナ」「フェルボ」「バランテ」「フラ」の稱呼を得、コンゴ出身の黒人には「アムプエラ」「キツサマ」「ムブンダ」「カビンダ」があり、「モサムビク」からは主として「アマクワ」種族が齎され、別に「ホツテントット」「ブツシユマン」なども輸入された。現今伯刺西

爾國內で黒人種住民の最多い所は、「バイヤ」「ベルナンゴ」「リオ・デ・ジャチイロ」及「ミナス・ジェラエス」の四州で、東北部諸州に在るものは多く甘蔗の栽培に従ひ、その労働は白人労働者の到底競争し能はざる所である。

混血人種の内、白人種と印甸人の雜種は之を「カボクロ」又は「マメルコ」と稱へ、植民地時代に移住した葡萄牙人は、大抵獨身者であつたから、土人の女を娶り多數の混血兒を擧げたのである。従て土人の男が葡萄牙婦人を娶つた例は殆んど皆無と言ふも差支ない、彼の植民地時代にサンパウロ州の内地からミナス・ジェラエス方面に發展活動した「バンデイランテス」は、即ち混血人種の一派であつて、今日の「パウリスタ」(サンパウロ人の意にして同州の中堅を構成せる豪族)の祖先である。斯る状態であつたから、現今伯刺西爾國の上流の名家中、その舊きものは大抵幾代かの昔時に印甸人の血統を混じたものであるといふことが出来る。

白人種と黒人種との混血兒「ムラト」も、亦白人種の獨身移住者が、同人種の婦人極めて少かりし爲、止むを得ず當時奴隸の境涯に在つた黒人種の女を妻妾として擧げた所の産物である。併し此の「ムラト」は更に白人と二代混血すれば、殆んど黒人種の特徴を失ひ、歐羅巴人中の色淺黒き者と區別がつかぬ程に白人化する。故に伯刺西爾に於ける黒人の血液は漸次白人の血液に吸收されて没却し了り、結局伯刺西爾は白人國になるであらうとの説を生み、且この説を信する者決して尠くない。

黒人種と印甸人との混血は、一般に劣悪なる結果を齎らすものと信せられて居る。又この雜種は其の數も比較的少い。

ロケット・ピントの言に據れば、千八百七十二年には伯刺西爾の總人口の三割八歩が白人、一割六歩五が

黑人、七歩が印甸人、三割八歩四が各種の混血人種であつたが、千八百九十年には白人と印甸人との比率増加し、之に反して黒人と混血人種の割合が減少した。而して此の傾向は其の後も繼續し、千九百十二年には、白人は五割、印甸人は一割二歩に増加し、黒人は九歩、混血人種は二割八歩に減少して居るから、此の調子で推し進めば西曆二千零十二年には黒人種は全滅し、白人八割、印甸人一割八歩、混血人三歩となるべき筈である。併しこの場合に全人口の八割を占むる白人と謂ふのは、無論純血の白人種の意味でなく、その血統には尙幾分か印甸人や黒人の血液を混じて居るけれども、その混血の分量微少なるが爲、一見して混血人たるの特徴を認めることが出来ぬから、白人と見做して差支なき程度の一新人種が生ずるといふ意義に外ならぬ。

尙伯刺西爾に於ける三人種の居住は氣候その他の環境に應じ、印甸人は海岸地方に稀少にして、内奥の森林地帯に多く、黒人種は南方に稀薄にして、東北部及中部に多く密集し、之に反し白人種は寧ろ中部以南に稠密に分布されて居るも亦面白き現象である。

六、林 産 物

伯刺西爾は其の廣大なる領土内、就中アマゾン大河の流域地方及海岸に沿ふて無量の森林を有し、種類無数の林産物を包蔵すると共に、此等の森林から伐出す木材は其の附近を流る、河川を利用して之を搬出するの便がある。

世界中孰れの國も林産物の種類及量に於て伯刺西爾以上に豊澤なものはない。勿論近年農業の進歩に伴ひ

森林を伐採燒棄して耕地となし、又は薪炭用として盛に樹木を伐取するから、日を逐い幾分づゝか森林を狭め總體から見れば依然として廣大無邊で。ドクトル・ゴンサガ・デ・カムボスの調査に係る各州の全面積及森林の面積並に全面積に對する森林面積の百分率は左の如くである。

州 名	全 面 積 方基米	森 林 面 積 方基米	百 分 率
ア ク レ 直 轄 州	一九二、〇〇〇	一九二、〇〇〇	一〇〇、〇〇
ア マ ゾ ン	一、八三二、八〇〇	一、六八三、四二七	九一、八五
パ ラ ン	一、二二〇、〇〇〇	九二一、九五四	七五、八七
マ ラ ニ ヨ ン	三四〇、三六〇	一五四、三六八	四二、七一
ピ ャ ウ イ	一三一、一八〇	六二、四一九	二七、〇〇
セ ア ラ	一五七、六六〇	六七、九五一	四三、一〇
リ オ グ ラ ン デ ノ ル デ	五六、二九〇	一四、三三三	二五、四三
パ ラ イ	五二、二六〇	一九、〇八九	三六、五三
パ ル ナ ン	九五、二六〇	三二、五二一	三四、一四
ア ラ ゴ ア ス	三〇、五〇〇	八、五二五	二七、九五
セ ル ジ	二一、八四〇	八、九七〇	四一、〇七
パ イ	五八七、五〇〇	二一五、四三六	三六、六七
エ ス ヒ リ ト サ ン ト	三九、一二〇	二九、九四二	七六、五四
リ オ デ ジ ャ 子 イ ロ	四四、三五〇	三五、九八一	八一、一三
サ ン パ ウ ロ	二五〇、〇〇〇	一六一、七五〇	六四、七〇
パ ラ ナ	一八〇、三四〇	一六〇、三五〇	八三、三七
サ ン タ カ タ リ ナ	一一〇、八二〇	八六、七八九	七八、六七
リ オ グ ラ ン デ ス ト ル	二八三、四一〇	八九、一三一	三一、四五
ミ ナ ス ジ エ ラ エ ス	六〇七、九四〇	二七八、六一九	四五、八三

即ち全國面積の五割八歩以上が森林であつて、其の廣さは我國の本州、四國、九州及北海道を合せたものの十三倍である。

林産物が金銭に見積つて如何に巨額に達するかは、一佛町の面積から材木で少なくとも三千圓内外の収益があること、「ジュキチバー」樹の如きは周圍十米突の太さに達するものあつて一本から十噸の良材が得られること、エスピリト・サント州イタバボアナ川の兩岸だけでも、價格一千萬「ミルレイス」の材木あること等を知らば、以て其の大概を推察することが出来るであらう。

茂り繁つた伯刺西爾の大森林は實に建築、造船及耐水工事、枕木、家具指物用材を始め纖維植物、蘭、藥用植物、鞣皮料及染料植物、製油用植物、護樹樹脂植物、天然果實、澱粉採出用植物等に充たされ、是から何人か手を下さんとする勞資の前に眠つて居るのは注目に價ひする。

七、鑛物

伯刺西爾が貴重なる鑛物に富めることは、古來評判高く、サンパウロの「バンデイランテス」が金及寶石を求めて、人跡未到の内奥に進入した歴史や、葡萄牙の宮廷が當時その領地たりし、伯刺西爾から獲た金や金剛石で燦いて居つたことは、既に世人の周知する所である。

伯刺西爾に於ける金の産量は、今は大に減少して居るけれども、今日までに産出した金の價額は一億磅を超へ、伯刺西爾産の金剛石は其の質に於て、南阿弗利加産のものよりも一層珍重され、その鐵の鑛層は北米合衆國、加奈陀及歐州の鑛山技師若干名によつて、世界中最豊且最大なるものと認められ、又全國各州を通じて銀、白金、銅、鉛、滿俺、水銀、石炭、モナザイト砂、石墨、大理石を始め有ゆる種類の寶石類が益々多種多量に發見されつゝある。併し地質及鑛物調査は、交通比較的便利な部分に於てすら未だ行届かず、況して交通不便なる内奥の遠隔の如きは何等の調査も出來て居らぬから、伯刺西爾が包蔵する鑛物は種類及分量ともに、尙幾何ありやは今容易に斷言し能はざるは勿論である。

伯刺西爾が鑛物に富めること斯くの如くなるに拘らず、未だ充分の發達を遂げて居らぬのは、主として勞資の欠乏と更に斯業の發達を容易ならしむる法規が整備して居らぬ爲ではあつたが併し、千九百二十一年一月十五日に鑛業法が制定されたから、今後は鐵道の新設及延長並に外國勞資の誘入と相俟つて、顯著なる發展を見るであらう。

金は殆ど各州に産出するけれども、從來採掘を行つたのは、ミナス・ジェラエス、ゴヤース、マトグロツソ、サンパウロ、リオグランデ・ド・スール、バイヤ、マラニヨンの諸州であり、現今引續き盛に採掘を行ひ、伯刺西爾産金の殆ど全部を引受けて居るのは、最初に掲げた三州である。

鐵が初めて伯刺西爾で發見されたのは、千五百八十九年(天正十七年)のことで、千六百年(慶長五年)に今のサンパウロ州イバチマに設けられた製鐵所は、米大陸の南北を通じて恐らく最初のものであらう。却説鐵は伯刺西爾の各州に存在し、サンパウロ、バラナー、サンタカタリナ及リオグランデ・ド・スール州に於ては、鑛石は磁鐵鑛であり、ゴヤース、ミナス・ジェラエス、マトグロツソ、バイヤ等の諸州に於ては通例赤鐵鑛で

ゴヤース	六六〇、五八〇	一七九、三六二
マトグロツソ	一、五五四、三〇〇	六〇六、七九九
計	八、五二八、〇〇〇	五、〇〇〇、六九六
備考		二八、〇〇〇
		三九、〇〇〇
		五八、六三三

備考—右表中各州全面積から森林面積を引去つた差は耕地、牧場、草野等の面積である。

ある。

伯刺西爾に於て鐵の鑛脈が発見せらるゝ主要地域は長三百十哩幅三十一哩であり、赤鐵鑛は此の地域に於て、イタピラ片岩なる名稱を以て知られ、鑛石は(一)堅き金屬露頭、(二)硅岩と混合せる軟弱なる「ラップル」、(三)谷間に於ける鐵砂の三種に區別することが出来る。

鑛石の存在量は曾て政府の鑛山技師の一團が、五十二個の露頭を調査して、最高の鐵分を含む鑛石總計百二十億噸を下らずと測定したが、而かも此れはミナス・ジエラエス州中央部一區のみに就ての存在量なること、採出容易なる鐵五割までも含める礫の堆積地無數にして且その地積廣大、恐らく岩山を成せる鐵と同量なるべきこと、尙別にミナス・ジエラエス州には粘土質にして且鐵を含める蠻岩(俗に之を「カンガ」と稱す)が數里に亘り地面を五六米突の厚さを以て蔽ふて居り、ガンダレラ唯一箇所の「カンガ」のみで一億噸の鐵を供給することが出来、ゴンザガ・デ・カムボス博士は、ミナス・ジエラエス州の「カンガ」は産鐵地域全體の十分の一を蔽ひ、鐵五割を含める鑛石十七億一千萬噸に相當すると测算して居る。要するに伯刺西爾の鐵鑛は實に無量であるといふことが出来る。又その如何に含鐵分量が多いかは左の割合を見て知るべしである。

イバチマ鑛石(サンパウロ州)	鐵の三二酸化物	七四、〇八%
サバラト鑛石(ミナス、ジエラエス州)	及磁鐵酸化物	一五、〇五%
イタピラ鑛石	鐵	七五、〇二三%
レンソエス鑛石(バイヤ州)	鐵の三二酸化物	九二、〇七四%
ガンダレラ産「カンガ」	同上	九三、〇一四%
	同上	九三、一四%

滿俺はミナス・ジエラエス州を主としバイヤ及マト・グロツソ二州より多く産出す。

銅鑛を以て最も著名なるはリオ・グランデ・ド・ストル州で、其の最大鑛床はカマクワンに在る。銅は斑岩及砂岩中に発見せられ、從來採掘せるもの四脈あり、鑛石は純銅二十八「パーセント」を與へ、銅一噸中に三十「グラム」の金を含む。セルラ、マルチニョに於ては、鑛石は黃鐵鑛を有する硫質のもので、百分の七乃至二十五の銅を含む。其他バイヤ、セアラ、マラニオン、サンタ・カタリナ、バラ・イーバの諸州に産出する。ニツケルはミナス・ジエラエス、サンタ・カタリナ、リオ・グランデ・ド・ストルの諸州。

鉛は主としてミナス・ジエラエス及サンパウロの二州。
石炭は多量にサンタ・カタリナ及リオ・グランデ・ド・ストル州に存在す。

雲母は伯刺西爾全國に普通の鑛物であるが、最良質のものはゴヤース州より出で、主なる輸出雲母はミナス・ジエラエス州産のものである。
金剛石産地はミナス・ジエラエス、マト・グロツソ、ゴヤース及バイヤ諸州其の最も主なるものである、バイヤ州には尙「カルボナド」と稱する黑色金剛石を産し、近代工業用、就中錐鑿用に供せらる。千八百九十五年に同州レンソエスで発見せられたものは今日までの伯刺西爾産黑色金剛石中の最大なもので、三千百五十「カラット」であつた。當時二萬四千「ミルレイス」で賣却されたが、今日なれば英貨五萬磅以上の價值がある。其の後も五百乃至九百「カラット」のものも敢て珍しくはない。

古來伯刺西爾産出の金剛石中最も有名なるは千八百五十三年バガージェン川で発見された「エストレラ・ド・スール」(南星)と命名された金剛石で未琢の儘にて二百五十五「カラット」即ち五十二「グラム」二七六、琢磨の結果は百二十五「カラット」に減少、原價三十萬四千「ミルレイス」であつたが、英貨八萬磅でパロダ王に買取られた。

尙ほ金剛石を外にして伯刺西爾には、實に多種類の寶石、準寶石及美麗なる裝飾の玉石がある、その主なるは藍、紅、淡紅、紫、黄、無色等色彩様々なる電氣石、藍玉、黄玉、黒及青色の碧玉、翠玉、青玉、紅玉、金緑玉(即ち眞の猫睛石)、網玉、硬玉、紅柱石、綠柱石、綠簾石、蛋白石、柘榴石、蔷薇輝石、尖晶石、無色、紫、黄等の水晶、碼礪其他である。水晶は加工の爲今や日本に輸出さるゝ様になつた。

八、聯邦の憲法

伯刺西爾聯邦憲法は千八百八十九年十一月十五日共和政體採用後、憲法制定議會を開きて制定し、千八百九十一年二月二十四日を以て發布したもので、模型を北米合衆國の憲法にとり、之に運用上文化の係統同じき佛國の民主々義を加味したものである。
本條文九十一の外に、補款と名けて隨所に挿入せる條項七十九を加へて合計百七十箇條より成り、左記の如く五章五節十款に區別されて居る。

第一章 聯邦組織	第一……一五條
概則	
第一節 立法權	
第一款 總則	第一六……二七條
第二款 下院	第二八……二九條
第三款 上院	第三〇……三三條

第四款 國會の權限	第三四……三五條
第五款 法律及決議	第三六……四〇條
第二款 行政權	
第一款 大統領及副大統領	第四一……四六條
第二款 大統領及副大統領の選舉	第四七條
第三款 行政部の權限	第四八條
第四款 内閣各省長官	第四九……五二條
第五款 大統領の責任	五三……五四條
第三款 司法權	
第五五……六二條	
第六三……六七條	
第六八條	

第二章 州	
第三章 市町村	
第四章 伯國人	
第一節 分限	第六九……七一條
第二節 權利の宣言	七二……七八條
第五章 附則	七九……九一條

右の内便宜上茲には第四章の梗概を適録すれば、憲法第四章は之を二節に分ち、第一節の冒頭第六十九條を以て伯刺西爾國人を左の五種に區別して居る。
一、伯刺西爾に於て出生したる者は縱令父母が外國人たるときと雖も、父が本國の任務に従事せる場合を除き凡て伯刺西爾國人とす。

二、伯刺西爾人たる父の子及伯刺西爾人たる母の私生子にして共和國內に其の住所を定むる者。

三、共和國の任務を帯びて外國に在る伯刺西爾人たる父として生れたる子は縦令伯刺西爾國內に住所を定めざるるときも伯刺西爾人とする。

四、千八百八十九年十一月十五日に伯刺西爾に現在したる外國に入して憲法實施後六ヶ月以内に其の原國籍を留保するの志望を宣言せざる者。

五、他の方法により歸化したる外國人。

斯くして伯刺西爾國人の定義を與へた後、年齢二十一歳以上の公民にして法律に従ひ登録された者は選舉資格を有する(第七十條)けれども、乞食、文盲者、現役中の兵卒及個人の自由の拋棄を要求する宗派に屬する僧侶は聯邦若くは州の選舉に關して選舉人として登録を受けることが出来ないとして規定し(第七十條の補款第一)、又伯刺西爾公民權は生理上若くは精神上無能力者たるべきとき、及刑事犯罪人として受刑中なるときは之を停止せられ、外國に歸化したるとき若くは聯邦行政部の許可なくして外國の官職を奉じ、若くは外國より賜金を受領するときは之を喪失す(第七十一條)との規定がある。

第四章第二節の標題に『權利の宣言』と記してあるのは、個人の自由、安全及財産に對する憲法の保障を宣明するの謂であつて、第七十二條の冒頭に於て憲法の保障は伯刺西爾國內に居住する内國人及外國人に對し何等の差別なく一樣に與へらるべき旨の原則を宣明した後、三十一個の項目を掲げて、法律の規定に據るにあらざれば或る事を爲すべし、若くは爲すべからずと強制せらるることなかるべき事、凡て人は法律の前に同等である事、信教、集會及結社、言論、營業及入國出國の自由を保障し、請願權及完全なる所有權を認め、工業上の發見權、文學及美術的著作權及商標所有權を確保し、身體、家宅及信書の不可侵などを詳細に

規定し、次の第七十三條を以て、凡て伯刺西爾公民は法律を以て定められたる個人的資格を具備するに於ては、有らゆる文武の官公職に就くことが出来る。但し有給職を兼任することを得ずと定めてある。

尤も上記憲法の保障は外敵の侵入若くは國內動亂の場合に、共和國の安全を圖る爲、その必要なるときに限り、國內全部若くは其の一部に戒嚴令を宣布して之を停止することが出来る(第八十條)

聯邦憲法は國會若くは州會の發議により、憲法中に定めてある手續を経て之を改正することが出来る。但し國會は聯邦制共和國政體若くは上院に於ける各州均等代表の廢止を目的とする憲法修正案の採擇審議を容認してはならぬ(第九十條及其の補款)

之を要するに伯刺西爾聯邦の憲法は、頗る自由寛宏であつて、憲法上の保障に關し内外人均等待遇主義及各人平等主義を宣明し、國際紛争を生じた場合に之を仲裁に付する餘地なきか又は仲裁その効を奏せざる時にあらざれば外國に對し宣戰を爲さざる主義を第三十四條中の項目第十一を以て定め、尙伯刺西爾合衆國は直接間接を論せず又單獨にて行ふと他國と同盟して行ふとを問はず、如何なる場合に於ても領土侵畧を目的とする戰爭を爲すことなし(第八十八條)と規定せるなど特に注目すべき價值があらう。

九、國法上外國人の地位

伯刺西爾の憲法は其の第七十二條の冒頭に於て、伯刺西爾人及國內に在住する外國人に對して自由、個人の安全及び所有權の不可侵を保障して、内外人均等待遇の主義を宣明し、更に民法第三條を以て『法律は私權の獲得及び行使に關し内國人及外國人を區別することなし』と繰返して居る。從て外國人は公權の作用

たる文武の官職及議員等の公職に就くことの出来ぬのは勿論であるが、土地所有權、鑛業權の如きは素より、各種の生業を營む上に於ても全然伯刺西爾國人と同様の待遇を享有する。唯若干の職業に限り外國人の従事するを許さないが、是れは矢張り公權の一作用と認めらるゝか、又は國防上の必要から出て居るのである。外國人で出来ぬ職業は辯護士、公證人、商船の船長、副船長及運轉士、機關士、公立學校教員、漁業等其種類は極めて少ない。漁業は從來外國人も之に従事することが出来、葡萄牙人の漁夫最も多く、伊太利人及日本人の漁業を營む者も若干あつたが、千九百二十年八月に至り、漁業取締の任にある港灣沿岸監督局は、古き千八百九十七年十二月九日の法律第四百七十八號第三條補款中に「漁業は之を國化すべし」との規定あるを引援し、漁夫は必ず伯刺西爾人でなければならぬとの解釋により、八月五日附の回狀を以て、今後外國人の漁夫は歸化して伯刺西爾人とならねば營業を許可せぬ旨布達した。その法律の解釋に關しては一時議論沸騰し外國人の漁業禁止は憲法違反なりとの説をなす者もあつたが、共和國法律顧問は此の解釋を正當と認めためたから政府は、外國人の漁業を營むことを許さざる方針を維持して居る。

外國の免狀を有する醫師、藥劑師、齒科醫及助産婦が、伯刺西爾に於て其の業を營まんとする場合には更に伯刺西爾國の試験を受けて開業免狀を得ねばならぬ（衛生院事務規則第一百五條及サンパウロ州衛生法典第八十九條）。又外國の免狀を有する外國人の運轉士及機關士で、葡萄牙語を談話し且書記し得る者は、其の所有する免狀に當該領事の證明を受けて差出し、海軍學校に於て制規の試験を受ければ、其の免狀の効力を認められるが、併し歸化せざれば伯刺西爾國の商船に乗組むことは出来ぬ。

外國人の入國は甚だ自由であつて、以前は入國に際して旅券を提示することすら其の必要がなかつた。最近千九百二十一年一月國會令第四百二十四十七號を以て外國人入國法を制定し、公安風俗及公衆衛生等に害

ある者の入國禁止を從來より一層明瞭に規定したが、併し某々國及その領地に於けるが如く、有色人を排斥して其の入國を禁止若くは制限することなく、苟も有害人物でない限りは其の人種及國籍の如何を問はず、入國は依然として自由である。

既に伯刺西爾國領土内に住する外國人で、國家の安全若くは公安に害ある者及常習犯、罪人、浮浪者、乞食、醜業媒介者等を國外に放逐する爲には、千九百七年一月七日の國會令第六百四十一號外國人放逐令及同年五月二十三日の同令施行に關する大統領令第六千四百八十六號の規定から、最近千九百二十年一月の國會令第四百二十六十九號を以て無政府主義取締を制定した。

所有權は憲法第七十二條の十七を以て保障せる通り『必要又は公益の爲豫め補償を與へて收用する場合を除き完全に之を享有せしむる』のである。併し此の所有權を始めとし其の他の私權を獲得行使する形式は、民法の規定に據るのである。

出生、婚姻及死亡の登録は、千八百八十八年三月七日の勅令第九千八百八十六號（出生婚姻及死亡登録規則）に従ひ、翌年一月一日以來實施されて居り、その内出生届出の期限だけは千九百十九年十二月三日の國會令第三千九百十七號を以て公布された出生届出期限延長法により、下記の如く改正された、即ち出生は市町村役場所在地に於ては十五日以内、市町村中心區域外に在りては役場所在地を距る六十基米までの地に於ては三十日以内、六十基米以上の遠隔地に於ては六十日以内に届出づる義務があり、之に違反する者は制規の罰金の課せらる。前記登録規則第五十條によれば、内外人の別なく出生若くは死亡届出義務者が、所定の期限内に届出を爲さざるときは、「五ミルレース」以上「二十ミルレース」以下の罰金に處せられ、再度違反するときには二倍の罰金を納めねばならぬ。

不動産登記は千八百九十年五月二十一日の假政府令第四百五十一號トローンズ式不動産登記及移轉法（八十五箇條を含む）及同年十一月五日の假政府令第九百五十五號A同法施行細則（百三十八箇條より成る）に依つて之を行ひ、民有地を分割し且隣地との境界を決定する爲には同年九月五日の假政府令第七百二十號を以て公布されたる全部七十三條より成る民有地分割劃境規則がある。

鑛山の所有權も憲法の明文により外國人も亦之を獲得することが出来る。而して鑛山は憲法第七十二條第十七項に規定せる如く、其の採掘上法律を以て定めたる制限を除き、其の鑛物の存在する土地の所有者に歸屬するものである。この主義の則つて制定された鑛業所有權法は、千九百十五年一月六日の國會令第二千九百三十三號を以て公布されたが更に千九百二十一年一月十五日の國會令第四千三百六十五號を以て鑛業法が公布された。

伯刺西爾の國法は工業所有權、著作權、發明特權及商標權を保障する。工業所有權保護の爲には伯刺西爾は萬國工業所有權保護條約に加盟して居る。著作權の保護は民法中に其の規定を設け、而して其の登録は民法第六百七十三條施行の爲、司法内務長官の發したる、千九百十七年一月十八日附訓令に従ひ、國立圖書館に於て之を行ひ、其の書名、出願者の氏等は官報紙上に之を掲載さる。發明特許法は帝政時代に、千八百八十二年十二月三十日の勅令第八千八百二十號を以て公布されたものであるから、新時代の要求に適應した新法律制定の議がある。商標を保護する爲には、千九百四年九月二十四日の法律第千三百三十六號を以て公布せる商標法及翌年一月十日の大統領令第五千四百二十四號の同法施行細則がある。

現行商法は千八百五十年（嘉永三年）六月二十二日の法律第五百五十六號として公布された、全部七百九十六箇條より成る隨分古いものである。従つて其の後屢之を改正若くは補足する必要が起り、千八百九十一年

七月四日の國會令第四百三十四號を以て、二百三十一箇條より成る株式會社法を公布し、次に千九百八年十二月十七日の法律第二千二十四號を以て、百九十二箇條より成る新破産法を制定して、商法中に含まれた舊破産法に代へ、尙その後千九百十一年十二月二十八日の大統領令第九千二百六十四號を以て、株式仲買人規則を千九百十二年八月七日の大統領令を以の小切手發行規則を、千九百十九年一月十日國會令第三千七百八號を以て有限責任の株式合資會社設立法を夫々制定公布した。併し商法全部の改正は夙に其の緊要なるを認められ、新商法案は既に數年前より議會に於て審議されて居るから、遠からず其の公布を見るに至るであらう。

現行刑法は千八百九十年に公布されたものである。

訴訟法に關しては千八百五十年の商法制定に續いて、商事訴訟規則が公布されたが、共和宣言後千八百九十年に至り、此の商事訴訟規則を總ての民事訴訟にも採用すること、なつた。降つて千九百十二年に至り聯邦府訴訟公布せられ、此の訴訟法に於ては民事商事の區別を撤去して兩者共通のものとしたが、併しこれは聯邦府限りの訴訟法であるから簡單にして統一されたる民事訴訟の制定は、夙に其の必要ありと唱へられて居る。尙各州裁判所に於ける訴訟法は州の立法部の制定すべきものである。又刑事訴訟に關しては元來聯邦裁判所に於て取扱ふ事件は、政治犯、聯邦官吏が其職務執行中犯したる罪、國有資金及財産に關して犯せる罪、貨幣及聯邦發行の證書證券類偽造罪、密輸入、官金費消及國際條約を以て定めたる事項に關する罪に限られ、今尙主として千八百三十二年（天保三年）の刑事訴訟法に依りて處理して居るけれども、個人の自由は出來得る限り之を尊重し、且廣汎なる辯護の權利を認めたる訴訟である。古くより採用し來れる陪審制度は共和國憲法を以て明に之れを維持し、陪審者は公民十二名より成るのであるが、實驗上その弊害を認むる

に至つたから、成るべく正式裁判に依る方針である。

伯刺西爾の立法者は世界開名國の立法中で、自國の特殊條件に最も能く適合するものを求めて之を採用するに努め、現に行政に關する伯國法の大部分並に民法及商法中の若干點に關しては佛國の立法から感得する所多く、「ハツェアス・コルプス」陪審制度及人間の自由尊重に胚胎せる其の他の方法は之を英國に負ひ、現行刑法の大部分及商事に關する多數の法律の基準は伊太利の法律に依り、憲法の範は之を北米合衆國に取つたものである。併し斯く言へばとて伯刺西爾は外國の法律を模寫する外、何事をもなさずと言ふのではない。帝國時代就中ドン・ペドロ二世の治世中から、伯刺西爾國民の抱負は最も自由なる法律を有せんとするにあつたから、其の先覺者指導者を以て任ずるの士は、最も熱心に法學の研究に従ひ、常に意を他國の立法の進歩に注ぎ、自國の必要に應じて之を採用することを怠らず、斯かる努力の結果として個人の自由を最高限度に保障し、意見の發表を絶對容認し且私權に關して内外人を全く同等の地位に置ける現在の立法を有するに至つた。此等の點實に伯刺西爾立法の特徴であつて、伯刺西爾に住居する外國人に取り頗る有利である、これ畢竟伯刺西爾國民が速に其の大富源を開發して益々富強國となさんが爲、夙に外國勞資の誘入を容易にするを以て國是國策となし、外國の資本家が心を安んじて伯刺西爾に投資得らるゝやう又外國の移住者が何等の顧慮なく伯刺西爾に往住し得らるゝやう立法上特に留意する所ありしが爲に外ならぬ。

一〇、歸

化

伯刺西爾の國法は、人種及國籍如何を問はず、一般に外國人の歸化を認めて居るから、日本帝國の臣民も

我が國法に抵觸せざる限り、伯刺西爾の憲法及歸化法の規定に従ひ、歸化に依りて伯刺西爾の國籍を取得することが出来る。

外國人が伯刺西爾に歸化するには暗黙的歸化と明示的歸化との二様式がある。

暗黙的歸化といふのは、聯邦憲法第六十九條の第四及第五の謂ふ所の外國人の歸化を指す、即ち

一、千八百八十九年十一月十五日共和政體採用の日に現に伯刺西爾國內に居住し、而して千八百九十一年八月二十四日までに本原國の國籍を留保すべき意志の表示をなさざりし者

二、伯刺西爾國內に不動産を所有し、且伯刺西爾婦人と婚姻し、引續き伯刺西爾國內に居住せる者、但し國籍を變更せざる意志を表示せる者を除く。

三、伯刺西爾國內に不動産を所有し、且伯刺西爾人たる子(註、伯刺西爾に於て生れた子は其兩親が外國人であつても伯刺西爾人である)を有し、引續き伯刺西爾國內に居住せる者。但し國籍を變更せざる意志を表示せる者を除く。

以上三種の外國人は、別段歸化出願の手續を履まず、自然に伯刺西爾に歸化せる者と見做さるゝのである。而して此の暗黙的歸化は、上記憲法の明文により與へられたる、一種の特權ともいふべきものであるから、單に國籍證書(Titulo declaratorio de cidadão brasileiro)の下付だけを求むれば、決して該證書の下付を拒まるゝこと無く、歸化することが出来る。尤も此の國籍證書下付は願書には、本人の氏名、原籍國、不動産所有者たること、伯刺西爾婦人と婚姻せるか又は伯刺西爾生れの子女を有すること國籍を變更せざる意志の表示を爲さざりしことを記載し、且右記載事項の眞正なることを立證すべき書類を添附せねばならぬ。即ち伯刺西爾國內に不動産を所有せる事實は、當該不動産所在地の登記所又は其の他の官憲の發給したる證明書、伯

刺西爾婦人の婚姻せるか若くは伯刺西爾人たる子女を有せる事實は戸籍吏の發給したる婚姻又は出生證明書、伯刺西爾内の居住せる事實は其の居住地の司法官憲、警察署、市町村長等の證明書、國籍不變更の意志を表し、公使館又は領事館の證明書を得る能はざる場合には、其の事由を裁判所に申出で、之に對して裁判所より與へらるる書面を以て之に代ふることが出来る。又この願書は首府に於ては司法省、州の首府に於ては州政府に、地方にては市町村長を經由して差出するものである。之に對して下附せらるる國籍證書は、大統領の名に於て司法内務長官之に署名し、願書提出の時と同じ經路を経て本人に下附する。

明示的歸化といふのは、憲法第六十九條第六に記載せる「他の方法により歸化したる外國人」の場合を指すものであつて、憲法第三十四條第二十四項に「歸化に關する整一的法律を設くること」は國會の權限に屬すとある規定に基き制定せられたる千九百二十年十一月十二日の國會令第九百四號（其の後千九百八年十一月二十六日の國會令第二千四號を以て一部改正）並にその施行細則たる、千九百八年五月十四日の大統領令第六千九百四十八號に従ひ、各本人より歸化を申請し、政府は篤と審査の上、差支なしと認めれば仍ら歸化を許可し、歸化證書（Portaria de nacionalização）を發給するのである。その主なる規定を抄出すれば左の通りである。

歸化して伯刺西爾人たらんと欲する外國人は自身にて若くは代願人より司法内務長官を經由して共和國大統領宛に願書を差出すべし。該願書には公證人の署名證明を附すべく且願書中には本人の國籍、續柄、住所、職業、婚姻關係及若し正式配遇者間に生れたる子女あるときは其の明細を記入すべし。

又この願書には（一）出願人が本人に相違なきこと、（二）本人が法律上の成年者たること、（三）少くも二年間伯刺西爾に居住せること（四）品行方正なること、（五）殺人、強盜、竊盜、破産、偽計、密輸入、詐

欺取財、通貨偽造又は醜業婦媒介の罪により裁判、宣告若くは刑を受けたるものにあらざることを立證する書類を添附することを要す（施行細則第四條及同條補款）。茲に列舉せる罪により内國又は外國に於て裁判、宣告若くは刑を受けたる外國人の歸化は之を免許せず（同第九條）。（一）伯刺西爾婦人と婚姻せる外國人、（二）伯刺西爾に不動産を所有する外國人、（三）或産業的施設の組合員たるか又は伯刺西爾國の爲に有用なる或種の生産業を發明せるか若くは之を誘入したる外國人、（四）本人の技能若くは文藝により若くは或種の生産業に關する専門能力により歸化を允許せらるべき資格ある外國人、及（五）歸化外國人の子にして父の歸化前伯刺西爾國外に於て生れたる者は伯刺西爾在住二年に満たざるも歸化する事を得（同第五條）。前記歸化願書は若し其の出願人が州の在住者なる時は其の居住地の市町村長若くは州政府の當該長官に之を差出すべしと雖も、其の宛名は依然共和國大統領とす、各州の當該長官は一件書類を檢閲したる上、其の立證方法の正當なることを確めたる時は、州知事を経由して之を聯邦内務長官に送付し、其の決裁を仰ぐものとす（同第七條及同條補款第一）。

外國人の伯刺西爾國歸化に關する書類に對しては總ての費用、印紙及手数料を免除す（同第八條）。歸化證書は共和國大統領の名に於て司法内務長官之に署名す（千九百八年十一月二十六日國會令第二千四號第三條）。

歸化證書發給せられ且その登録を了はりたるときは、之を州政府に送付し、州政府は之を歸化したる本人若くは特別の委任狀を有する代人に領收證と引換に交付すべし（施行細則第七條の補款第二）。

歸化證書は歸化したる本人が聯邦府に居住するときは、其の日附後六月以内、又州に居住するときは州政府に到達後一年以内に之を請求せざるときは無効に歸すべし（同第十六條及第十七條）。

斯くして暗黙的若くは明示的方法により伯刺西爾に歸化したる外國人は、凡ての私權及公權を享有し、憲法第四十一條補款第三の一及第二十六條の第二に掲げられたる制限を除き、其の他一切の官職若くは公務に就くことを得。茲に謂ふ制限とは歸化人は終身共和國大統領及副大統領に選舉せらるゝことを得ず、又歸化後四年を経過せざれば聯邦上院議員、同六年を経ざれば聯邦上院議員となることを得ざる規定を指すものとす(同第二條)。

外國人は縱令伯刺西爾に歸化することも、其の本原國の國籍離脱前に有したる義務を免るゝことを得ず(同第三條)。従つて外國人は縱令伯刺西爾に歸化するも之が爲本國に於ける兵役の義務を免るゝことを得ず(千九百二十一年出版アルキメデス・シャヴエール・ダ・シルヴァ著「歸化」第一頁)。

歸化に關する規定は斯くの如く自由寛大であるが、併し元來歸化なるものは、外國人の有する權利でなく國家が外國人に對して爲す所の一種の恩惠的讓與であるから、伯刺西爾政府は最近千九百二十年八月四日葡萄牙人ジョゼ・リペイロ・ダ・シルヴァなる者の歸化出願に對し、同人が文盲たるの故を以て允許を拒んだ實例がある。併し法令には文盲者の歸化を允許せずとの明文が無いから、政府の此の處置は憲法及歸化法令の規定に適合せざることは勿論であるが、然かも強ち不法の處置と言ふことは出來ぬ、又之と略前後して一人の日本人が歸化を出願した際、本人が伯刺西爾の國語たる葡萄牙語を充分解し得ざりし爲、允許されることはされたが、併し大いに滯滞した實例がある。これも苟も歸化を出願する程の日本人は無論伯刺西爾に永住の覺悟あるものと言はねばならず、果して然りとすれば日常生活に差支なき程度に葡萄牙語に通曉せることを歸化の一要件として強ゐらるゝは、常識から判斷しても至當の事と思はれる。

伯刺西爾在留の日本人中で、伯刺西爾人でなければ營むことの出來ぬ職業(例へば公立學校教員、漁業等)

に従事する爲、既に伯刺西爾に歸化したものもあるが、中には一たび伯刺西爾に歸化したならば、再び日本の國籍を取得することが出來ぬもの、如く、誤解して居る者もある。併しこれは伯刺西爾憲法第七十一條補款第二の(a)に伯刺西爾人は外國に歸化することによりて伯刺西爾人たるの權利を喪失すとの規定があり、生來の伯刺西爾人と雖も外國に歸化し得るの自由を認めて居るから、歸化人が伯刺西爾の國籍を離脱して、原國籍を回復することは無論出來るのである。而して他面に於て我國の國籍法も一旦外國に歸化したる帝國臣民の國籍回復を認めて居るから、此の點に關する心配は無用である。

我同胞中伯刺西爾國に歸化せんことを希望する人々ありや否やは別問題ながら、伯刺西爾の國法が日本人の歸化を認許すると言ふことは伯刺西爾に於ける日本人の發展上甚大なる強味である。在北米の日本人が加州、ワシントン州等に於て土地所有禁止法の災禍に遇つて居る其の禍根は、畢竟北米合衆國の國法が日本人の歸化を認許せぬ所に伏在して居るのである。

一一、財 政

聯邦の豫算は毎年行政部から提出する豫算案を基礎とし、聯邦議會の修正協賛を経たる上、歳入と歳出とに分ち、別箇の法律を以て公布することになつて居る。之を名けて歳入豫算法及歳出豫算法といひ、此の豫算法中に租税の新設、改正を行ふは固より、行政部に種々の權能を付與する幾多の條項をも含む慣例であり可なり複雑なるものである。

(イ) 歳入豫算

豫算は歳入歳出ともに金貨勘定と紙幣勘定との二より成立つて居る。餘り古い所は省略して千九百十三年以降連年の歳入豫算額を掲記すれば左の通りである。

年 度	金 貨	紙 幣
一九一三年	一三三二、一一二、八八四	三七一、一〇七、〇〇〇
一九一四年	一三〇、二一九、八八四	三六七、五一、〇〇〇
一九一五年	一一五、四六七、一六四	三一、〇八八、〇〇〇
一九一六年	一一〇、六八二、四六六	三四九、一六六、〇〇〇
一九一七年	一二九、一四八、二〇四	三三九、三二五、三三三
一九一八年	一二五、九六八、三五四	四四八、四一三、〇〇〇
一九一九年	一一三、五三三、四三四	五〇二、九八九、〇〇〇
一九二〇年	一一九、四五二、九四九	五一四、二五八、二〇〇
一九二一年	一〇八、四三九、五〇〇	六七一、一五四、〇〇〇
今左に最近千九百二十一年度分の歳入豫算額を示せば	九〇、七〇七、七八五	
經常費に充つべき歳入	紙幣 六一五、六七〇、一八〇	
	金貨 一七、七三一、七一五	
特定費に充つべき歳入	紙幣 五五、四八三、八二〇	
	金貨 一〇八、四三九、五〇〇	
通 計	紙幣 六七一、一五四、〇〇〇	
	金貨 一二六、一四六、二一五	

此の歳入豫算額中、經常費に充つべき分の内譯の大綱は

- 一、組 税 收 入
- 二、國 有 財 産 收 入
- 三、官 業 收 入
- 四、臨 時 收 入
- 五、特 別 歳 入

である、租税に就ては別章に記述する通りにして國有財産収入はデオドロ兵士長屋収入、國有財産拂下収入、労働者長屋収入、聯邦經營移住開墾収入、サンタ・クルーズ其他の耕地収入、「モナザイト」砂採取地賃下料、海岸地賃下料及國有地賃下割前金収入の八目より成立つて居る。

官業収入即ち官營事業の収益は郵便収入、電信収入、印刷局及官報収入、中央鐵道収入、外に官營十鐵道の収入、造幣局収入、造兵廠収入、盲啞學校、陸軍學校、感化院、癲狂院、國立化學分拆試驗所、種畜場、高等農學校、工手學校、農業實習學校、模範牧場、農事試驗所、試作農場、獸醫學校、二箇所の火藥製造所等の収入を初め、内外國鐵道會社及保險會社が監督費として納付する金額及伯國領事の徵集する手数料までも含んで居る。

臨時収入の細目を擧ぐれば、海軍及陸軍の遺族扶助納金、官吏の遺族扶助納金、辨償金、國有資本金の利子、聯邦府營業稅、リオ・デ・ジャネイロ市水道稅、聯邦府衛生稅、三百萬磅公債の利子仕拂、元金償還及當該手数料としてサンパウロ州より納付する金額、國有物件拂下代、伯刺西爾銀行貸下金利子、指文局収入、發明特許局収入等である。

特別歳入の細目を示せば、國債證券發行及白銅貨鑄造の二である。

次に特定費に充當すべき歳入に關して特定費とは
 (甲)紙幣銷却基金、(乙)紙幣發行準備保證金、(丙)買上鐵道公債償還基金、(丁)内債償還基金、(戊)港灣改良工事基金及(己)東北部防旱工事基金の六であつて、(甲)の爲には國有鐵道貸下料の内紙幣收入の分、政府の債權取立金の内紙幣收入の分、國庫が紙幣にて收納する一切の臨時收入及國庫所有の伯刺西爾銀行株利益配當金の四目があり、(乙)の爲には金貨納付の輸入税の百分の五、政府の債權取立金の内金貨收入の分、及金貨にて收納する一切の臨時歳入の三目がある、(丙)の基金は當該買上鐵道の貸下料を以て之に充て、(丁)の基金は供託金の納付と返還との間に生ずる殘金若くは剩餘金を以て之に充て、(戊)聯邦の費用を以て行ひたる港灣改良工事基金はリオ・デ・ジャネイロ港及其他十四箇所の税關に於ける商品輸入公定價格金貨百分の二の港灣改良税を以て之に充て、(己)東北部防旱工事基金は税關諸税、流通税、消費税及官業收入の百分の二であつて(乙)の三目中の第一即ち金貨納付の輸入税の内百分の五と共に經常費に充つべき歳入から控除して特定費に充つべき歳入の方に繰入れるものである。
 歳入項目の概要と各項目の金額を表記すれば左の如くである

項目	金貨	紙幣
一、税關收入	九五、〇〇〇、〇〇〇	九〇、〇〇〇、〇〇〇
其他收入	一、九三〇、〇〇〇	二、八〇〇、〇〇〇
小計	九六、九三〇、〇〇〇	九二、八〇〇、〇〇〇
二、消費諸税		

煙草	三二、〇〇〇、〇〇〇
飲料	四六、五〇〇、〇〇〇
燐	一七、〇〇〇、〇〇〇
鹽	六、五〇〇、〇〇〇
履	四、四〇〇、〇〇〇
香	三、四〇〇、〇〇〇
製	二、四〇〇、〇〇〇
鐘	四、〇〇〇、〇〇〇
織	三三、五〇〇、〇〇〇
織物加工品	三、九〇〇、〇〇〇
外國產葡萄酒	四、〇〇〇、〇〇〇
帽子及傘	三、七〇〇、〇〇〇
炙煎珈琲末珈琲	一、八〇〇、〇〇〇
製糖	三、〇〇〇、〇〇〇
金銀細工及寶石類	一、二〇〇、〇〇〇
其他十三品	五、四四〇、〇〇〇
小計	一七二、七四〇、〇〇〇
三、流通税	
印紙	七〇、五〇〇、〇〇〇
通行税	一一、〇〇〇、〇〇〇
通	二五、〇〇〇、〇〇〇
路	
稅	

小計	五〇、〇〇〇	一〇六、五〇〇、〇〇〇
四、所得諸税		
八種		六五、二五〇、〇〇〇
五、富籤税		一、〇〇〇、〇〇〇
六、雜收入		
アクレ直轄州護謨輸出税		三、〇〇〇、〇〇〇
其他		六二九、〇〇〇
小計		三、六二九、〇〇〇
七、國有財産收入		
八種	一〇〇、〇〇〇	一、三七〇、〇〇〇
八、官業收入		
郵		一五、五〇〇、〇〇〇
電	一、六〇〇、〇〇〇	一九、〇〇〇、〇〇〇
中央鐵道		八七、〇〇〇、〇〇〇
其他		一八、〇八五、〇〇〇
領事館收入	一、三〇〇、〇〇〇	二、六六六、〇〇〇
其他		一四二、二五一、〇〇〇
小計	二、九〇〇、〇〇〇	六、五〇〇、〇〇〇
九、臨時收入		
聯邦府營業税		四、五〇〇、〇〇〇
リオデジャネイロ水道税		

公債仕拂の爲サンパウロ州上納金	一、三三三、五〇〇	
其他	六九一、〇〇〇	一八、七二一、〇〇〇
小計	二、〇二四、五〇〇	二九、七二一、〇〇〇
十、特別歳入		
國債証券發行		一〇、〇〇〇、〇〇〇
白銅貨鑄造		一、〇〇〇、〇〇〇
小計		一一、〇〇〇、〇〇〇
總計	一〇二、〇〇四、五〇〇	六二六、二六一、〇〇〇
内、特定費歳入に繰入の爲控除	一一、二九六、七二五	一〇、五九〇、八二〇
差引臨常費歳入	九〇、七〇七、七八五	六一五、六七〇、一八〇
特定費歳入		
一、紙幣銷却基金		八、二〇〇、〇〇〇
二、紙幣發行準備保証金	九、四八六、七五〇	三、〇〇〇、〇〇〇
三、買上鐵道公債償還基金		二五、〇〇〇、〇〇〇
四、内債償還基金		八、六九三、〇〇〇
五、滯灣改良工事基金	五、四三五、〇〇〇	一〇、五九〇、八二〇
六、東北部防旱工事基金	一、八〇九、九六五	五五、四八三、八二〇
總計	一七、七三一、七一五	六七一、一五四、〇〇〇
全計	一〇八、四三九、五〇〇	

歳入の項目中、金貨と紙幣と兩方にて收納する税關諸税の如きもあり、消費諸税、所得税、富籤税の如く

紙幣のみで納付せしむるものもあり、又領事手数料の如く必ず金貨を以て徴收せしむるものもある。金貨を以て徴收する税金は伯刺西爾國內に於ては、時々政府が定むる公定換算率により換算したる紙幣を以て、又外國に於ては一定の換算率により、當該國の通貨を以て納付せしむるのである。

金貨及紙幣収入を通算し、聯邦歳入の最大なるものは關稅、就中輸入税であり、之に次ぐものは消費稅、官業收入印紙稅、所得稅等である。

(口) 歲 出 豫 算

千九百二十一年以降の歳出豫算額は

年	金貨	紙幣
一九一二年	五六、四五六、〇四四	四〇四、〇二一、四五五
一九一三年	六三、二八四、七二〇	四六九、四六三、八一二
一九一四年	七〇、一七九、八〇九	四二〇、九二三、四六九
一九一五年	五四、八八四、六〇五	三五七、三四一、四一二
一九一六年	八四、三六五、〇八六	四〇五、二六六、〇六二
一九一七年	九八、五三二、九四五	四〇七、四二六、七三九
一九一八年	八四、四五六、〇八四	四六一、九五八、九五〇
一九一九年	八〇、九五三、九三八	五〇四、四八三、二三九
一九二〇年	七二、三七二、三二六	五九九、五七八、五六四
一九二一年	七五、六六〇、八四〇	七一九、四九五、七〇八

であつて、金貨と紙幣と二欄に掲げたのは、金貨を紙幣に換算したものでなく、金貨にて何程及紙幣にて更

に何程といふ金額を示して居るのである。

連年の豫算額を通算すれば、世界戦亂中一時財政緊縮の傾向を呈し、且爾來金貨勘定の方では出來得る限り緊縮方針を執つて居るに拘はらず、金貨及紙幣を通算して逐年豫算膨脹の傾向あることが認められる。蓋し伯刺西爾政府は専ら政費節約に努力して居るに拘はらず、世界的物價騰貴の影響は亦如何ともすべからざるに因るものと思推せられる。

千九百二十一年度の歳出豫算額を所管省別に内譯すれば左の通である

所管省	金貨	紙幣
司法内務省	三、一七七、二六八	七六、三〇五、三八一
外務省	四、五七六、七七〇	二、一一八、三九二
海軍省	二〇〇、〇〇〇	六一、〇五七、〇九九
陸軍省	一、七〇〇、〇〇〇	一二二、二五六、七五五
農工商務省	九六二、六八〇	三九、一八八、九三九
遞信省	一四、三六六、五八六	二五一、一五四、〇四五
大藏省	五〇、六七七、五三六	一六七、四一五、〇四五
合計	七五、六六〇、八四〇	七一九、四九五、七〇八

司法内務省所管經費の内譯概要を示せば

費目	金貨	紙幣
大統領及副大統領歳費	...	一六八、〇〇〇
大統領廳費及官舎費	...	三四四、八〇〇
上院議員日當	...	七七四、九〇〇

上院事務局費	一、三三六、八八三
下院議員日當	二、六〇七、六〇〇
下院事務局費	一、七二一、八六六
議員旅費	二七五、〇〇〇
本省費	七三四、八六六
共和國顧問廳費	二三、六〇〇
聯邦及聯邦府司法費	三、七六三、三九九
聯邦府警察費	八、八五三、一五九
同上憲兵費	一一、二四九、五一五
監獄及集治監費	一、七九四、六六〇
國立記錄館費	二〇九、五七六
癲狂院費	三、七八三、五三五
衛生院費	一五、四二二、三六七
高等教育會議廳費	七五、七七八
教育補助費	五、一九四、八七〇
國立諸學校費	一、五三七、七九〇
國立圖書館費	五五〇、五二五
公衆救助費	五〇、〇〇〇
工舉事務費	三五七、八〇〇
選舉事務費	二五〇、〇〇〇
消防隊費	三、一〇〇、六九〇

アクレ直轄州行政司法諸費
オスワルドクルス研究所費
補助金
俸給臨時増額費
其他
合計

三、一七七、二六八	三、〇二二、〇四九
...	一、一〇二、三六〇
...	三、三〇五、〇〇〇
...	四、一四二、七九三
...	五五二、〇〇〇
...	七六、三〇五、三八一

である。
外務省所管經費豫算の内譯は左の如くである

本省費	...	紙幣	八九六、一二〇
待命官吏費	一〇〇、〇〇〇
内地用臨時費	九〇、〇〇〇
工事費	三〇、〇〇〇
宴會費	一五〇、〇〇〇
國際會議費	三〇、〇〇〇
郵便電信料	一二〇、〇〇〇
國際事務局費	一五二、五七四
外交官費	一、五二三、一一一
領事館費	一、三一七、七〇〇
旅費	三二〇、〇〇〇
在外臨時費	三〇〇、〇〇〇

次に海軍省所管經費豫算の内譯を掲ぐる。

經濟擴張費	八七、〇〇〇	五〇、〇〇〇
劃境委員費	五二五、三八五	六〇〇、〇〇〇
合 計	四、五七六、七七〇	二、一一八、三九二
本省費	...	紙幣
將校及下士費	...	一、八六六、三四三
水兵及屬員費	...	一三、四二六、一三九
陸戰隊費	...	五、三五三、八九五
工廠及兵器廠費	...	四〇六、一六七
航海監督部費	...	三、八五二、三五七
海軍教育費	...	九九五、一〇〇
臨時増員費	...	一、一二一、七七九
糧食費	...	一五、〇〇〇、〇七二
豫備後備費	...	六八一、〇一四
臨時増員費	...	九、八七四、五九五
漁業取締及海濱地衛生費	...	四、二三二、四六六
糧食費	...	四、〇四七、一七二
豫備後備費	...	六、一〇五七、〇九九
臨時増員費
金貨ヲ以テ支出スル費用	二〇〇、〇〇〇	...
合 計	二〇〇、〇〇〇	...

陸軍省所管經費豫算内譯	金貨	紙幣
本省費	...	七、八三九、四二三
參謀本部費	...	一七七、〇四二
軍事司法部費	...	五四一、三五〇
軍事教育費	...	五、三七八、三四〇
工廠費	...	二、五〇八、四〇三
製造所費	...	一、四一三、九六八
衛生所費	...	一、二五五、九七九
將校俸給費	...	二七、五一〇、六六〇
兵卒給與費	...	三一、〇一四、二九一
豫備後備費	...	一一、九二五、五二一
旅費及臨時増員費	...	六一一、四八四
國民軍費	...	三三八、六八〇
陸軍工事費	...	八三〇、〇〇〇
材料費	...	二八、四一一、六一四
在外任務費
軍隊編制改正費	...	一、五〇〇、〇〇〇
合 計	一、七〇〇、〇〇〇	一一二二、二五六、七五五
農工商務省所管經費豫算内譯	金貨	紙幣

本省	八七六、八二九
聘員	二七八、〇〇〇
土地植民	五、四七三、六〇〇
植園	四一六、三二〇
農事監督獎勵	三、二五四、四〇〇
農事監督獎勵	一、九三〇、〇〇〇
工手學校	二、四四九、〇〇〇
地質鑛物調査局	五、五八、一六〇
統計局	一、四九一、六七五
氣象天文局	七、二六二、九〇〇
畜產局	一、〇六〇、五五〇
印甸人保護	三、九一三、九八〇
農事教育	一、一五七、四四〇
臨時增員	三、九四〇、〇〇〇
補助	一、四七八、〇四〇
棉花局	三、六四八、〇四五
其他	三九、一八八、九三九
合計	九六二、六八〇
遞信工部省所管經費豫算内譯	
紙幣	七六七、七〇五
金貨	二七、五六六、〇二九
郵便事務	三五〇、〇〇〇

尙政府は遞信工部省所管豫算外經費として、鐵道の布設及營業の爲に四千三百七十萬「ミルレイズ」を支出する權能を、當年度の歳入豫算法第八十二條を以て付與されて居る。
大藏省所管經費の豫算内譯は左の通りである。

電信事務	三〇〇、〇〇〇	二七、三一八、五二五
航路補助	一五六、七八七	三、三七九、二四三
利益保護	七、一三三、〇〇四	二、〇四八、八七八
國有鐵道		一一九、四五七、一三三
防害工事監督部		六一八、六〇〇
水道及土木局		六、四六九、一〇〇
港灣河川水道監督局	四、二〇〇、〇〇〇	七、八九六、〇〇〇
聯邦首府公衆用點燈監督局	二、二二四、三九五	二、四六〇、三七二
道路監督局		二、五〇〇、〇〇〇
航海監督局	二、四〇〇	三八二、五七五
補助		五〇、一一七、七八〇
其他		一六三、一五七
合計	一四、三六六、五八六	二五一、一五四、〇九七
紙幣		六、四一六、二二四
金貨	四八、〇六四、五三八	二八、六七二、四一九
外債利子支拂及元本償還費		
内債		
休職俸、遺族扶助費		

中央金庫費及本省費	九三、〇三三	二、三二〇、三一五
會計検査院費	...	一、三四三、二七〇
聯邦府收稅署費	...	一、〇七八、一〇〇
紙幣銷却局費	一〇〇、〇〇〇	五八三、五二〇
造幣局費	...	一、六二八、五七四
印刷局費	...	四、一五三、二四〇
稅關及假稅關費	...	一五、二三八、六七〇
地方收稅署費	...	九、〇二〇、二三四
消費稅通行稅監督諸費	...	六、三七二、〇〇〇
預り金等ノ利子	五〇、〇〇〇	一三、六〇〇、〇〇〇
過年度支出金	五〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇
俸給臨時増額	...	四、五二七、九八八
其他	五一〇、〇〇〇	三、八六九、六七一
特定費東北部防旱工事費	一、八〇九、九六五	一〇、五九〇、八二〇
合計	五〇、六七七、五三六	一六七、四一五、〇四五

斯くの如くして伯刺西爾聯邦の豫算は、大体に於て毎年出入略償相ふやうに編成されるけれども、或る種の費目は法律の規定により、當然豫算額を超過して支出することが出来、然らざる費目も議會の協賛を経て屢豫算外支出が行はれ、而かも豫備金の制度がないから、大抵孰れの年度に於ても歳計不足を生ずる。

一一一、租 稅

租稅は之を聯邦諸稅即ち國稅、州稅及市町村稅の三種に類別する。

聯邦諸稅は聯邦即ち中央政府の經費に充當する爲、聯邦の法律、主として歳入豫算法を以て之を定め、概して全國に亘つて賦課徴收するが、或る種の租稅は聯邦府又は聯邦直轄州のみに於て徴收するものもある。聯邦の歳入となる租稅は、各種の關稅即ち輸入稅、統計稅、燈臺稅、船渠稅等、各地稅關に於て徴收するものを除き、消費稅、流通稅、所得稅、及富籤稅がある。

消費稅は千八百九十九年の法律を以て定めて以來、漸次その課稅品の數を増し、最近千九百十九年度までは二十二品であつたが、その翌年から新に精製糖外五品にも課稅することとなり、現に消費稅を賦課して居るのは左の二十八品である。

一、煙	二、飲	三、燐
四、鹽	五、履	六、香
七、製	八、鐘	九、醋
十、蠟	十一、洋	十二、織
十三、織物加工品	十四、外國產葡萄酒	十五、壁
十六、骨牌	十七、帽子及傘	十八、蓄音機樂器
十九、陶磁器及硝子	二十、鐵金	二十一、夾煎及粉末咖啡
二十二、パ	二十三、精製糖	二十四、金銀細工寶石等の裝身具
二十五、室内其他裝飾品	二十六、家具	二十七、銃器及彈丸類
二十八、電球		

此等諸品に對する消費稅の賦課率及徴收の順序方法等は、法律及規則を以て定められ、且殆ど毎年の歳入豫算法を以て若干の變更を加へ、頗る複雑になつて居る。

流通稅 (Imposto de circulação) は印紙稅、通行稅及通路稅の三を總括した名稱である。

印紙税の徴収は、千九百十九年十二月二十五日の法律第三千九百六十六號を以て改正したる最近の規則に基き、殆ど有ゆる種類の公書私書を四種に大別して之を行ふて居る。其の分類法は先づ金高に比例して印紙を貼用すべき書類と、金高の多少に拘らず一定額の印紙を貼用すべき書類との二に分ち、更に之を共和國の全領土に及ぶものと、聯邦府内のみに限るものとに區別し、都合四種に分類される。尙一定額の印紙を貼用すべき書類は、再び之を紙面の大小に應じて定むるものと、其の用途目的に従ひ、定むるものとに細別する、無論聯邦官署に於て徴収する種々の手数料も、印紙税の範圍内であつて、各種の手形、證券、小切手信用狀、契約書、質札、保證書、保險證書、領收書、送狀其の他の商業書類、聯邦文武官任命の辭令書、官廳公署等より下付する謄本抄本證明書類、商用及工場用帳簿、公證人及登記吏の簿冊、旅券、船荷證券、船籍證書、船舶健康證明、署名證明、聯邦官吏登用受驗願、受驗證明書、卒業證書、文學、學術若くは美術的著作の登録、會社銀行等の營業認許證、聯邦官吏に與ふる賜暇辭令書、學位記及學士號證書、技術免狀、發明特許等總て本税徴収の目的物となるのである。その課率は甚だ複雑して居り且屢部分的改正による變更があるから之を省畧する。

通行税は千九百十年三月十日の大統領令第七千八百九十七號を基礎とし、その後千九百十五年、千九百十七年及千九百二十年の歳入豫算法を以て部分的に改正したる税率に従ひ、乗車券及乗船券を發行する鐵道會社及汽船會社若くは後者の代理店等をして之を徴収せしむるものである。

通路税 (Taxa de Vingio) は千九百二十一年度から新に徴収することゝなつたもので、鐵道及河川航行船舶及沿岸貿易船により輸送する商品に對して賦課する。

所得税は之を株式配當税、抵當物ある貸金の利子税、保險掛金税、抽籤の方法による利得税、株式組織以

外の工業純益税、同商業純益税、商品定期取引税及海水浴場博戲税の八種に細別する。

株式配當税は千八百九十三年度の歳入豫算法を以て初めて之を設けて以來、數回税率の引上げを行つたもので、現行率は利益配當が株金の一割二分未満のときは配當金の百分の五、一割二分以上なるときは百分の六を徴収する。

抵當物件の保證ある貸金の利子税は千九百十七年の新定に係り、利子金額の百分の五を徴収する。

保險掛金税は海上及陸上保險は百分の二、生命保險、養老保險等は百分の五を以て税率とする。

抽籤の方法に依る利得税は保險掛金税と共に千九百十五年以來設定された税であつて、利得金又は取得した物品代價の一割を徴収する。

株式配當税の賦課範圍外に在る工業の純益金に對する税金の率は、純益金十萬「ミルレイス」未満は百分の三、以上三十萬「ミルレイス」迄は其の超過分に對して更に百分の四、以上五十萬「ミルレイス」までは同じく百分の五、五十萬「ミルレイス」以上は同じく百分の七である。

株式組織以外の商業純益税は後に掲ぐる二税と共に最近千九百二十一年度から創始されたものであるが、その税率は前項工業純益税と全く同一である。

商品定期取引税は珈琲、棉花及砂糖の三品に對してのみ賦課するものであつて、珈琲は一袋に付百「レイス」、棉花は重量一基に付十「レイス」、砂糖は一袋に付五十「レイス」の割合を以て賣方及買方双方より半額づつ徴収するのである。

衛生院事務規則の規定に基き特に海水浴場に於て許可せる種類の博戲に課する税金の率は元方資金の百分の二である。

一の獨立租税たる富籤税は、聯邦政府の富籤に對しては資本金の百分の三半、州の富籤ならば教育及慈善的設立物を補助する目的のものに限り之を許可し、聯邦の他種租税の外、尙資本金百分の五の富籤税を徴收する。

尙歳入豫算中租税の部に入れず、雜收入の部に掲げてあるアクレ直轄州から輸出する護謨に對する從價一割の輸出税もある。

州税は聯邦憲法に認許する範圍内に於て、各獨立州が其の法律を以て定め、州の歳入となすものであつて、外國に輸出し若くは州外に移出する自州産物に對して課する税が、大概孰れの州に於ても主要財源である。併し之を課する産物の種類及税率は各州區々にして一定せざるのみならず、此の移輸出税以外の州税に至つては、州により或は之を課するものあり、或は之を課せざるものもあるといふ風である。例之へばサンパウロ州は珈琲、煙草、牛皮、薪炭及小麦フスマに對して移輸出税を課する外、珈琲移輸出附加税、所有權移轉税、道路税、商業税、サンパウロ市上水消費税、サンパウロ、サントス及サンヴィセンテの下水道税を主たる州税として居り、尙税制を改正して新に地租及所得税を設くる計畫があるけれども、所得税に關しては州に於て之を徴收し差支なきや否憲法上の疑義がある。又ミナス・ジェラエス州ではサンパウロ州と同じく珈琲の移輸出税が主要財源の第一位を占めて居り、その他若干品に對する移輸出税、滿俺及珈琲に對する附加税、生存者間の財産移轉税、印紙税などの外、尙地租をも課して居る。伯刺西爾聯邦諸州中最も早く地租徴收を開始したのは同州であつて、最初千八百九十九年九月一日の州法第二百七十一號を以て地租を制定し、千九百十九年九月二十日の州法を以て之に改正を加へ、同年十二月二十五日の州令第五千二百六十八號を以て其の徴收規則を定め、其の課税方法は土地を市街地及農村地の二種に分ち、兩者孰れに對しても定額

税と比例税とを併せ課するのである。定額税は市街地一千方米毎に五十「レイス」、農村地二「アルケール」(凡我が五町歩)毎に百「レイス」、比例税は市街地なれば時價千分の五、農村地なれば同じく千分の四とし、農村地にして開墾其の他の改良を加へたものに對しては比例税の二割を輕減する。

サンパウロ州は地租を徴收せぬから、農村にて農業に従事して居る者は直接に何等の租税を負担せぬ。

市町村税も亦各行政区により税種及税率を異にして居り且同一行政区内に在ても、市街地に於ては土地家屋税を課する、けれども、農村地には通例此の課税がない。その他營業税、車輛税、興業税、屠畜税などが市町村税の主なるものであり、サンパウロ州の珈琲地帯では珈琲樹の栽植株數に應じて一本「何レイス」づゝの輕小なる地方税を徴收して居る。

一三、 商 業

(イ) 外國貿易發達の經路

商業と云つても、本書を全部それに當てゝも、猶ほ紙數の不足を恨む程なので、到底詳細に及ぶ事は出来ない、で此處には内國商業を省いて外國商業、即ち伯國の對外輸出入貿易の一斑と、聖州其他二三主なる州の輸出入外國貿易狀況に就て書く事にする。

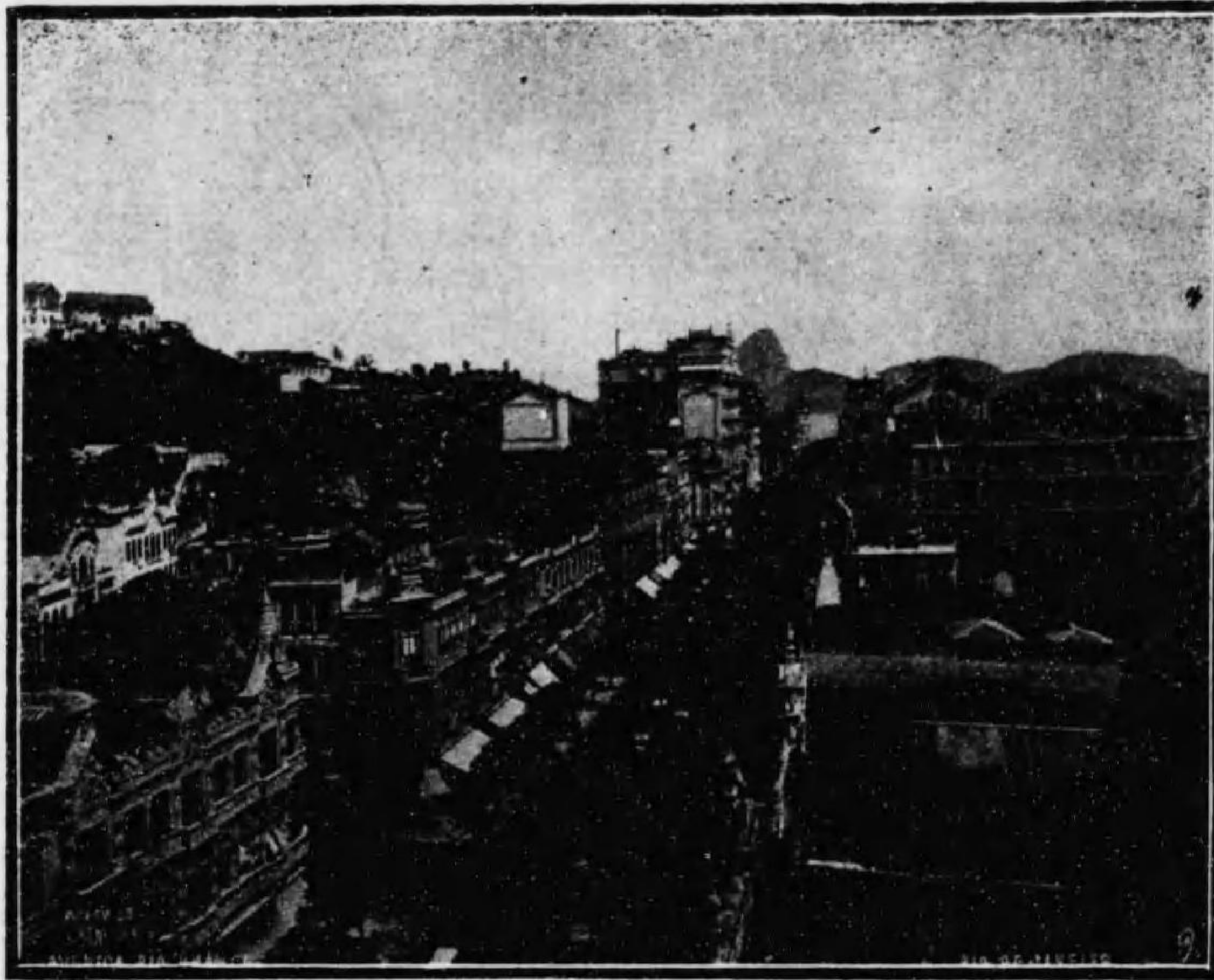
順序として伯國の海外貿易の發達に就て略述すれば、先づ第一期は葡萄牙國とのみの貿易時代で、十九世紀の初め迄は、専ら母國の葡萄牙の仲介で行はれてゐた。そして新進殖民地一般の現象通り、輸出は常に輸

入に超過してゐた、一例を挙げれば一七九六年に於ける輸出は千四百七十七萬五千八百六十四「ミルレース」で、輸入は六百九十八萬二千三百五十六「ミルレース」であつた。然し此の時代には大規模の密輸入が行はれて居たので、之等の數字が正確だと云ふ事は出来ない。奈翁の對英政策たる、有名な大陸通商條令の餘波が、ドンジョアン王の伯國避難、リオに奠都が行はれると共に、一八〇八年の詔勅で、伯國の諸港を開放する事となつて、第二期たる貿易獨立時代に入つた。

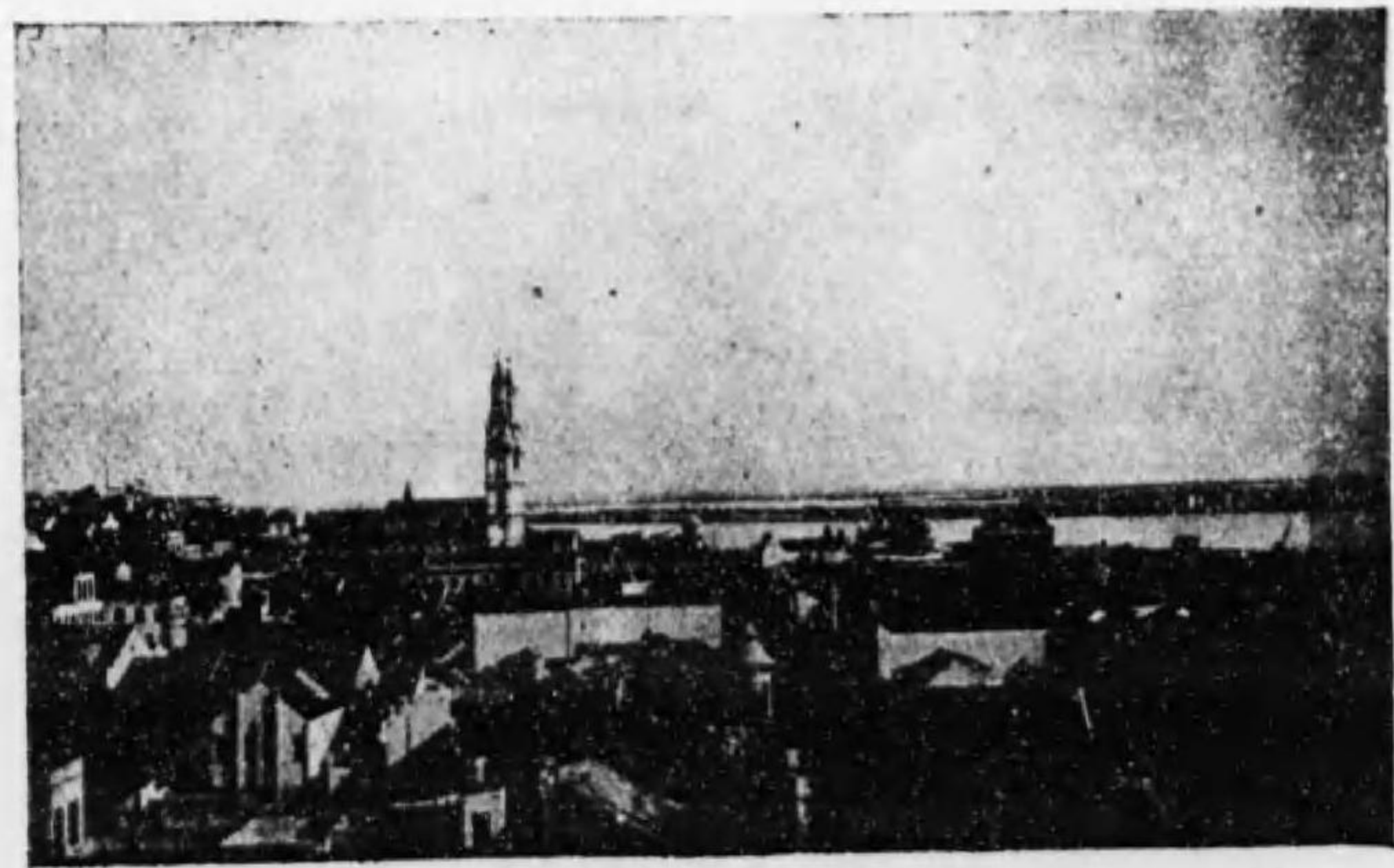
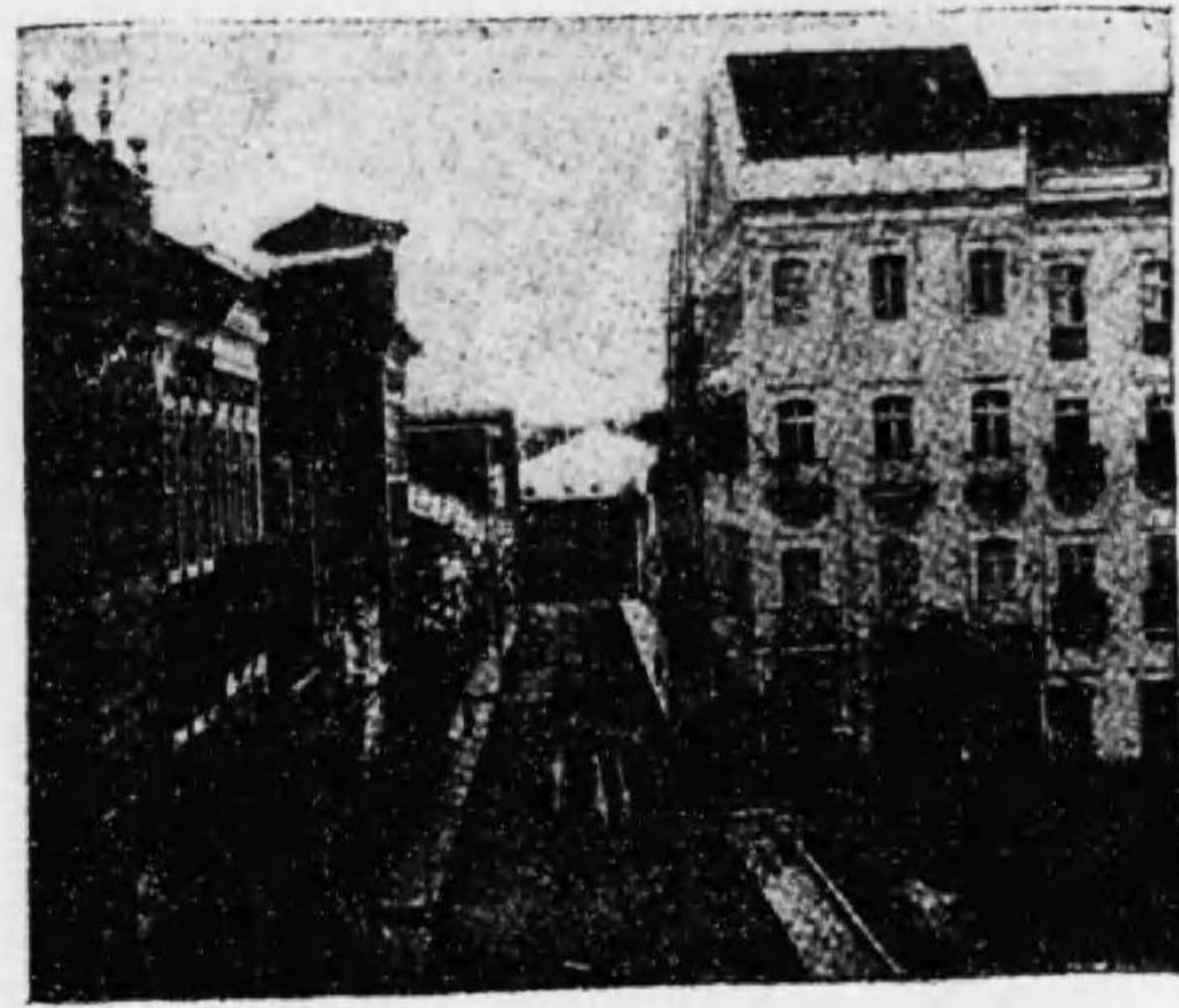
其後葡國が漸時衰退するに反して無限の天富を抱擁する伯國は、日に月に勃興して行つた、それと共に機敏な英國商人は手を拱いてはゐなかつた、盛に活動を初めリオ、バイア、ペルナンブゴ等に移住して貿易に従事し、一八一〇年には英國品輸入に、特惠關稅の適用を受ける等商業上の關係に於て、英國は遂に昔日の葡國たるの觀があつた。現今に於ても製造工業の、歐米先進國に比して幼稚の爲に、輸入品は主として製造工業品奢侈品機械類で輸出品の主たるものは農産品原料であるが勿論其當時に於ても輸入は工藝品で、輸出は甘蔗糖、火酒、金、棉花、鞣皮、珈琲、カ、オ、木材、印度藍等であつた。一八二二年の伯國獨立前後から佛國が對伯貿易に注目活躍を初めた、然し佛國は自己の植民地保護の爲に、伯國品輸入を排斥したので殆ど片貿易であつた、一八二六年には佛國側に非常に有利な通商條約が締結された、當時の對佛貿易は。

年次	輸出	輸入
一八二七	一三、一五二、四一四 ^法	一一、四三五、九〇八 ^法
一八三六	一〇、〇三四、七七二	二五、二二〇、七八九

であつた、とにかく此の時代は英國が伯國貿易の牛耳を握つて居たので之を第三期の英國黃金時代と見やう
其後英國は伯國貿易の横網格を保持して歐洲大戰まで來たが、その以前から獨逸が一流のダンピングと長



心中業商のロイ子ヤジ・ア・オリ府首 (上)
心中業商の市ロウバンサ州聖 (下)



市コアンナルス(上) 市アイバ(中) 市レグレア・トル*(下)

期取引を武器として活動を初め、米國が得意の宣傳を以て侵入し來たり、英獨米三つ巴の爭覇戦を惹起したが、戰爭の突發となつて獨逸は全滅し、英國の餘力なきに乗じて、米國は遂に天下を握つた。平和來と共に英獨は共に恢復運動を開始し、英米は再び首位を爭ふに至り、獨逸も中軸の地位まで躍進して來たが、まだ戰前の元氣は見られない。一八三六年から七年に亘る期間の伯國の貿易總額は約七〇、〇〇〇、〇〇〇「ミルレース」で、其の内四〇、〇〇〇、〇〇〇「ミルレース」が輸入で輸出は三〇、〇〇〇、〇〇〇「ミルレース」であつた、そして當時の爲替は「ミルレース」に付廿六片から四十片を上下してゐた。

ドンペドロ二世王が、丁年宣言をした頃は、各州に起つて居た騒亂も平定し、地方生産力も復舊發達し初めたので、貿易は漸次に隆盛に向つた、そして一八六〇年迄はその中數年を除いて入超を繼續し、一八六一年より今日に至る迄、數年を除く外順潮に進み一九一三年及び一九二〇年の大入超を除いて、絶えず輸出超過を續け、殊に一九一九年の如きは八四四、四六〇、〇〇〇「ミルレース」英貨換算五一、九〇八、〇〇〇磅と云ふ出超の記録を作つた。又一九二〇年の入超も三三八、二二二、〇〇〇「ミルレース」、英貨換算一七四八四、〇〇〇磅で、一九二二年は伯國貨幣に於ては一九、八八三、〇〇〇「ミルレース」の出超を示したが、換算して一、八八一、〇〇〇磅の入超に終つた。左に一八五〇年以降今日に至る半世紀間貿易の経路を示せば

年 次	輸 出		輸 入		差引出(入)超	
	伯貨額	英貨額	伯貨額	英貨額	伯貨額	英貨額
一八五〇—一(三ヶ月)	紙幣コント (千ミルレース)	千磅	紙幣コント (千ミルレース)	千磅	紙幣コント (千ミルレース)	千磅
一八五〇—一	六七、七八八	八、一二一	七六、九一八	九、二一五	入	九、一三〇
一八五一—二	六六、六四〇	八、六八三	九二、八六〇	一一、二六四	入	二六、二二〇
一八五二—三	七三、六四五	八、四一八	八七、三三二	九、九八二	入	一三、六八七

一八七八一九	二〇四、〇五八	一九五〇八	一六三、五〇五	一五、六三一	四〇、五五三	三、八七七
一八七九一〇	二二二、三三二	一九七八九	一七三、六四五	一五、四五四	四八、七〇七	四、三三五
一八八〇一一	二二〇、九六三	二一、二四九	一七九、六六八	一六、五二九	五一、二九五	四、七二〇
一八八一一二	二〇九、八五一	一九、一三八	一七二、二五二	一六、六二一	二七、五九九	二、五一七
一八八二一三	一九七、〇五三	一七、三七八	二一六、二六四	一六、七八二	六、七六九	一、三〇六
一八八三一四	二一七、〇七三	一九、四九三	二〇二、五三〇	一八、一八七	一四、五四三	一、三〇六
一八八四一五	二二六、二七〇	一九、五〇四	一七八、四三一	一五、三八一	四七、八三九	四、一三三
一八八五一六	一九四、九六二	一五、一一〇	一九七、五〇二	一五、三〇六	二、五四〇	四、一三三
一八八六一七	二六三、五一九	二〇、五〇二	二〇七、二〇四	一六、一二〇	五、六三一	四、一三三
一八八七(後半年)	二二五、一七〇	一一、七〇三	一〇三、六三八	九、六九〇	二、五三二	二、〇一三
一八八八	二二七、二五一	二四、八九九	二一五、五〇八	二二、〇一七	二一、七四三	二、二八二
一八八九	二五五、七七九	二八、一〇九	二一七、七九九	二二、九三五	三七、九八〇	四、一七四
一八九〇	三二六、四五三	三〇、六〇五	二九四、八八〇	二七、六四五	三一、五七三	二、九六〇
一八九一	五七四、三六七	三五、五二四	五一二、一〇〇	三一、五二四	六二、三六七	三、八五八
一八九二	七八四、四六三	三九、一一一	五八九、五七五	二九、四〇二	一九四、八八八	九、七一九
一八九三	七〇五、五八二	三三、九〇一	六五二、四二五	三一、三四七	五三、一五七	二、五五四
一八九四	七六六、八〇四	三二、〇六〇	七八二、四五二	四二、七〇四	一五四、八八八	二、五五四
一八九五	八八二、六五八	三六、二九三	八四四、五八一	三四、七五一	一五四、八八八	一、五四二
一八九六	八四四、一〇七	三一、六五四	八六四、二一三	三二、四〇八	二〇、一〇六	一、五四二
一八九七	一〇一、七一九	三〇、〇三三	八四四、五八〇	二六、九八二	一六四、九一六	五、二六一
一八九八	一〇一、三〇一	二九、三三〇	八六四、六一〇	二六、五六八	七、七九九	二、三一一
一八九九	九五四、七六八	三三、一六一	六四四、九三九	二五、一五一	八、八五六	二、七六一
一九〇〇	八五〇、三三九	四〇、六三二	四四八、三五三	二一、三七七	二〇、五四〇	八、〇一〇
一九〇一	八六〇、八二七	三六、四三七	四七一、一一四	二三、二七九	四一、二四七	一九、二四五
一九〇二	七三五、九四〇				二六四、八二六	一三、一五八

一八五三一四	七六、八四三	九、一一一	八五、八三七	一〇、一八七	八、九九六	一〇、六八
一八五四一五	九〇、六九九	一〇、四三二	八五、一七一	九、八〇三	五、五二八	六、三六
一八五六一六	九四、四三二	一〇、八四一	九二、七七九	一六、五六一	一、六三三	一九〇
一八五七一七	一四、五四七	一三、一五〇	一二五、二二七	一四、三七六	一〇、六八〇	一、二二六
一八五八一八	九六、二〇〇	一〇、六九六	一三〇、二六四	一四、四四六	二〇、四八六	八、七七七
一八五九一〇	一〇六、七八二	一一、三七二	一二七、二六八	一三、五五四	一、八〇〇	二、一八二
一八六〇一一	一一二、九五八	一一、七九三	一一三、〇二八	一一、八〇〇	七〇	七
一八六一一二	一二三、一七一	一二、二三一	一一〇、五三一	一二、一六七	五四九	五八
一八六二一三	一二〇、七二〇	一二、二四四	九九、一六三	一一、五三三	一〇、一八九	一、一一七
一八六三一四	一三一、二〇四	一四、二四四	一二五、二〇〇	一四、〇一六	五、五〇四	二、七一一
一八六四一五	一四一、一〇〇	一四、六二九	一三一、八〇〇	一三、七三四	九、三〇〇	六、一三
一八六五一六	一五七、一〇〇	一五、八六七	一三七、八〇〇	一三、九一八	一九、三〇〇	九、九九
一八六六一七	一五六、三〇〇	一四、六一四	一四三、二〇〇	一三、二八九	一三、一〇〇	一、九四九
一八六七一八	一八五、三〇〇	一三、一一九	一四〇、六〇〇	一三、〇九六	四四、七〇〇	三、一六五
一八六八一九	二六二、七〇〇	一五、八九二	一六六、七〇〇	一三、〇九六	三六、〇〇〇	二、八二三
一八六九一〇	一九七、一〇〇	一八、一一三	一六八、三〇〇	一五、四六七	二八、八〇〇	二、六四六
一八七〇一一	一六八、〇〇〇	一六、八一七	一六二、四〇〇	一五、五一六	五、六〇〇	五、六一
一八七一一二	一九〇、七〇〇	一九、八七一	一五〇、三〇〇	一五、五一六	四〇、四〇〇	四、一一
一八七二一三	二一四、九〇〇	二二、三九二	一五八、五〇〇	一六、五一六	五六、四〇〇	五、八七六
一八七三一四	一八七、七〇〇	二〇、六二〇	一五二、八〇〇	一六、六〇九	三六、九〇〇	四、〇一一
一八七四一五	二〇八、四九四	二二、三九二	一六七、五四五	一七、九九五	四〇、九四五	四、三九七
一八七五一六	一八三、六〇二	二〇、八二〇	一七二、一四九	一九、五二二	一一、四五三	一、二九八
一八七六一七	一九六、五六三	二〇、五七三	一五六、八八六	一六、五〇四	三八、六七七	四、〇六九
一八七七一八	一八六、三四九	一九、〇六三	一六三、五二七	一六、七二八	二二、八三二	二、三三五

年次	輸 出	輸 入	差引出(入)超
一九〇三	七四二,六三二	四八六,四八九	二四二,一〇八
一九〇四	七七六,三六七	五一二,五八八	二五九,一五
一九〇五	六八五,四五七	四五四,九九五	二二九,八三〇
一九〇六	七九六,六七〇	四九九,二八七	三三三,二〇四
一九〇七	八六〇,八九一	六四四,九三八	四〇,五二八
一九〇八	七〇五,七七一	五六七,二七二	一三八,五一九
一九〇九	一,〇一六,五九〇	五九二,八七六	三七一,一三九
一九一〇	九三九,四一三	七一三,八六三	四七,八七二

(口) 最近に於ける對外貿易

伯國の對外貿易の沿革は、既に説明した通りだが、歐洲戰前後から今日に至る、最近十ヶ年餘の狀勢を略説して見やう。さて一九二一年以降一九二二年即ち十ヶ年間の、輸出入貿易關係を次表に示す。

年次	輸 出		輸 入		差引出(入)超
	數量 千噸	伯貨額 紙幣千ミルレ イヌ(コント)	數量 千噸	伯貨額 紙幣千ミルレ イヌ(コント)	
一九一一	一,二八〇	一,〇〇三,九五五	四,三三三	七五三,七二六	三三〇,二二九
一九一二	一,二〇一	一,二九,七七七	五,〇〇七	九五一,三七〇	一六八,三六七
一九一三	一,二八三	九八二,六八八	五,九三三	一,〇〇七,四九五	一七五,七七七
一九一四	一,三二〇	七五五,七四七	三,四六六	五六一,八五三	一五三,八九四
一九一五	一,八〇九	一,〇四二,二五八	二,九九九	五八二,九九六	四九,二六二
五年間計	七,〇八三	四,九〇三,四七五	二二,六一二	三,八九七,四三〇	一,〇〇六,〇四五
同上平均	一,四一六	九八〇,六九四	四,三三三	七九,四八六	二二,一三八

之に依つて如何に伯國對外貿易が健實に發達しつゝあるか、容易に窺知せられる。そして一九一〇年以前に於ける輸出超過の記録は、一九〇九年の四二二,七二四、〇〇〇「ミルレース」即ち二六,五八五,〇〇〇磅であつた、一九一〇年後に於ける出超記録は一九一九年の八四四、四六〇、〇〇〇「ミルレース」、即ち五一、九〇八、〇〇〇磅で、單に十ヶ年を通じての最大額のみならず、實に伯刺西爾貿易史上未曾有の大出超であつた。然るに翌一九二〇年は、此の反動的に世界經濟界を通じての悲況、恐慌に影響を受け、遂に三三、八、二二二、〇〇〇「ミルレース」換算して一七、四八四、〇〇〇磅と云ふ、大入超の記録を残すに至つた。

けれども前表統計を一覽する時は、伯刺西爾が外國生産品に對する、購買力の増進を示し、又自由生産品輸出を漸増しつゝある事は、やがて近き將來に目下負擔する巨額の借款の元利を償還支拂し、更に貨幣本位をも確立せしむる事に依つて、變動極なき爲替の向上安定を來たさしむるに、充分なる可能性を有する事が明に知られる。

尙ほ前記統計中に於て、例外的に表はれた出(入)超の數字に就て、其の經濟的主因を一言すれば、一九〇一年及び一九〇六年の多大なる出超は、伯國輸出貿易の生命たる、珈琲の記録的收穫があつたに從つて、巨

額の輸出があり、一九〇九年の出超記録の原因も同様に珈琲の大豊作と共に前年に比して千餘萬磅の輸出増加を示した、加之同じく主要輸物の一たる、護謨の價格異常に騰貴したので、輸出數量は大差はなかつたが、價格は七百萬磅を増加した爲である。

更に伯國貿易史上新記録を作つた一九一九年の、五千二百萬磅になんぞとする大出超の主因は、一は戦後無上の好景氣に押されて、輸出量を増加せると共に各生産品の價格は著しく騰貴したると共に、一方珈琲は政府の價格調節が見事に成功し、殆ど例外的價格に騰貴したのに依るのである。

又伯國貿易統計を一覽するに、輸出數量が輸入のそれに超過するは、僅かに戦争中頃迄及び終期に於てのみで、其他は一体に輸入量は輸出量を超へてゐる、これは伯國への輸入國の主なるものが、交戦國で戦争に疲弊して輸出の餘力なく、加之船舶の不足が輸入を妨ぐると共に、各國が伯國産品を殊に農産物の供給を仰いだ爲である。そして一般輸入量の輸出量を凌ぐのは、輸入品は機械類、鐵材類、石炭の如き重量重き物品なるに反して、輸出品は農産食糧品、諸原料品の如き、比較的輕量のものが多いを占めてゐる關係である。

約四十年來伯國輸出貿易のパロメーターたる位置を占むる珈琲は、一九〇八、一九一七及び一九一八年に大下落を來たし、その結果價格調節策が施行された、かくて珈琲價額増加の年は輸出好況、減退の時は不振となるのであつた、只一八六五年と一八七〇年の出超は、棉花輸出増加に依るのである。戦争中の輸出増加は需要に押されて新生産品の發展の爲である、休戦と共に之等は再び起つ能はざるまでに打撃を受け、爲に一九一八年に稍々減退を示し、一九一九年には珈琲價格輸出量向上と共に恢復した、又同年の好成績に與つて力あるものは、單に珈琲のみでなく、バナ、雜語肉、冷凍肉、鞣皮、毛皮、米、砂糖、カ、オ、護謨、椰子蠟、搾油用果實、マテ茶、木材、玉蜀黍、マンガン其他の鑛産品の非常な發展の爲であつた事は見逃が

されない。かくて同年の出超額は實に、一八九〇年の輸出入總貿易額より大に、一九〇七年の輸出總額より大なる事を得た、之で若し年々外國へ支拂ふ、聯邦、州、市郡其他企業會社の借款等の元利支拂約三千萬磅がなかつたら、尙ほ善く當時の爲替を改善し得たに相違なかつた。

一九二〇年に於ては、前年の異常の好景氣の後を受け、購買力俄に膨脹し、外國に向つて買付注文推積すると共に、前年の賣過ぎに仕向地は在庫充實の爲輸出注文更になく遂に貿易の不均衡は世界的となり、經濟界の不況恐慌と變じ、破産倒産頻出の渦中にまき込まれた伯刺西爾も、遂に千七百萬磅と云ふ入超の記録を作るに至つた。政府は輸入制限、重要輸出品價格調節に努力し、極力輸出奨励に務めた結果、一九二一年八月以降に於て再び出超の傾向を辿つて來て、同年々末に於て紙幣に於ては一九、八八三、〇〇〇「ミルレス」の出超に終つたが、爲替の逆境は遂に英貨換算額に於て百八十八萬磅の入超を來した。

本年一九二二年に入ると共に、後節に説く如く益々順潮の傾向に進み、着々前々年來の入超を恢復補填しつつある、そして一月乃至五月の五ヶ月間の成績に依る時は、今年の多額の出超に終ることは疑ふ餘地はない。

(ハ) 一九二一年の輸出貿易

一九二〇年の恐慌で平衡を失つた伯刺西爾の外國貿易は、その後半期からの官民一致で輸入制限、輸出増進に努力した結果は空しからず、一方世界經濟界も漸く落ち着き、恢復期に向つたので、八月以降に於ては毎月出超となつて行つた、そして年末の決算に於て、紙幣價額では僅ながら出超とまで漕ぎつけたが、英貨

換算價額に於て尙は少額の入超となつた。之は爲替の逆潮依然として繼續して底知らずの状を呈し、そして輸入勘定は外國貨幣を以てする結果、かうした結果を生じたのである。即ち次に示す各年平均爲替に依り如何に一九二一年に於て激落したかを知り得やう。

一九一五年	一二片三二分ノ一三
一九一六年	一片六四分ノ五九
一九一七年	二片三二分ノ二三
一九一八年	二片六四分ノ五五
一九一九年	四片六四分ノ一五
一九二〇年	四片六四分ノ三三
一九二一年	八片三二分ノ九

其の輸出總量に於ては、一九一九年の記録と其の情勢を受けた一九二〇年に劣るだけで、可成に繁盛を極めたものと云へる。

同年に於て輸出價格の上騰したものは、羊毛、牛脂、珈琲、マンデオカ粉、果實、搾油用果實、煙草、玉蜀黍、油脂等で、低落したものは、豚脂、罐詰肉、冷肉、皮革、毛皮、乾肉、マンガン、綿花、米、砂糖、椰子蠟、豆、マテ茶、木材等であつた。かくの如く大量輸出品の多くは價格の低落を受け、僅かに珈琲が中央政府の調節策の爲に高騰したのと、煙草及び搾油果實に大騰貴を見たばかりである。けれども之を戦前の一九一三年度の成績と比較する時は、如何に刺西爾の生産力及び貿易力を増大したか々明である。次に前數年間及び戦前との輸出の部類別を示せば

年次 動物性 産 植物性

年次	動物性		産		植物性	
	數量	伯貨額 英貨額	數量	伯貨額 英貨額	數量	伯貨額 英貨額
一九一三	噸	紙幣コント (千ミルレスト) 千磅	噸	紙幣コント (千ミルレスト) 千磅	噸	紙幣コント (千ミルレスト) 千磅
一九一七	一九一七	一九一七	一九一七	一九一七	一九一七	一九一七
一九一八	一九一八	一九一八	一九一八	一九一八	一九一八	一九一八
一九一九	一九一九	一九一九	一九一九	一九一九	一九一九	一九一九
一九二〇	一九二〇	一九二〇	一九二〇	一九二〇	一九二〇	一九二〇
一九二一	一九二一	一九二一	一九二一	一九二一	一九二一	一九二一

次に國富開發の經路を知る爲、戦前一九一三年と、一九一九年以來一九二一年に至る各年の、重要輸出品廿五種に就き、數量と輸出價額(英貨換算)を示す。此の表に依つて見るに、同一點を上下して居るものは極めて少數で、護謨が世界一般の經濟界不況に影響されて減少したのと、綿花が一九一三年の輸出額が例外であつた爲に、減退の觀を呈したのを除いて、其他の物は一体に大増加をした。又豚脂は戦前に比して非常な増加と云ひ得るが、之を前年に比する時は非常な減退である。戦時中及び平和來の初年に於て、大發展をした罐詰肉は、前年に於て激減し一九二一年に入つて更に減少するに至つた。

品 目	單位	數					價 額 (英磅)				
		一九一三年	一九一九年	一九二〇年	一九二一年	一九二二年	一九一三年	一九一九年	一九二〇年	一九二一年	一九二二年
珈 啡	千袋	一三、三六八	一三、九六三	一一、五五五	一三、三六九	四〇、七九	七、三〇七	五、八三三	三、四六四	三、四六八	
豚 肉	噸	三五	二〇、〇六	二、一六六	五、一九八	二	二、三三五	一、一〇〇	三、四六八	三、四六八	

品目	単位	一九一三年	一九一九年	一九二〇年	一九二一年
珈琲	袋	四六	九五	七五	八二
豚脂	噸	一一〇〇	一九九二	二〇一一	一八七二
蹄肉	噸	八七五	一六六四	一九二八	一〇五四
冷肉	噸	九二二	一一一三	一〇五七	一一三五
皮	噸	九一四	一七七八	一七三九	一〇七二
羊毛	噸	三、四九一	九、八八七	一一、四二四	七、七四一
毛皮	噸	九一四	四、九五二	五、〇〇五	四、〇七二
牛脂	噸	一〇八〇	九、九三三	一一、四二四	七、七四一
乾肉	噸	一一〇〇	一、三八六	一一、四二四	八六一
マンガン	噸	二二	八二	一一、四二四	一、四五〇
綿花	噸	九二五	三、〇二〇	三、二六八	二、三四三
米	噸	四七五	六八九	七〇〇	五七六
砂糖	噸	一八一	八三〇	九七〇	五四七
護模	噸	四、二九三	三、一七四	二、四七六	二、〇五九
椰子	噸	八〇三	一、四九〇	一、一八八	一、〇〇九
椰子蠟	噸	一、七〇五	三、三〇〇	三、〇九三	二、六六一
マンシオカ粉	噸	一四四	三二七	二八四	三三五
豆	噸	二六〇	三五六	三六二	四六八
卓用果實	噸	八一	一一二	一〇九	一二七
榨油用果	噸	一一四	五二六	五〇三	五五七
煙草	噸	八三三	一、六六六	一、三三五	一、六七四
マテ茶	噸	五四〇	五八二	五五七	六〇四

主要輸出品平均相場

(單位紙幣ミレロス)

上表同品目に就き、各年の輸出平均價格を伯國紙幣にて示せば、

品目	単位	一九一三年	一九一九年	一九二〇年	一九二一年
蹄肉	噸	三三	一、六四九	一、二八三	二、七〇〇
冷肉	噸	一	六、六〇〇	六、六〇〇	三、五九二
皮	噸	四一、三八五	三、七〇〇	四、四四三	四、二九九
羊毛	噸	二、九五三	一、六三二	三、二五三	四、〇三二
毛皮	噸	三、五八四	三、九六六	二、九二一	五、七五
牛脂	噸	三	七、八八九	四、三三三	二、九九〇
乾肉	噸	一三、三〇〇	四、七三七	二、五五九	二、九〇〇
マンガン	噸	三、四三四	二、四六六	二、四〇八	二、三三七
綿花	噸	五二	二、四四三	一、九〇七	二、四三七
米	噸	五、三七二	二、四四三	五、六〇五	一、三三七
砂糖	噸	三、三三二	二、〇九一	一、七三〇	三、七二四
護模	噸	三、七五九	二、五三二	一、七四九	三、二四〇
椰子	噸	三、八六七	三、五五九	四、八三三	三、八二二
椰子蠟	噸	四、八七六	八、六六〇	一、五〇六	三、七二六
マンシオカ粉	噸	七	三、一〇一	一、三〇五	一、三三一
豆	噸	二九、三三八	四、〇九二	一、六六七	一、六八二
卓用果實	噸	五、四九三	六、三六七	二、六三六	一、三三三
榨油用果	噸	二九、七四三	三、四六九	一、六五二	一、三三三
煙草	噸	六五、八四三	九、〇六六	三、二〇一	一、九三三
マテ茶	噸	二〇、三三〇	一、〇、四九〇	一、〇、四九〇	一、四九三
木	噸	一〇、八三三	二、五九四	一、〇、四九〇	一、四九三
玉蜀黍	噸	三、四七五	四、四三六	三、五九七	一、四九三
油	噸	八四	四、四三三	五、七三三	二、四七

木	100	128	163
玉	1	253	223
油	2143	1876	1570
脂			1373

(二) 輸出貿易上の状勢

伯刺西爾輸出貿易の大部分の仕向先は、米國、東歐中歐諸國及び南米諸國である。新しく開拓した市場には阿弗利加がある、亞細亞方面との市場はまだ比較的進歩しない、日本との貿易に於ても、輸入は刻々増加を示したが、輸出は遅々として進まなかつた、然し日本の工業界の活躍につれ、無限の諸種の原料に富む伯刺西爾から、近き將來にもつと密接な關係を持ち來す事は確である。かくて伯國産品は既に世界一般に擴まつた。

米國は七十年来伯刺西爾の大顧客である。珈琲、護謨、カ、オ、榨油用果實等の世界最大消費地は米國である、と云ふ事が既に伯刺西爾の最大顧客である事を裏書してゐる、又同國は伯刺西爾から、毛皮、皮革、砂糖、マンガン等を多量に輸入する、伯國産マンガンの如きはその大部分は米國へ輸出されるのである。一九二〇年の砂糖輸出は非常な勢に達し、其後衰退したと云つても、米國は砂糖消費の最大市場である、爲に此の點からでも將來に樂觀が充分出来る、殊に同國に於ける多量需要品は皆伯刺西爾が生産する、即ち同國が伯國に輸入を多量にすると云ふ事は絶對的必要なのである。かくて國內に於て同様の生産がない爲に、珈琲、カ、オ、護謨の如き伯國品は輸入税を課せられない。

次表大陸別輸出表に示す如く、一國としては米國への輸出額が主位を占めてゐるが、大陸として比較する

時は、一九一三年には歐洲への輸出額は、南北中米への輸出額を遙に凌いだ、所が一九二一年に於ては米大陸は歐洲を越へて第一位に上り、歐洲は第二位に落ちた。又對阿輸出は非常に増大したが、亞細亞への輸出は著しく減少した、對濠洲輸出は消滅してしまつた。

大陸別輸出表

仕向先	一九一三年	一九二〇年	一九二一年
歐羅巴	紙幣コソト (千ミルレス) 英貨千磅 五七八,三八五	紙幣コソト (千ミルレス) 英貨千磅 七八六,八五四	紙幣コソト (千ミルレス) 英貨千磅 八三〇,四〇〇
北、中米	紙幣コソト (千ミルレス) 英貨千磅 三二七,〇九二	紙幣コソト (千ミルレス) 英貨千磅 七三三,七一七	紙幣コソト (千ミルレス) 英貨千磅 二八,三〇一
南米	紙幣コソト (千ミルレス) 英貨千磅 七三,三〇〇	紙幣コソト (千ミルレス) 英貨千磅 二〇四,三六〇	紙幣コソト (千ミルレス) 英貨千磅 二一,八二七
阿弗利加	紙幣コソト (千ミルレス) 英貨千磅 一〇,八七一	紙幣コソト (千ミルレス) 英貨千磅 七二五	紙幣コソト (千ミルレス) 英貨千磅 二一,二五六
亞細亞	紙幣コソト (千ミルレス) 英貨千磅 三,一〇九	紙幣コソト (千ミルレス) 英貨千磅 二〇七	紙幣コソト (千ミルレス) 英貨千磅 三三,五五七

更に之を輸出仕向國別に見る時は、第一位を占むるは米國で、戦後に於て非常に上進した。この次表に明であるが、たゞ英貨換算額に於て、戦前と一九二一年度と稍々等しきは、一九二一年に於ける爲替大下落に歸因する。

年次	伯貨額 (紙幣コソト(千ミルレス))	英貨額 (磅)
一九一三	三二六,五五二	二一,一〇三,四八三
一九一八	三九三,八九六	二一,二八七,〇一五
一九一九	九〇一,八一四	五四,〇七九,九四七
一九二〇	七二五,一八九	四四,九四七,一八七
一九二一	六二七,九一四	二一,六六四,六〇七

戦前に於て輸出仕向國中第二位を占めてゐたのは獨逸であつた、然るに一九二一年に於ては佛蘭西が占めた、けれども獨逸は戦争に依つて抹殺された貿易を、着々恢復しつゝ、既に第三位に上つて來たので、再び昔日の位置に返ることは確實である、さて最近の對佛輸出状況を、戦前に對比して示せば、

年次	伯貨額	英貨額
一九二三	紙幣コソト(千ミルレリス) 一一九、八八七	二、九九二、四四二
一九一八	一〇二、四一六	五、五六四、〇六五
一九一九	四六三、七九三	二七、二六七、七四三
一九二〇	二〇〇、四五八	一二、八五〇、〇〇三
一九二一	一七〇、八二二	五、七九七、六〇四

一九一九年の輸出額が記録で、例外であつた事は既述の通りである、其翌年から多少減退はあつたが、戦前の一九一三年に比して、一步を進め得た事は争ふの餘地はない。

一九二一年の對獨輸出は戦前より多額であつた。即ち

年次	伯貨額	英貨額
一九二三	紙幣コソト(千ミルレリス) 一三七、三九〇	九、一五九、三二三
一九一八	—	—
一九一九	一〇、五二三	七〇一、四九七
一九二〇	一一二、四〇一	六、一八四、二一〇
一九二一	一六五、〇四五	五、五六九、五三一

對和蘭輸出は一九二一年には一躍して第四位に上つたが稍々例外である。

對英輸出貿易は、戦前に於ては伯國輸出貿易の第三位を占め、そしてこの位置は一九二〇年迄失はなかつたが、俄然一九二一年に於ては和蘭にまで蹴落されて第五位に下つた、之は同年に於ける抗夫大同盟罷業が大に因してゐるらしい。即ち

年次	伯貨額	英貨額
一九二三	紙幣コソト(千ミルレリス) 一三五、四三〇	九、〇三五、三〇七
一九一八	一三七、一〇〇	七、三六二、二三九
一九一九	一七五、八五〇	一〇、五二二、六四一
一九二〇	二〇八、八二四	九、三一一、六〇二
一九二一	一一八、三四六	四、一三七、八九四

對日本輸出貿易も最も健全に發展の趨勢を示してゐる。一九二一年に於ては廿八位にある、

年次	伯貨額	英貨額
一九二三	紙幣コソト(千ミルレリス) 四四	一一、九三一
一九二七	三七九	二一、二三八

以下第六位亞爾然丁を初め一九二二年の輸出額の順位に各國別の輸出消長を表示すれば、

輸出貿易額國別表

仕向國	一九二三年		一九二〇年		一九二二年	
	紙幣 千ミルレイト	英貨額 磅	紙幣 千ミルレイト	英貨額 磅	紙幣 千ミルレイト	英貨額 磅
亞爾然丁	四六、五六三	一、一〇四、一八三	一一〇、一一七	七〇、九三、九九五	一一二、九〇〇	三、八四七、八五二
伊太利	一一、五五三	八三六、八九〇	一一三、一一二	七八二、六八〇	一一〇、二〇四	三、八一〇、一〇六
ウレグアイ	二二、六八八	一、五二二、五〇三	七七、一四三	四、七七八、〇二一	九五、九九六	三、三四一、五七二
白耳義	二四、九八四	一、六六五、六〇七	四七、七九四	二、八八四、四〇六	四三、〇三三	一、四五四、八一五
葡牙	四、八九七	三二六、四六三	三五、六二八	二、〇四九、三六九	三六、六五〇	一、二五八、一六九
瑞典	九、八五九	六五七、二八七	三〇、二〇八	一、七八八、四五〇	二八、四〇一	九六一、五九四
南阿邦	四、九八九	三三三、六三二	一三、六八九	八八九、四〇六	一五、四六二	五二七、八三一
丁抹	二、二六四	一五〇、九四三	一六、二一五	八九四、九一九	一三、二九九	四四八、九八九
アルセリ	三、三〇二	二二〇、四八二	四〇、二〇〇	二五八、〇六九	九、五八九	三一六、四〇〇
芬蘭	一、四八八	九九、二三一	一、八二五	九八、六九三	九、〇八二	三一六、四〇三
諾威	一、六五〇	一一〇、〇〇〇	二、二八六	一三〇、七五七	四、一五五	一四一、五三二
埃及	五、二四三	三四九、五三九	三〇、一三三	一九六、六九五	四、〇二六	一三三、〇三二
西班牙			一一、五三八	六六二、三四〇	三、二二八	一一四、六七六

智利	二、六九五	一七九、六七三	六、九〇九	四五七、〇二七	三、一五六	一〇四、九三八
キユーバ			五、六七四	三四三、七一九	二、一九九	七二、八二六
カナダ	四九六	三三、〇六五	二、一〇八	一一八、八六〇	二、〇一一	七〇、七八八
マテイラ島	八	五〇六	四九三	二五〇、四七	一、九三八	六五、五四七
シアラタル	四一七	二七、七九四	六三〇	三九、三四二	一、三九七	四七、二一一
カボベルデ			二二三	一〇、九〇六	一、三八二	四五、六六〇
ギンシヤ	二四〇	一六、〇〇六	一、〇〇四	五七、五九三	一、〇四六	三五、六九二
バルバードス			四七九	二七、一六九	五七一	一八、九二二
カナリア島	二四七	一六、四三七	八〇九	四二、六七〇	四五一	一四、九二六
歐洲土耳其	三、一九四	二二二、九四四	一一、一五	七一、六九〇	四四八	一四、四二五
埃太利	四六、九三四	三、二九、五六六	一、一八五	五三、二八四	四二九	一四、〇七五
チユニス	二三五	一五、六七九	四四四	二七、二九二	二三八	八、〇〇二
モロッコ	一六三	一〇、八八六			二二六	七、三五四
秘露	六四	四、二四二	六〇	二、九九八	一三一	四、四三二
亞細亞土耳其	三、〇〇九	二〇〇、〇三二	二二一	一一、四二八	九六	三、三一二
瑞西			五	二七二	一〇〇	三、二六八
クレタ			二八	一、四四三	七二	二、四一七
マルタ	一六一	一〇、七四三	三三	一、八一	八三	二、七八八
パラグアイ	二九八	一九、八八六	七三	三、七九三	三六	一、一七九
其他略す						

之に依り著るしく増加したのは南阿、バルバードス、カボベルデ、マテイラ、加奈陀地方で、對西班牙及び米大陸中數國への輸出額は、戦争と共に増大したが、平和來と共に舊態に戻つてしまつた。又之を輸出各港別に見る時は、次の統計に示すが如く、サンパウロ州のサントス港が、巍然として群を抜

いて首位にあることは、リオ・デ・ジャネイロ港が輸入港としての首位にあるのと兩々相對してゐる。戦前に於ける各港輸出價額に依る順位は、第一サントス、第二リオ、第三マナオスであつた、一九二一年に於いては、サントス首位に、リオ第二に、第三バイアが占めた、

伯國各港別輸出表

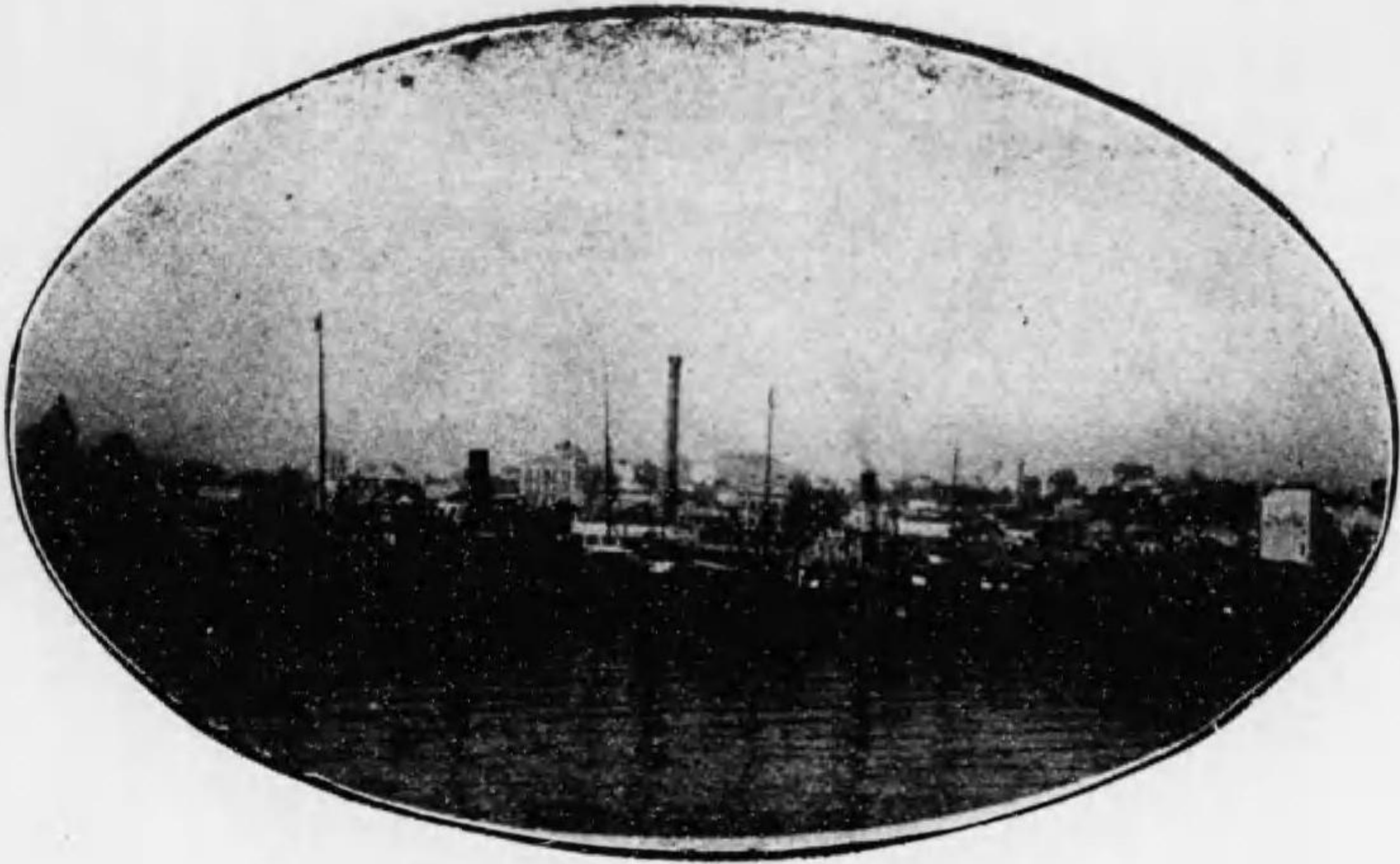
港名	一九一九年		一九二〇年		一九二一年	
	紙幣額 (千ミルレリス)	英貨額 千磅	紙幣額 (千ミルレリス)	英貨額 千磅	紙幣額 (千ミルレリス)	英貨額 千磅
サン	一〇八七、四八七	六四、四五八	八六〇、四七六	五三、二五〇	八四一、〇一四	二八、七七一
リオデジャネイロ(首都)	三八四、一七二	二一、〇四六	二六一、五一八	一五、六九八	二七四、九六八	九、四四九
バイア	二一六、九三二	一三、〇八〇	一四五、四〇三	八、七四六	一三三、九二二	四、六四九
レシイフ	六一、〇二五	三、七二四	九三、九五〇	五、八〇五	八一、二一九	二、七八八
ビクトリア	四七、七一五	二、八七四	三二、七五七	一、九七三	四七、六六四	一、五九九
サンタアンナ	五九、六三一	三、五二二	三一、六五七	一、九五二	三七、七六九	一、三〇九
ドリアラメント	七七、〇三〇	四、五六〇	四八、九一七	三、〇五一	三七、二七六	一、二八六
マナオ	六一、〇八八	三、六〇七	三八、〇二〇	二、四一五	三六、九九六	一、二七五
パラナ	二九、九一一	一、八一九	三二、七四〇	一、八八八	三三、一三六	一、一三一
リオグランデ	三二、七二一	一、九二六	二四、〇七三	一、四九七	二九、五一八	九、八六
ホルトアレグレ	一四、六二九	八九四	三四、九九一	一、九二四	二四、〇四三	八、〇三
フォルタレザ	三八、九〇七	三、一八	三八、五四二	二、五五三	二〇、五〇八	六、八五
マセ	三、八九四	二、四三	一三、五六一	八、一五	一九、二〇五	六、七二
ペロツ	八、八九二	五、三五	一一、九六二	八〇一	一六、〇二六	五、三〇

サンルイス(マラニオン)	一〇、七九四	六三四	八、三七〇	四九〇	一一、三四二	三、九四
クジュエロ(同)	一三、七九八	八五〇	一三、一六〇	八二六	一〇、三五四	三、四八
サンフランシスコ(サンタカタリナ)	一五、五三九	九五九	一五、三二七	九三〇	一〇、一一九	三、四八
カベ	四、二七〇	二六二	八、二八一	五五五	八、九〇四	三、〇二
ウルグアイ	一〇、三六二	六一三	六、〇七五	三八二	六、七四六	二、三二
フォスド	五、一八六	三〇八	五、三一九	三二一	六、六七三	二、三二
イグアツス	一、六六八	一〇八	三、六八二	二二二	五、三八五	二、〇〇
アントニイナ(パラナ)	七、六七四	四七六	六、八三七	四〇九	三、二七九	一一、一五
コロン	四、二八六	二六二	三、八五一	二四九	二、六六七	九、四
イタコアチアラ(アマゾナス)	三、二一〇	一九六	一、二八六	八九	二、〇八〇	七、四
イタ	一、六九八	九八	七、七六	四七	一、六三〇	五、五
グアラ	四、八一三	二八五	二、九三〇	一八七	一、五二八	五、三
パ	一、〇五〇	六四	五、四九	三二	一、四四八	五、〇
サンタビクトリア(同)	二、七二九	一六三	一、二九七	八五	一、〇六九	三、七
ドナルマル	二、六六	一七	一、六三四	九七	九、一一	三、二
フロリアノボリス(サンタカタリナ)	九、二七	五六	一、〇七四	七五	五、八〇	二、二
ホルトアラチニヨ(マツトグロツソ)	一、二五六	七五	一、二七四	八〇	四、三五	一、七
ホルトエスベランサ(同)	一、二五〇	七五	一、二七四	八〇	四、三五	一、七
サンホル	三、三三五	一九	一、四一	九	三、〇六	一、〇
イタジャイ(サンタカタリナ)	一、二〇	七	二、四九	一三	三、〇四	一、〇
ジャケアロン(リオグランデスル)	五、二九	三二	四、五五	三〇	二、六八	九
オヤボツ	一	一	四二	二	一、九九	七
ラ	六一	四	二、三〇	一四	一、二七	五
サンシヤビエル(リオグランデスル)	九一	七	一、五	一	五、四	二
アマ	一	一	一	一	四、九	二

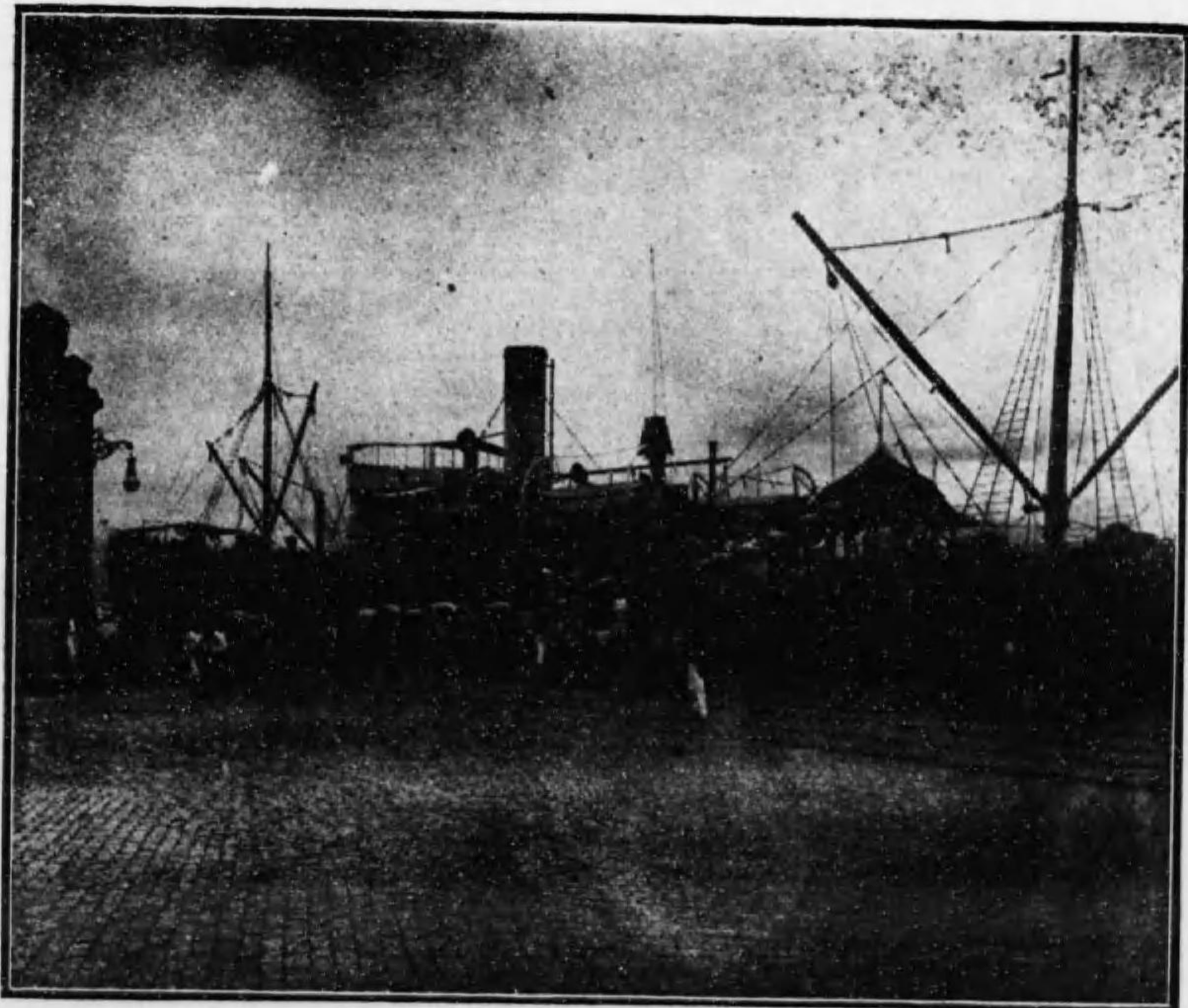
更に之を州別にする時は次表の如く、而もサントス港を有するサンパウロ州は依然首位を占め、一九二一年度に於ける伯刺西爾總輸出額の四割九分強を占めてゐる、之に依つて如何にサンパウロ州經濟力が、伯刺西爾一般經濟上、一大勢力を有するかと明である。

州名 輸出貿易各州別表

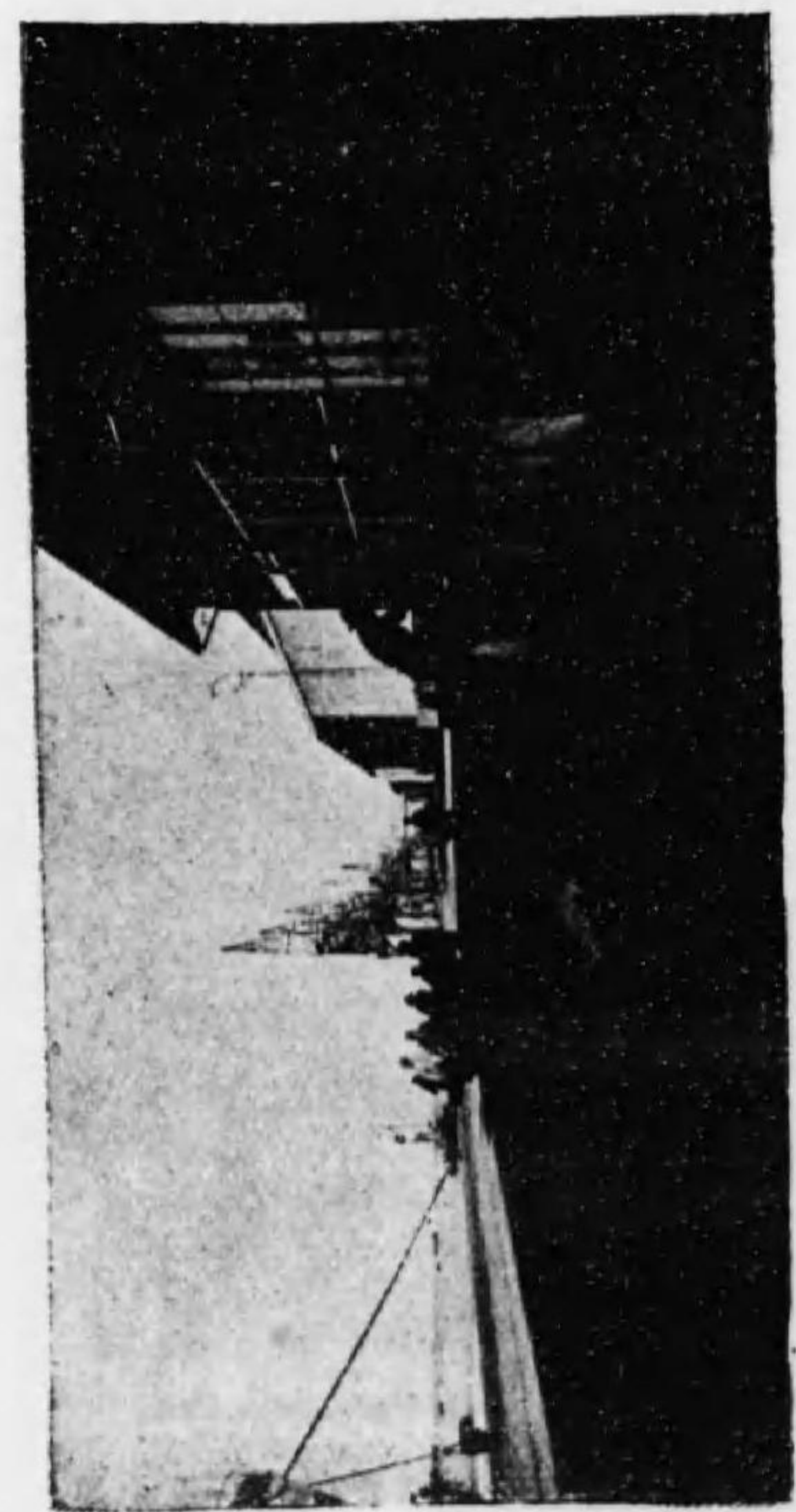
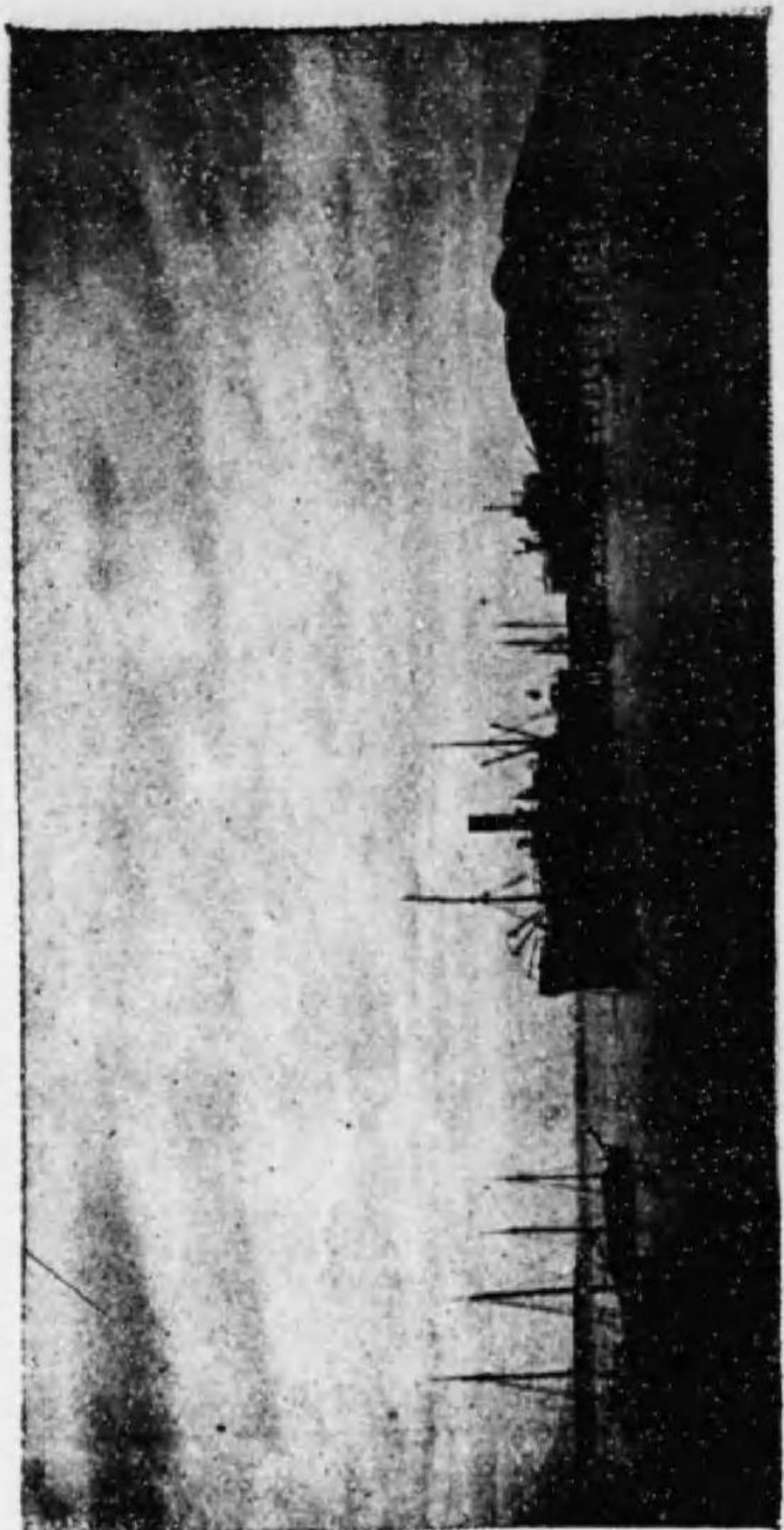
州名	一九一三年		一九二〇年		一九二一年		一九二一年度 總輸出額に對 する百分比
	紙幣額 (千ミルレト)	英貨額 (千ミルレト)	紙幣額 (千ミルレト)	英貨額 (千ミルレト)	紙幣額 (千ミルレト)	英貨額 (千ミルレト)	
サンパウロ	四九〇,三九	三,六八五,二七	八六〇,四七	五三,五〇,三〇	八四一,〇二	二八,七二,四五	四九
聯邦首都(リオ)	二九,五〇	七,九六七,二四	二六,一五	一五,六九八,三九	二七四,九六	九,四四九,四四	一六
バ イ ア	六二,八二	四,二〇,八九	一四五,四〇	八,七四六,〇六	一三三,九三	四,六四九,三六	七、八
リオグランデスル	二九,九八	一,九九九,一〇	一一五,九二	六,九四九,二九	一一〇,四〇	四,〇七九,六六	七
ハルナンゴ	一九,五七	一,三〇四,六五	九三,九五	五,八〇五,一五	八二,二九	二,七八,三四	四、七
エスピリトサント	二〇,〇七	一,三三八,一四	三三,七五	一,九七三,一三	四七,六六	一,五九八,五八	三
パ ラ ナ	三三,三七	二,一五八,四二	四四,八九	二,六二七,五八	四三,〇八	一,四七八,五五	三
アマゾナス	七六,三七	五,三三四,九二	五九,三〇	二,五〇四,三四	三九,〇七	一,三四八,四九	二、三
パ ラ イ	七四,七五	四,九八一,六六	四八,九五	三,〇五三,〇四	三七,五二	一,二九三,七三	二、二
マラニオン	九,八八	六五九,二〇	二,五三	一,三二五,七二	二一,六九	七四一,九六	一、二
セ ア ラ	一一,二八	八一九,二〇	三六,五三	二,五五三,七五	二〇,五〇	六八四,八六	一、一
アラゴアス	四,八八	三三三,二〇	一三,五六	八二四,五二	一九,二〇	六七三,三六	一
サンタカタリナ	四,二〇	二八〇,一五	一七,四四	一,〇五五,〇八	一一,四六	三九六,七〇	〇、七
パ ラ イ バ	一一,九〇	七九三,四六	八,二八	五五四,五六	八,九〇	三〇一,七三	〇、五
リオグランデノルテ	六,三〇	四二一,九七	三,六八	二二二,三〇	五,三八	一九九,五九	〇、三
マツトグロツ	五,四〇	三五九,九九	六,一九	四〇三,五三	三,六八	一三三,六一	〇、二



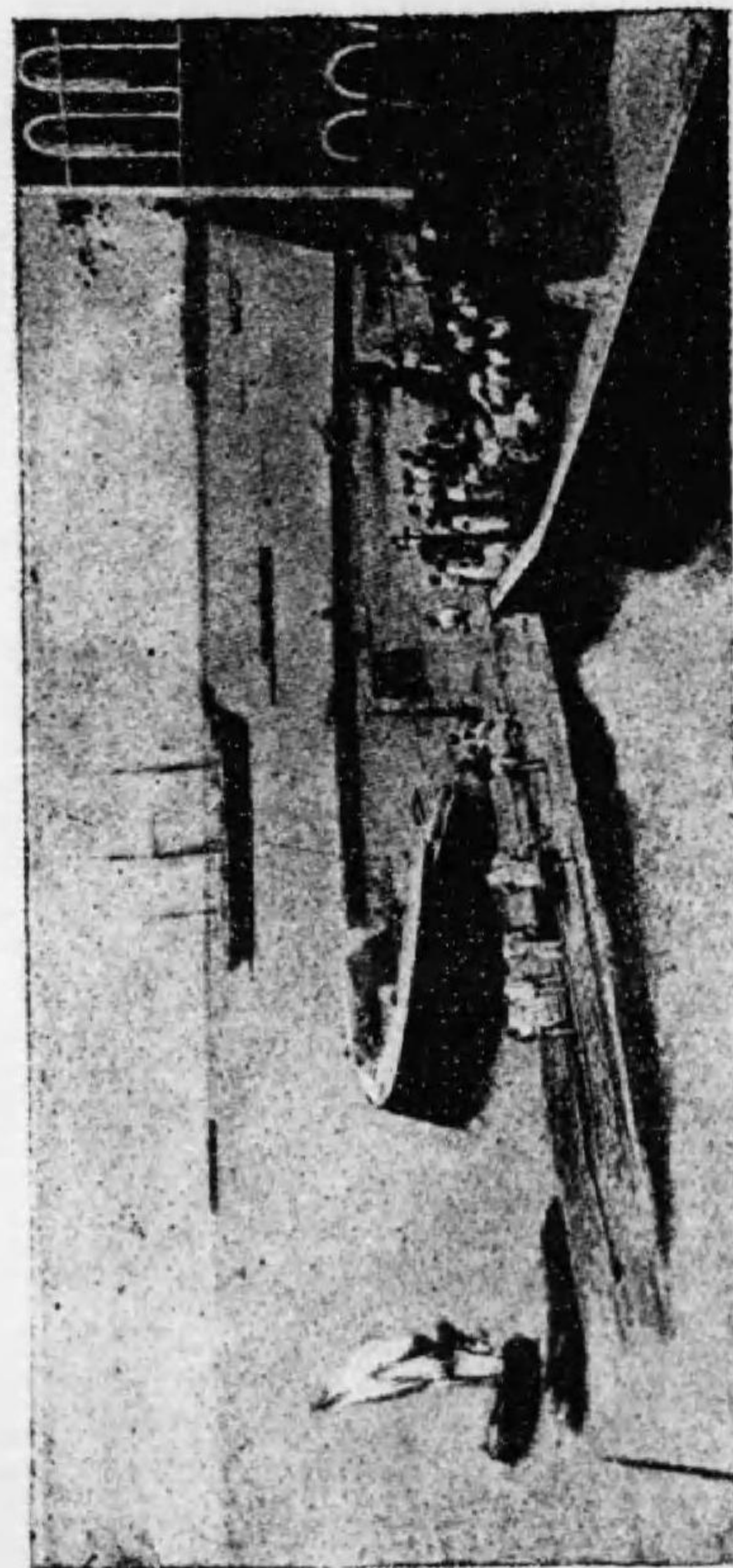
レグレア・トルホ港良の國伯部南



ストンサな名有に界世てしと港出輸埠脚



スワトランドの羊毛



スワトランドの羊毛

スワトランドの羊毛

(ホ) 一九二二年の輸入貿易状勢

一九二〇年の大入超に吃驚して、俄に輸入制限其他極力緊縮策を講じたのと、爲替の下落甚しかったので、外國市場に於ける買付注文を手扣へ又は見送つてゐた等の原因から、一九二二年の伯國輸入額は一九二〇年に比して數量に於ても減小し、價額に於て一層その減少の度著しく、英貨換算額の如き、前年の半額に過ぎなかつた。

戦前に於て輸入貿易の首位にあつたものは、石炭及びセメントで、一九一三年の如き兩者の輸入高は、數量に於て約三百萬噸、價額に於て伯貨紙幣八千五百萬ミルレス、英貨換算額六百萬磅、總輸入額に對して約一割に達してゐるが、一九二二年に於て著しく減少した。一九一三年及び一九二〇年に比して、輸入原料品中減少したものは、鐵、鋼、黃麻、羊毛、木材、石炭、コークス、セメント、毛皮等であつた。

又粗製並に全製品は一九一三年及び一九二〇年に比して殆ど全部其の輸入量を減じた、只石油は一九一三年より多量に輸入された、又小麦及び小麦粉も非常に輸入を減じた事は、次に示す戦前及び最近年の輸入高を對比したる、種類別及び主要輸入品別表に明である。

種類別輸入表

年次	生 家 畜		原 料		粗製並に全製品		食 料				
	數量	英貨額	數量	英貨額	數量	英貨額	數量	英貨額			
一九一三	八四、六四四	三五七	三、四三二	二六六	一、二〇五	一〇八	三七、六八五	九五、〇二二	一五、〇六一		
一九一八	三七、九四七	二九四	八一五	〇五四	一三九	一三	二四七	〇一〇	二三、六二二	五八八、九一〇	一四、九八八
一九一九	五〇、一九〇	六三三	一、三二二	〇三四	一九八	四一	六四四	八九六	三八、六六九	六八一、六三八	一九、〇四一

一九二〇 四七、八九七 一、一五三 一、六三三、三四六 三〇、〇四七 八二五、〇五九 六八、三二〇 五九二、一九八 七五、四九五
 一九二二 一〇、三六三 一八一 一、一六七、五八七 一、一五二九 七三六、一三七 三六、五〇二 五四八、五九八 一、二二、二五六

主要品別輸入貿易表

品目	數量、單位數			價格		
	一九一三年	一九二〇年	一九二一年	一九一三年	一九二〇年	一九二一年
鐵及鋼	九八、八五	七、三三	三六、六九	二、八八	九一	二、六〇八
黃麻	一九、九四	三、〇七	一六、三六	二、四三	六一	三、四八八
羊毛	二、四五	一、〇六	五〇	八、三六	五八一	二〇、九〇〇
木材	一六、六八	一、三三	一四、八七	一四、九七	九六六	一、三三四
石炭及コークス	二、五八、五二	一、三三、五二	八二、〇八	六九、一八	四、六二	八、六三三
セメント	四、三三	一七、九三	一五、八七	三〇、〇五	一、四六七	一、五三七
綿織物	一三、七二	六、八四	二、七五	五九、七五	三、九四	八〇、一七
護謨製品	一、八九	二、三二	七二	五、四七	二七三	三、三〇
車輪	六、〇三	二五、九八	二、四四	四、三〇	三、〇八九	四、六三
皮革	一、四八	一、四〇	六三	一四、七四	九	一、九二
銅製品	六、三〇	四、八〇	三、四七	二、九六	七九	二五、八〇九
鋼製品	五、〇三	二四、一八	一八、六六	三三、二八	八、〇五	二、三三〇
毛織物	一、九〇	九	五二	二、〇三	七五	一、七〇三
リネン	一、五八	六三	三三	六、四九	四九	七、三三
陶磁器	三、三三	一三、九四	六、八〇	一六、二八	一、〇〇	一、六三三
機械類	二九、九七	七、〇一	五九、七三	一〇七、四五	七、一六	三、三三四
紙及同製品	五、二六	四、八七	三九、三六	三、六五	一、五九	四、三三

化學工業藥品	四、八四一	三三、九四九	一四、八六	三、〇九五	一、四〇六	五、四八	三、二四六	三三、四三	一、一三
ガソリン	二八、九七三	三六、三八四	四七、三二	七、七三	五二	二五、九〇	一、五〇七	四九、七六	一、七九
石油	一〇、六六九	五八、五〇〇	七九、五三〇	一四、五七	九七〇	七、五二	一、六九	五三、四四	一、八〇
燃料油	九、六八九	三六、六五一	二六、九五九	六九	四	三、四八	一、三四	三六、四三	一、二九
飲料	七、八三三	四、三三	一八、七六	四七、二八	一、三三	五七、三三	一、八九	三四、三九	三、一七
小麥粉	一七〇、三〇	一〇九、三九	五五、六〇七	三三、〇三	二、三三	八〇、七三	四、九七	四七、七二	一、六五〇
小麥	四八、四三	二八、四六	三七八、五三	四九、六五	三、二二	一四、〇六	八、九三〇	一八九、〇七	六、三三
鮮干	四九、五九	二九、五八	一七、八三	二五、三二	一、六八	四四、三七	二、八八〇	三五、六三	二、二五
卓用果實	一三、六六	二、三三	五、二九	八、九四	五七	一四、七二	〇三	一〇、三九	三、四四
オリーブ油	三、九六	四、四二	五、五五	五、五五	三六	三、七〇	一、三三	二、六五	一〇、五
食鹽	六、八〇六	七、三六	三、八六	二、五二	一五七	四、七二	二、五	四、一〇	一、五〇
林草	三〇、六二	一五、四八	一〇、八九	二、四五	一四九	二、六四	一、九	二、三三	〇

前表に見る如く、葡萄酒其他の奢侈品不生産品の輸入額の減少するに反し、機械其他生産用品の輸入額
 の、年々増加の傾向あるは、伯刺西爾經濟界の健實なる發展を物語るものである。其他織物類の輸入の著
 しき減退は、内國工業發達し、國內需要を充しつゝ、ある事を裏書してゐる。

次に輸入仕出國別に見る時は次の統計に示す如く、戦前に於ける輸入國の第一位を占めた英國は、一九二
 一年に於て第二位に落ち、一九一三年に第三位にあつた米國が、一九二一年に於て一躍第一位を占めた、獨逸
 は戦前第二位にあつたが、戦時一時中全滅し平和來と共に擡頭し一九二一年に於て第四位を回復した、亞爾然
 丁は一躍第五位から第三位に上つた、戦前四番目にあつた佛蘭西も五番目に落ち、六番目は戦前にも白耳義
 だつたが、戦争と共に獨逸と同じく全滅し、平和克復と共に努力し舊位置を保ち、七位には八番目にあつた
 伊太利が順上りをし、戦前第二十四番にあつた墨國は、一九二一年に至り一躍八番目に据はり、九番目に引

之も一九一三年には二十八位にあつた葡萄牙が躍進した、十番目には三十番目にあつた印度が占めたが之は黄麻輸入の關係からである。又日本も戦前にあつては第二十二位にあつたが、一九二二年には二十位を占むるに至つた。今主なる諸國に就て、戦前及び最近數年間の伯國への輸入消長を示せば、

米國よりの輸入

年次

伯貨額

英貨額

紙幣コント(千ミルレス)

磅

一九一三	一五八、三〇二	一〇、五五三、四三三
一九一七	三九四、八九〇	二一、〇六五、三〇二
一九一八	三五五、九三二	一八、九八四、四一三
一九一九	六四〇、五一一	三七、四二二、七五二
一九二〇	八八〇、二三七	五一、九三九、〇九三
一九二一	五二七、〇九〇	一九、一四八、〇四五

亞爾然丁よりの輸入

一九一三	七四、九八一	四、九九八、七〇六
一九一七	一〇九、三〇六	五、七九一、九二五
一九一八	一八七、八九九	一〇、〇二〇、二四五
一九一九	二〇四、四四八	一二、〇三二、二五〇
一九二〇	一五七、二一四	一〇、五四四、八八九
一九二一	一九九、五五七	六、九〇二、七九八

佛蘭西よりの輸入

一九一三	九八、五八〇	六、五七一、九六五
一九一七	三三、八二四	一、七八五、一一八
一九一八	四七、三四八	二、五一八、九九三

英國よりの輸入

年次

伯貨額

英貨額

紙幣コント(千ミルレス)

磅

一九一三	二四六、五四六	一六、四三六、四二一
一九一七	一五〇、八五五	七、九七九、二六四
一九一八	二〇一、八七八	一〇、七八三、七二一
一九一九	二一五、五四四	一二、七三七、二三一
一九二〇	四五三、〇四九	二七、二七四、七七八
一九二一	三四四、六五六	一二、三三七、三三七

獨逸よりの輸入

一九一三	一七六、〇六一	一一、七三七、三九八
一九一七	九一一	四八、〇四九
一九一八	三、二〇八	二〇一、〇三三
一九一九	一〇四、八六二	五、八七五、九一三
一九二〇	一三七、〇五四	四、八六四、〇〇四
一九二一	五一、四八〇	三、四三一、九九五

白耳義よりの輸入

一九一三	四〇九	二二、一九一
一九一七	四〇九	二二、一九一
一九一八	四〇九	二二、一九一

伊太利よりの輸入

一九一九	五〇、五三一	二、九六七、四〇五
一九二〇	一一七、三八一	六、八四七、六七二
一九二一	一〇四、五〇六	三、七七五、二六三

葡萄牙よりの輸入

一九一三	四四、二二一	二、九四八、〇五九
一九一七	二七、二四二	一、四三五、五七四
一九一八	三七、九六三	二、〇二七、九一七
一九一九	三九、七一八	二、三六四、五四二
一九二〇	四三、二二二	二、六四四、一八〇
一九二一	三一、〇九二	一、一〇二、二二一

日本よりの輸入

一九一三	五四〇	三五、九三三
一九一八	六一、一五六	三、二六、二二六
一九二〇	一〇、六八七	五九一、八〇六
一九二一	一、三五九	七二、三三一
一九一九	八、八四八	五〇〇、六二四
一九二一	五、五六二	二二一、三二六

墨國よりの輸入

一九一三	三八〇	二五、三〇一
一九一七	三、六七六	一八七、二四一
一九一八	六、四三九	三三四、三四二
一九一九	九、三六九	五五五、三三三
一九二〇	二一、七四〇	一、二六九、二六二
一九二一	四七、九八二	一、六一四、〇八三

印度よりの輸入

一九一三	四	二六七
一九一七	一八、二五四	九八四、四一四
一九一八	一二、三四九	六六一、九七七
一九一九	三〇、三二九	一、六九一、七二〇
一九二〇	一八、八二三	一、一七一、六五一
一九二一	二三、七六五	八三七、四一五

以下諸國別及大陸別に輸入貿易を、一九一三年と一九二〇年、同二一年とを對比して示せば、

國別輸入表

仕出國	一九一三年		一九二〇年		一九二一年	
	伯貨額 (千ミルレイス)	英貨額 磅	伯貨額 (千ミルレイス)	英貨額 磅	伯貨額 (千ミルレイス)	英貨額 磅
ウルゲアイ	一二四	八、二八二	二七、二五二	一、六八一、九六九	二二、六〇五	八二八、二五五
ニウワフアウンドランド	一九八	一三、一七四	二〇、三二〇	一、三〇一、二二二	一六、八七〇	六二〇、〇三一
瑞 西	1	1	二五、三九五	一、四八〇、八四〇	一六、二二八	五九五、八四〇
カ ナ	二、三七七	一五八、四七四	一一、三六〇	七〇四、六一二	一六、二二二	五二二、〇四四
和 蘭	一〇、九一七	七二七、八〇四	一〇、九四二	六三九、八五三	一四、七六九	六六九、六二九
西 班 牙	九、六一九	六四一、二五二	二八、四九九	一、六八三、四五八	一四、七〇一	五一八、七八四
諾 威	一〇、五九三	七〇六、一六〇	二一、七〇六	一、二九八、七四一	一一、九二二	四七八、三七一
芬 蘭	1	1	一一、五〇一	六三二、一〇二	一〇、二二二	四〇三、六三六
瑞 典	1	1	二六、一〇四	一、四七五、九八八	九、〇〇三	三三四、五九二
支 那	五二〇	三三、九六二	一九、〇〇七	一、二二、六八〇	四、〇七六	一四〇、〇八二
其他諸國の分畧						

大陸別輸入表

大陸名	一九一七年		一九一八年		一九一九年		一九二〇年		一九二一年	
	伯貨額	英貨額	伯貨額	英貨額	伯貨額	英貨額	伯貨額	英貨額	伯貨額	英貨額
歐羅巴	一四、〇〇一	一、八六三、九五一	二二、四一六	三、三一	五五、四六一	七、二九	二九、四六四	四、四三	二一、九九五	七、四二
北、中米	二二、二四九	九、九七九	二〇、八三〇	九、九二二	三九、四七八	〇、一七	五五、二五二	七、一六	二一、九九五	七、四二
南 米	六、九四七	六、八四四	一一、三一一	一、六一二	一一、八六三	二、一六	一一、二九四	五、六〇	七、七四七	四、八〇
亞細亞	一、〇九五	九、四七	一一、〇二二	五、二七	二、二二二	四、三二	一、八八八	二、九四	一、二一〇	一、五〇

阿弗利加 一七〇、六六五 七、七〇一 一八六、八五八 九二、四三五 四二、四〇六
 太平洋 四四、三七〇 1 四〇一 一五、二二二 八、三三五

更に輸入港別に見る時は、リオ・デ・ジャネイロは依然第一位を占め、輸出港としてのサントスに相對し、一九二一年に於て總輸入額の四割四分弱に當つてゐる、これに亞ぐサントスの輸入額は、同年に於て三割強に當り、第三位のバイアの輸入額は五分強である、又戦前一九一三年に於ける輸入額の順位はリオ、サントス、レシイフェ、バイア、バラナ、ボルトアレグレ、リオグランデ、マナオスの順であつた、尙ほ州別に於ける時は一九二一年にはリオグランデ州が總額の七分を以て第三に、ベルナンブゴ州が六分に相當して第四位、それからセアラ、バイア、バラナ、パラナの順となる、次に一九二一年の輸入額の順位に依り各港別及び各州別の輸入額を表示する。

各港別輸入表

港 名 (州名)	一九一九年		一九二〇年		一九二一年	
	伯貨額 (千ミルレイス)	英貨額 磅	伯貨額 (千ミルレイス)	英貨額 磅	伯貨額 (千ミルレイス)	英貨額 磅
リオデジャネイロ(聯邦首都)	五八、三七	三、九四四、一八五	九六、七五五	五、七三六、六五	七九、九五五	三、四六四、四二四
サ ン ト	三三、〇二六	三、三九八、〇五二	六三、四七	三、八八、七〇	五〇、八、五八	一、八、三三、七
レシイフェ	一〇、二、六九七	五、九八五、六九五	二六、四三	八、三二、一、五五	九三、〇二	三、三〇三、五八
ボルトアレグレ(リオグランデ州)	四三、〇〇一	二、五四、五五一	八、四〇二	四、九七、九九五	五九、〇九二	二、一五、四、六四
フォルタレエザ(セアラ)	九、三三五	五七〇、六〇六	一四、四七五	八、六六、三九	五七、四二	一、九六六、〇九七
バ イ	五九、八八	三、五二〇、五二六	八四、二四七	五、〇九、五三二	五七、二九	二、〇五九、三三
リオグランデ(リオグランデ州)	二九、八八	一、七六、三四	二五、四三八	一、五九、二二三	三八、六六	一、三六六、三三八
ペ ー ー	三〇、九九	一、八六、〇五九	三六、四三三	二、五八、九四	二二、六二	七、四、六二〇

州名	一九二三年 伯貨額 紙幣 英貨額	一九二〇年 伯貨額 紙幣 英貨額	一九二二年 伯貨額 紙幣 英貨額	一九二一年 伯貨額 紙幣 英貨額	總輸入額 對百分比
マセオ(アラゴアス)	三、三六五	七、三六七	一、九七五	一、一七五、四〇四	五八、九〇九
ベロツタス(リオグランデスル)	八、五七五	五、二六七	一、四六四	八八九、九七五	四八、七四五
カペデロ(パライバ)	四、四五六	三、六二九	六、四三三	三、八〇、五七五	一、六六九
アントニイナ(バラナ)	七、二七四	四、八四九	五、〇七七	三、九一、九七五	三〇、六九三
バラナグア(同)	四、七九七	二、九二五	二、三三八	七、三三、二九	二八、九八七
サンフランシスコ(サンタカタリナ)	二、四七三	四、七三九	五、九三二	三、三三、〇三	二七、五九三
サンルイス(マラニオン)	六、二〇六	三、六五九	二、三三三	六、八三、三〇	七、七三二
ナタ(リオグランデノルテ)	一、七四五	一、四七、七六	三、〇九	一、八三、四〇二	七、六八二
マナオ(アマゾナス)	一〇、九二五	六、四九五	二、二八	七、一〇、五三	六、九四〇
サンタアナ(リオグランデスル)	一、七九六	九〇、〇九三	七、五四六	四〇六、八八八	三、五九八
フロリアノポリス(サンタカタリナ)	一、七六三	一〇九、〇四	七、〇〇四	四一〇、五七	三、八二六
ウルグアイ(リオグランデスル)	七、四四四	一四〇、六九九	七、七〇	四八七、八九五	三、五九
パラナイバ(ピアウイ)	九、五三	五、七三二	一、九三	一、八、四六二	三、二九八
コロンバ(マツトグロツツ)	二、五二九	一四九、六〇	二、四四	一四九、六六	二、六八八
ビクトリア(エスピリトサント)	九、二	五、七〇	一、八五六	一一、三三六	二、三三三
アラカ(セルジバ)	八、五六	五〇、四〇	二、三五	一、七、七六	一、六〇九
其他諸港					三、三九

各州別輸入表

州名	一九二三年 伯貨額 紙幣 英貨額	一九二〇年 伯貨額 紙幣 英貨額	一九二二年 伯貨額 紙幣 英貨額	一九二一年 伯貨額 紙幣 英貨額	總輸入額 對百分比				
聯邦首都	三九二、三二九	二六、一五五	二九七	九六六、七五六	五七、三八八、七八五	七三九、九五五	二六、四八六	四一四、四〇	四〇、二
サンパウロ	二二二、一〇三	一八、二〇六	八八〇	六一三、四五七	三六、八三八、二九〇	五〇八、五六八	一八、三三三	七三三、三〇	二二

州名	一九二三年 伯貨額 紙幣 英貨額	一九二〇年 伯貨額 紙幣 英貨額	一九二二年 伯貨額 紙幣 英貨額	一九二一年 伯貨額 紙幣 英貨額	總輸入額 對百分比					
リオグランデスル	八三、八一三	五、五八七	五二八	一四四、一八九	八、七六四、四一六	一一二、八一四	四、三九三	〇三九	七、三	
ベルナンアコ	六〇、四三二	四、〇二八	七七四	一三八、四三一	八、二一一、一六五	九三、〇一一	三、三〇三	三五八	六、〇	
セアラ	一四、二五九	九五〇	五二八	一四四、七三	八五六、三一九	五七、四五	一、九六六	〇九七	三、〇	
パイア	五三、一八五	三、五四五	六八三	八四、二四七	五、〇九一	五六二	五七、一一九	二、〇五九	三三三	
パラナ	四三、〇三八	二、八六九	二〇三	三六、四二二	二、二五八	九一四	二一、二六二	七五四、六一〇	一、三	
アラゴアス	一〇、五〇八	七〇〇	五〇四	二〇〇、八四	一、〇八三	四二一	一七、五九四	六一二、九八〇	一、〇	
サンタカタリナ	八、一三九	五四二	五七〇	一三、三二六	七九五、九九六	一一、九八六	一六、三五七	五八九、一四一	一、〇	
バラナイバ	五、〇七三	三三八	一八四	六、四二二	三八〇、五七三	一一、六六六	四〇三、六九四	四二六、七六二	〇、七	
アマゾナス	二一、五四七	一、四三六	四八六	一一、五八六	七三四、三〇七	七、〇二五	六、九四〇	二五二、四七九	〇、四	
リオグランデノルテ	三、四七七	二二一	二九八	三、〇九九	一八三、四〇二	六、九四〇	二二六、八四五	〇、四	〇、四	
ピアウイ	一、六五五	一一〇	三三三	一、九一三	一一八、四六一	三、二九八	一一二、四七八	〇、二	〇、二	
マツトグロツツ	五、六〇一	三七三	四三三	二、九六二	一八四、〇六〇	三、一三四	一一二、四七八	〇、二	〇、二	
エスピリトサント	三、七五三	二五〇	一八六	一、八五六	一一一、二二六	二、三六二	八〇、一九九	〇、一	〇、一	
セルジバ	二、六〇五	一七三	七〇〇	二、三八五	一三七、七二六	一、六〇九	六二、三二九	〇、一	〇、一	
アグレ直轄地									九三	

(ハ) 一九二二年對外貿易情况

一九二二年の輸入緊縮の傾向は、一九二二年に入つて殊に著しくその効果を現し、一月中の如きは遂に三、三三八、〇〇〇磅と云ふ、近來にない出超額を得た、然し此の出超額は輸出増加に依つて得たのではなく、輸入の大減少に依つて得たものである事は、後頁に掲ぐる各年月別輸入表の示す数字が之を證してゐる。又一月中の輸出入噸當平均價額は、輸出に於て高上を示し輸入に於ては前年に比し低下した事次の如し

二月に入るに及んで愈々出超高を増加し、二月を推算しての出超額は一六七、六六七、〇〇〇ミルレース
 英貨換算額五、二〇八、〇〇〇磅と云ふ、一九一九年の記録以上成績を示した、即ち戦前及び一九一九年以降
 各年度同期間輸出入貿易差額を示せば

年次	輸出平均額 <small>紙幣ミルレース</small>	輸入平均額 <small>紙幣ミルレース</small>
一九一三(一月)	九四九	二〇四
一九一九(同)	八四三	四八四
一九二〇(同)	一、一三七	五四五
一九二一(同)	六八五	九〇八
一九二二(同)	一、二二八	四八七

年次	出(入)超額 <small>紙幣ミルレース</small>
一九一三(一月及び二月)	二六、九九八、〇〇〇
一九一九(同上)	一三二、一六六、〇〇〇
一九二〇(同上)	一〇五、六三四、〇〇〇
一九二一(同上)	(入) 一七八、一二七、〇〇〇
一九二二(同上)	一六七、六六七、〇〇〇

一月以來減退を續けた輸入貿易は、三月に入ると共に一月及び二月の輸入量を遙かに突破し、兩月合算額
 に近い額を現はした、そしてこの三ヶ月間の輸出入差引に於て、二〇八、六三五、〇〇〇ミルレース、英貨換
 算額六、五一九、〇〇〇磅の出超となつた。かくて一般經濟界改善の氣運に向ふと共に、前年の沈滞氣分から
 覺醒しつゝ、あるが、窮極に陥つた畜産界が、依然として振はないので、改善の速度は極めて緩慢である、又

農産物の大部分は、前年に比し其の價格を増加した。

一九二二年の外國貿易を、一九二一年のそれに比較する時は、輸出に於てその仕向先に稍々變化の傾向が
 見られる、即ち英佛に對し非常な輸出増加を見、和蘭、瑞典、白耳義、亞爾然丁、諾威、丁抹への増加率は
 比較的少量に、獨、米、伊に對し稍減退を示し、西班牙に對しては著しい減少である、戦時中急速の増加を
 した對西班牙輸出は、戰爭終結と共に舊阿蒙に返つた。輸入貿易に於ては對亞國を除き一般に減退した、サ
 ントス港に於ける一九二一年の一月乃至四月と、一九二二年の年同期間とを對照する時は、石油、鱈、小麥粉、
 小麥等の輸入は増加し、綿糸布、鋼、鐵原料及び製品、工業用機械器具、化學醫療用藥品、毛皮、皮革及
 び其製造品、黃麻及び黃麻糸、石炭、葡萄酒等の輸入に著しく減少を示した。農業用機械の前年四ヶ月間に
 於ける輸入額は一、〇七五、〇〇〇「ミルレース」であつたが、一九二二年には僅に六九、〇〇〇「ミルレ
 ス」に過ぎない。

五月に於て輸出入共、前月に比し稍減退したが、一月來の合算額を前年の同期に比する時は上位にある。
 輸入に於ては石炭の輸入減退があつたに拘らず、最近同期間中首位を占め、戦前一九一三年に比して下位に
 ある。輸出に於ては記録の一九一九年に比して稍劣るだけであつた、此の主因は皮革、羊毛、毛皮、綿花、
 米、珈琲、椰子蠟、マンジョカ粉及びマテ茶の輸出價額の高上に歸する。今その一例を示す爲に五ヶ月間に
 於ける各年別珈琲輸出状態を見れば、

年別	數量 <small>千袋</small>	伯貨額 <small>紙幣セント(千ミルレース)</small>	英貨額 <small>千磅</small>	一袋當平均價格 <small>紙幣ミルレース</small>
一九一三	三、五九六	一八八、二〇五	一二、五四七	五二二
一九二〇	四、六六〇	三九九、五五六	二八、四五五	八六

の如く輸出數量を増加したと共に、其の平均價額も非常に騰貴した、かくして各年五ヶ月間の輸出(入)超過額を示せば、

年別	伯貨額	英貨額
一九二二	四、九四一	一一、九二二
一九二一	五、二四二	一七、九三四
一九二〇	(入)	六四
一九一九	六八、七四五	四、五八四
一九一八	三五三、八七九	一九、九七二
一九一七	二二二、七四七	一五、五四四
一九一六	二七二、五二二	一一、四八七
一九一五	二八三、二六一	八、八八三

次に輸出入貿易の戦前及び最近年の月別數量及び價額を示せば、

月別	一九二三年		一九二二年	
	數量(單位千噸)	價額	數量(單位千噸)	價額
一月	一二四	一八〇	一三三	二〇三
二月	九四	一四九	一〇九	一五九
三月	八六	一七六	一三二	二〇二

月別	數量(單位千噸)	價額
四 月	七六	一四八
五 月	六六	一二四
六 月	七六	一二八
上半期合計	五二二	九〇五
七 月	八六	一七〇
八 月	一二七	一五八
九 月	一四二	一九七
十 月	一六六	一七五
十一月	一六八	一四二
十二月	一七一	一七二
下半年合計	八六〇	一、〇一四
全年度合計	一、三八二	一、九一九

月別輸出入貿易

月別	一九二三年		一九二二年	
	數量(單位千噸)	價額	數量(單位千噸)	價額
一月	四五七	二六八	四一〇	二八三
二月	四五二	二三七	四一〇	二八三
三月	五一八	二〇五	四一〇	二八三
四月	五二一	一九一	四一〇	二八三
五月	五三五	二三七	四一〇	二八三

六	月	六五七	二二〇	八七、〇八四	五、八〇六	一二七、七〇九	四、一二四
上半期合計		三、一四〇	一、三五八	五二四、五八三	三、四九七	一、〇〇〇、九九五	三、八三五六
七	月	五二五	二二四	九一、六七七	六、一一二	一六二、七九九	四、八二二
八	月	五〇〇	一七〇	七九、六三四	五、三〇九	一〇四、二七二	三、四二一
九	月	四三四	二二二	八〇、四六四	五、三六四	一〇一、一二一	三、四三七
十	月	四三三	一九〇	七八、五六〇	五、二三七	一一一、七五四	三、七四七
十一月		四五九	一八二	七七、一六八	五、一四五	九六、二一六	三、一一〇
十二月		四三三	二四二	七五、四〇九	五、〇二七	一一二、六八二	三、五六五
下半年合計		二、七八四	一、二二〇	四八二、九二二	三二、一九四	六八八、八四四	二二、一一二
全年度合計		五、九二四	二、五七八	一、〇〇七、四九五	六七、二六六	一、六八九、八三九	六〇、四六八

1 輸出貿易仕向國

一九二二年一月乃至三月の第一期三ヶ月間に、伯國から輸出額を増加した仕向國は、歐洲にあつては獨逸、白耳義、ブルガリア、丁抹、芬蘭、佛蘭西、英國、希臘、和蘭、葡萄牙、羅馬尼、瑞典で、米大陸に於ては亞爾然丁、智利、佛領ギアナ、秘露、米國、玖瑪及びバルバドス、阿弗利加に於てはアルセリア、埃及、マデイラ、モロッコ、南阿聯邦、亞細亞ではスマルナ及び日本で、減少したのは西班牙、伊太利、加奈阿及びウルグアイである。之等は益々伯國輸出貿易の進運を示すもので、對西班牙及び伊太利輸出貿易は、戰時中非常な勢で發展したが、戰爭終結と共に挫折してしまつた。然し和蘭、瑞典の如き新仕向地を開拓した。又對葡輸出も著しく發展した。本年上三ヶ月の輸出統計を見るときは、其の第一位を占むるは依然米國である、今最近年及び戰前の第一期三ヶ月間に於ける、第十位まで及び日本への輸出額を各仕向國別に記せば、

第一對米輸出

年次(第一期三ヶ月間)

伯貨額

英貨額

(紙幣コント)

磅

一九一三	九九、二八八	六、六一九	二、一九
一九二〇	二二四、五一〇	一六、五〇七	五、六七
一九二一	一五五、六九四	六、一七五	二、三九
一九二二	一八〇、一六一	五、六六七	六、四七
第三佛蘭西へ			
一九一三	二八、五〇五	一、九〇〇	三、〇八
一九二〇	二二〇	一五、七七〇	
一九二一	三三二、二六一	一、二七七	七、九四
一九二二	四八、六五八	一、五二四	四、二六
第五獨逸へ			
一九一三	三五、九二四	二、三九四	九、一三
一九二〇	一八、三六七	一、三四二	一、二二
一九二一	二四、一六五	九六〇	五、七八
一九二二	三五、一〇五	一、一〇六	〇、八一
第七伊太利へ			
一九一三	三、五四八	二、三六	五、五一
一九二〇	四四、二六五	三、二四〇	一、七四
一九二一	二八、八六一	一、一四四	三、五九
一九二二	二四、三五九	七六五	〇、九六
第九白耳義へ			

第二英國へ

年次(第一期三ヶ月間)

伯貨額

英貨額

(紙幣コント)

磅

一九一三	一九一三	四七、七五一	三、一八三	四、一八
一九二〇	一九二〇	一六六	一一、一一二	
一九二一	一九二一	二七、八九八	一、一〇八	八、〇五
一九二二	一九二二	八八、八二二	二、七七二	〇、〇二
第四和蘭へ				
一九一三	一九一三	一一、七八八	八五二	五、三二
一九二〇	一九二〇			
一九二一	一九二一	一九、七三九	七、八三	六、九九
一九二二	一九二二	三八、七二七	一、二二〇	五、〇八
第六亞爾然丁へ				
一九一三	一九一三	九、二一一	六、一三	九、九〇
一九二〇	一九二〇	一八、九一三	一、三九一	八、〇七
一九二一	一九二一	二一、八〇〇	八六六	四、三六
一九二二	一九二二	三二、九九九	一、〇三八	九、五一
第八ウルグアイへ				
一九一三	一九一三	五、一一〇	三四〇	六、六八
一九二〇	一九二〇	二一、四二四	一、五七八	九、三五
一九二一	一九二一	二六、五九八	一、〇五四	八、四三
一九二二	一九二二	一七、二〇九	五四〇	四、〇六
第十葡萄牙へ				

一九二二	四、六八二	三二二、一五七	一九二二	一、〇一四	六七、六〇一
一九二一	一一、一五八	八一四、七八六	一九二〇	四、九九九	三六三、六六九
一九二〇	七、三六七	二九一、九二九	一九二一	七、三四四	二九三、五五四
一九一九	一四、四四四	四五二、一九一	一九二二	一二、九五二	四〇七、九三六

第三十五番日本へ

一九二二	一	一八
一九二一	一	四一
一九二〇	二八	二、〇二一
一九一九	一一	四四八
一九二二	五五	一、七二三

尙ほ對南阿聯邦、アルゼリア、埃及等の阿弗利加に對する輸出は近年非常な勢で發達し、將來に多大の望を囑されてゐる、即ち戰前の第一期三ヶ月には僅に二、七二二、〇〇〇「ミルレース」換算して一八一、四五四磅を輸出したのが、一九二二年の同期間に於ては、一、二〇四、〇〇〇「ミルレース」即ち、三五二、二八三磅を輸出した、伯貨額に於て四倍強を増加したのに、英貨額に於て約二倍の増加に過ぎないのは、爲替が依然低位にあつて持直さないからである。

2 輸入貿易仕出國

一九二二年度に於ける伯刺西爾の輸入貿易が、著しく緊縮を示しつゝある事は既述の通りである、只前年度に比して亞爾然丁からの輸入のみは増加した。英國は戰時中米國に依つて握られて居た第一位を取返し、戰爭から引續き一九二二年迄輸入國第一位を占めて居た米國は、遂に英國をして名をなさしむるに至つた。今一九二二年第一期間輸入額の順位により、その十位までの仕出國別及日本よりの、戰前と最近年との一月

乃至三月の第一期三ヶ月間に於ける、伯國への輸入額を示せば、

第一英國より

年次(第一期)	伯貨額	英貨額
一九二二	六五、二三三	四、三四八、八七二
一九二一	七一、三六八	五、二六〇、四一六
一九二〇	一四一、二九七	四、七五七、九一八
一九一九	八〇、六一六	二、五四一、五三三

第三亞爾然丁より

一九二二	一六、五〇八	一、一〇〇、五四七
一九二一	三一、五五七	二、三二九、七一三
一九二〇	四五、一一〇	一、八三五、〇八二
一九一九	五七、四五九	一、八一〇、七八七

第五佛蘭西より

一九二二	二七、五六八	一、八三七、八三九
一九二一	一三、三九二	九八八、四一八
一九二〇	四〇、七四五	一、六七六、七五九
一九一九	一四、九一二	四六七、六〇〇

第七白耳義より

一九二二	一四、七六八	九八四、五五九
一九二一	三、〇三八	二二五、九〇〇
一九二〇	二四、一五七	九八九、四八六
一九一九	一一、一七一	三八二、九九二

第二米國より

年次(第一期)	伯貨額	英貨額
一九二二	四一、三〇三	二、七五三、五三七
一九二一	一四一、〇五三	一〇、四一〇、七七八
一九二〇	二一一、四八八	八、七九九、三二九
一九一九	七六、四一六	二、四〇七、四九三

第四獨逸より

一九二二	四五、〇〇九	三、〇〇〇、六三六
一九二一	一、六四八	一、二〇〇、九〇九
一九二〇	四二、七九九	一、七五七、六二六
一九一九	二二、一三二	七二九、八〇九

第六伊太利より

一九二二	一〇、九七六	七三一、七三七
一九二一	六、五八一	四八四、〇四八
一九二〇	一九、二八一	七九六、五四〇
一九一九	一二、六五二	三九六、九四二

第八葡萄牙より

一九二二	一一、七二〇	七八一、三三〇
一九二一	六、〇三六	四四五、七一三
一九二〇	九、五三八	三九三、七一二
一九一九	七、五一五	二二六、四四七

第九ウルクアイより

一九一三	六、九六六
一九二〇	四、六九〇
一九二一	六、〇五八
一九二二	七、三三〇

一九一三	四六四、三九三
一九二〇	三四七、六九三
一九二一	二四九、三〇八
一九二二	二二〇、六三九

第十墨國より

一九一三	七
一九二〇	一、五七六
一九二一	六、二四六
一九二二	五、五一〇

一九一三	四六四
一九二〇	一一五、六三五
一九二一	二五八、〇七〇
一九二二	一七四、四〇二

第廿二日本より

一九一三	一五四
一九一九	四、六七二
一九二〇	四八三
一九二一	四、一五四
一九二二	三〇〇

一九一三	一〇、二七一
一九一九	二五八、〇九〇
一九二〇	三五、二九九
一九二一	一七四、五六四
一九二二	九、四一一

獨逸は伯國への輸入額として、戦前には第二位に在り、戦争中は伯國貿易から抹殺され終つたが、平和後努力の結果一九二〇年から輸入國中に名を列するに至り、遂に第四位に復活した。戦前には第十位にあつた埃國は廿五位に落ち、墨國に次いででは輸入増加の爲に、ニュウファウンドランドが進出した、支那は伯國よりの仕向國としては零であるが、伯國への仕向國としては遙かに日本を凌いで第廿一位にある、即ち一九二二年第一期三ヶ月間、伯國への輸入額は六九五、〇〇〇「ミルレース」、換算額二一、八六八磅である。亞爾然丁よりの輸入増加は、小麦輸入が主因である。

(ト) サントス港に於ける輸出入貿易

サントス港が伯國輸出港として牛耳を握り、その輸出額は全輸出額の約五割に等しく、又輸入額に於ても

リオに次いで第二位を占め、其の伯國貿易經濟上の生死の權を有する觀のあることは既述した、そこで特にサントス港に於ける輸出入貿易に就き項を設け、最近の情勢に關して略説する事にした。

一九二一年度に於けるサントス港の輸出入額は、次の如き結果を得た

輸出	伯貨額	英貨額
輸入	紙幣コント(千ミルレース)	磅
差引出超	八四一、〇一四	二八、七七一、四五七
	五〇八、五六八	一八、三三三、七三七
	三三二、四四六	一〇、四四七、七二〇

この中主要輸出品別に價額を前年と對比して示せば次の如くで、第一位は珈琲で、實に全輸出額の九割を占めてゐる、そしてその輸出數量は、一九二〇年には八百四十八萬八千八百八十七袋、一九二一年には八百七十七萬四千二百袋であつた

品名	一九二〇年	一九二一年	
伯貨額	英貨額	伯貨額	
紙幣コント(千ミルレース)	千磅	紙幣コント(千ミルレース)	千磅
珈	六七一、三六三	七六一、三二七	
冷	三六、五三三	二九、九四四	
綿	三八、六八九	一三、二五三	
米	五九、八九四	七、八一二	
花	二、三〇四	二、七一二	
肉	五、五五三	二、一八八	
珈	七、五八五	九四	

又輸入主要品別に價額を一九二〇年及び一九二一年とを對比して示せば、

品名	一九二〇年		一九二一年	
	輸入數量 (單位噸)	英貨額 千磅	輸入數量 (單位噸)	英貨額 千磅
黃麻	一三,五五二	八六九	二二,三二〇	七八五
石炭	八,七四六	五一五	二二,六四四	四六三
セメント	七,八六七	四五二	八,二一九	二九九
軌道	八,九八七	四八四	一〇,七六四	三七三
石油	二,四二五	一六〇	一〇,七九二	三八〇
干鯨	六,一八二	四一八	四,四九四	一五四
小麦粉	一九,二八六	一一九〇	八,一八九	二九四
小麦	三八,八九〇	二四七九	五八,八四八	二〇六二
葡萄酒	一六,五六六	一六五一	一六,六七二	五九八
諸機械類	六二,七二五	三七〇四	八七,八六〇	三一〇三
更に此の内主なるもの、一九一七年以降の輸入數量を示せば、				
黃麻	一九一七年 一七,七〇四	一九一九年 二二,九九五	一九二〇年 一八,三二二	一九二一年 二二,四二五
石炭	九二,二四二	四三,九三八	八〇,一五六	一一,二四五
セメント	二二,六三九	八,〇〇五	五四,二六六	五〇,四六七
軌道	一,八一九	一〇一	二〇,三七九	一六,五二六
石油	一五,三三三	四,九七九	二四,〇三〇	一六,五七〇
干鯨	一,六五四	八七三	一,三三四	一,九五七
小麦粉	二九,三七九	四三,八三七	七六,五四三	一一,一四三
小麦	六六,八八四	一一四,〇〇二	九六,二五四	一一九,五七七
葡萄酒	一〇,五七九	一〇,六四五	一〇,二〇七	一〇,三五六

次に一九二〇年と一九二一年との輸出仕向國別にしてその主なるものを記せば次の如くで、日本は廿一位にある。

仕向國	一九二〇年		一九二一年	
	伯貨額 紙幣コント(千ミルレリス) 千磅	英貨額 千磅	伯貨額 紙幣コント(千ミルレリス) 千磅	英貨額 千磅
米國	三八七,六五八	二四,一七七	四〇九,一〇八	一四,〇三九
佛蘭西	一三〇,二二七	八,四〇九	一〇五,〇四〇	三五六八
和蘭	三二,〇二一	一,八一三	八五,一〇七	二,八六九
獨逸	七六,一七二	四,二二四	八一,四〇八	二,七五八
伊太利	一〇四,四五七	六,七〇二	五九,一五二	二,〇四九
白耳義	二二,八九八	一,四四三	二二,一一〇	七八八
亞爾然	二五,一四三	一,五〇五	一八,三四四	六三四
英典	三〇,九四三	二,〇一二	一七,六二八	六二八
瑞典	一九,七五八	一,一七〇	一四,五二二	四九五
丁抹	一二,七四六	七二〇	一〇,五一三	三五三
西班牙	三,三七六	二〇〇	五,五五三	一九七
日本	二二二	一五	一八三	七
又兩年間に於ける輸入貿易の仕出國別の主なるものは左の如く、日本はその第十七位にある。				
米國	二四九,〇六五	一四,七二八	一五五,八七三	五,六七七
英典	一二三,七一九	七,四七〇	九六,三八四	三,四九二
亞爾然	四六,五五六	三,一七二	六七,六八九	二,三七〇

獨逸	三一〇一七	一、七三五	四〇、七六一	一、四六二
伊太利	三四、〇二二	二、〇八〇	三三、三三九	一、二〇六
佛蘭西	三四、七五四	二、〇三六	二五、二〇一	九二五
印度	一七、五〇七	一、〇九九	一三、一三〇	八一三
葡萄牙	一三、三六八	八二九	一〇、〇二八	三五三
墨國	二、四四六	一五四	八、〇三六	二七八
諸國	五、四〇六	三二七	五、四六四	二一四
日本	二、八五七	一五四	一、二二九	四四

さて一九二二年一月に入つて輸出額は激増して、十一萬七千七百四十五コントス（一コントは千ミルレー）英貨換算額三百六十四萬一千二百十五磅に達した、之に對して一九二〇年同月の輸出は七萬九千二百八十五コントス、換算額五百八十萬一千八百四十三磅及び一九二一年同月の輸出額五萬五百六十コントス、英貨換算二百二萬七千六百八十二磅に過ぎなかつた、輸出に於て増進を見たと共に、輸入に於て著しく減少を示し、一九二〇年一月の三萬四千八百七十七コントス、英貨換算二百二十二萬四千九百六十九磅、又一九二一年一月の七萬五千五百八十八コントス即ち三百二十三萬九千七百九十二磅に對して、一九二二年一月の輸入額は、僅に二萬四千五百二十七コントス、英貨額七十五萬八千四百七十一磅に過ぎず、従つて既に一月のみの輸出超過は九萬三千二百八十八コントス、英貨額百八十八萬二千七百四十四磅と云ふ額を得た、一九二一年度の全輸出超過額が三十二萬二千四百四十六コントスであつたに對比すれば、如何に成績の良好であるかゞ明である。即ち一九二二年一月に於ては、英貨額の輸出に於て八割を増し、輸入に於て七割七分を減じたのである。同月の爲替は一九二一年一月のそれに比し、遙かに低位にあるので、輸出價額紙幣價を以て計算する時は、實に十三割三分の増加に當る事になる。

主要輸出品中では珈琲の三十萬二千八百八十五袋、價額六萬六千二百五十三コントスに次いで綿花は、前年一月には僅に三十二コントスの輸出に過ぎなかつたのが、一九二二年一月には二千三百五十七コントスと云ふ大増加を見せた、冷肉及びバナ、は依然沈滞にあり、豚脂、豆及び米が影をひそめた事である。又面白い現象を示した事は前年伯國へ最も多く輸出した各國が、反對に伯國から最も多く輸入をした事である、對西班牙輸出は愈衰退し前年一月の輸出額二十一コントスに對して僅に一コントスを輸出したに止まる、輸入方面から見るとは各國共伯國へ對する輸出額を減じ、甚だしきは八割の減退を示したのもある、かくてこの一月の形勢から、或は一九一九年の黄金時代の再現を思はしめた。

二月に入つても依然好況を持續して、珈琲のみの輸出量に於ても、前年同期に比し八萬袋多い、そして二月を通過して前年は入超であつたが、一九二二年に於ては多大な出超である。

三月末日に終つた一九二二年第一期三ヶ月間の成績は、輸出超過額十九萬九千四百三十一コントス即ち英貨額六百二十四萬三千九百七磅、と云ふ新記録を作るに至つた、珈琲、綿花、バナ、の輸出額を増大し、米、豚脂、冷肉、豆等は減退更に振はない、又輸出に於て英、蘭、米、白、瑞典等に増加し、獨、伊、西、亞諸國に減少を來たした。

四月末に終つた四ヶ月間の成績に於ては、輸出額は殆ど輸入額の三倍に上つた、無論此の中大部分を占むるは珈琲で、輸出品の増加と共に、價格も著しく増加した、綿花も米國の減收と共に伯國買付を増加した、悲惨なのは冷肉、豚脂等で徒らに一九一九年時代の榮華をはかなむばかり、同じ浮目は豆にも來て、四ヶ月間の輸出額僅に百九十六「ミルレー」に、遂に重要輸出品表から削除されんとする運命にある。此の期間に於ける全伯國貿易出超額は二十七萬一千五百七十二コントス即ち英貨額八百五十萬一千磅なるに對し、サント

ス港のみの出超額は殆ど全部に當り即ち、二十五萬九千九百六十七コントス英貨額八百十六萬三千二百七十五磅を算したのである。

五月に入つて出超額は二十八萬五千八百八十コントス、即ち八百九十七萬九千七百七十磅に上つた、珈琲、綿花、バナ、は依然上進し、冷肉は不況のまゝで、五月中の輸出額百十コントスに過ぎなかつた、米、豚脂、豆は既に輸出が止つたものと見られる。又前年末に於て輸出國中十位を保つて居た西班牙は、本年に入つて最後に落ち、五ヶ月の輸出額は僅々十三コントスであつた。輸入價額を増加したものは干鱈、小麥粉、小麥其他食料品で、之も之等は概ね價格騰貴の爲價額に増大を見たので、數量に於ては前年に對し大差はない。今主なる數國に就き、前年との輸出入額を對比すれば

輸出主要仕向國	一九二一年	一九二二年
米 國	一三二、一六四	二一九、〇八八
英 國	六、四九二	五七、六九一
佛 國	三七、一九六	五二、〇三一
和 蘭	二一、五七九	三八、五八六
伊 太 利	二〇、三五二	一八、六一四
輸入主要仕出國	一九二一年	一九二二年
米 國	八八、五二二	三三、九〇一
亞 爾 然 丁 國	二四、九六五	三二、七二四

國 名	一九二一年	一九二二年
英 國	五八、二〇三	三二、三六〇
伊 太 利	一九、六五七	一六、八一六
獨 逸	二二、六二〇	二、五八九

一九二二年一月乃至六月上半期の輸出入額を、前年同期に對比すれば

輸 入	一九二一年		一九二二年	
	伯 貨 額	英 貨 額	伯 貨 額	英 貨 額
輸 入	紙幣コント(千ミルレリス) 三四八、六九六	一二、八三五、一七一	紙幣コント(千ミルレリス) 五一三、六三八	一六、一五九、一一二
輸 出	紙幣コント(千ミルレリス) 三一九、一六四	一二、二五七、一一〇	紙幣コント(千ミルレリス) 一九七、九五六	六、二四二、二〇二
超	紙幣コント(千ミルレリス) 二九、五三二	五七八、〇六一	紙幣コント(千ミルレリス) 三一五、六八二	九、九一六、九一〇

輸出に於て綿織物が著しく増加した、米の輸出は前年上半期の千九百六十一コントスに對し、二百四十四コントスに減退した、豚脂も前年に比し百分の一に減じた、冷肉輸出も四割に減じた。輸入に於て綿織物、鐵及鋼、工業用諸機械器具、藥品、黃麻、亞麻、石炭、石油、葡萄酒等を減じ、毛皮、黃麻亞麻糸、干鱈、小麥及び小麥粉等を増加した。

(チ) サントス港に於ける對日本貿易品

全伯國の對外貿易に於ける日本の地位、對日本貿易額總計及びサントス港の對外貿易に於ける日本の地位や、その貿易總額は既に説いた、今茲には同港に於ける對日本輸出入品に就て、一九二〇年及び一九二一年の數字を擧げて見る、之に依つて發展の餘地がありながらまだ如何に日本との貿易關係が微々たるか知られやう、即ち對日本輸出の如き、單に珈琲があるばかりである。

輸出品名	數量		價額(單位紙幣ミルレース)	
	一九二〇年	一九二一年	一九二〇年	一九二一年
珈琲袋	二,六〇三	二,六〇六	二二,三三〇	一八七,四九二
製造用原料品	一九二〇年	一九二一年	一九二〇年	一九二一年
裁縫用綿糸	一	一	六三	
細工用竹	七〇	一八一	一八一	
同、藤、柳	二,〇二三	二,三,七二四	一一,二三三	
動物性加工雜品	一,四二一	一	四四	
シユツタ系	五〇,四〇〇	一六	八一,四五九	三四六六
色染用品種々	三,四一九	一	二八,七二八	
製帽用マアラ	二,九五九	一	八七,一二七	三三,五一六
醫藥染色用植物	四二二	一	八五五	
植物性雜品	一四	一	二五八	
金剛砂	二三〇	一三五	五六三	二,七〇八
刺繡及織物用絹糸	一,五二九	一,五七三	一五四,三三五	二二七,九四五
ヤム、樹脂	三九	一	九六	
植物搾取品種々	一九五一	三三八	四〇,三一〇	六,二七一
製造品				
モール組物レリス	三八七	三〇	五,七七六	五,二一四
綿仕立服	一八四	一	二,〇六〇	
綿自地織物	一八七	三九二	六,四〇八	九,六三五

同模倣付織物	數量		價額(單位紙幣ミルレース)	
	一九二〇年	一九二一年	一九二〇年	一九二一年
雜織物	一,九六五	四七,四四九	七,六二九	
ゴム製器具	一,〇九二	一三,九九二	一三,九九二	四,〇四二
同、雜品	二一五	一,五七二	一,五七二	
同、雜品	一二八	四,八一	四,八一	八,二三
毛髮、羽毛製品	二,八三〇	六九,九九四	六九,九九四	九,一三七
籠	六四	一,六一四	一,六一四	一,〇三八
竹、柳、藤製雜品	一八六	一,四一六	一,四一六	一〇,八九九
活字	一〇	八四	八四	
銅製品種々	一,〇七二	一七,五九六	一七,五九六	
針	一,八八一	一九,三二二	一九,三二二	
留針	三七	一,三一七	一,三一七	
庖丁類	八六一	八,三四四	八,三四四	一〇八
鑿製前類	二九〇	一,九八〇	一,九八〇	
鑿製雜品	二五五	一,六八六	一,六八六	一,七二一
蓄音機	一九	二九六	二九六	三,三四六
樂器雜機	三五二	三,九二〇	三,九二〇	二,三七
消毒綿ガーゼ	一	一	一	一〇一
外科用器械	一	一	一	六八
科學器械雜	一	一	一	
毛織物雜	一,二四五	六八,九五二	六八,九五二	
麻	五四〇	六,七八四	六,七八四	
電氣絕緣硝子	三七七六	三,六八七	三,六八七	
陶磁器雜品	五三,一〇八	二八,〇六三	二八,〇六三	二〇八,三三八
硝子類各種	一,二三五	四,五七	四,五七	六,八〇七

絹製品種々
各種見本
各種ボタン
玩具類種々
煙草パイプ類
紙傘類
洋傘類
各種鉛筆
扇類
セルロイド製品
各種櫛類
額鏡綠付
文具各種
其他各種
殼類雜品
鐘錶類
乾野菜類
茶類
雜食料品

八六八	六二一	一七二、五九〇	一一三、五四二
六二七	一八三	七、六八七	三、五九七
五、四四八	一、七〇五	一一七、七一七	八八、七九八
五、六七六	九九八	一七五、五四〇	一四、四一六
一、一五六	一五七	一五、四二九	三、一二三
一八	一	三九〇	一
一五、一七六	四、四五九	一〇二、〇四二	四六、〇三六
三八六	六一	五、七八六	一、二四八
三九四	一〇	七、二五八	三二
一、四三九	九三	四四、九七〇	二七〇
一五	一二九	七一	四、一二三
二八四	二三	一、一四八	八九五
四八	一七〇	二、二七一	二九八
一	九三七	二六〇	三八四
一	一六七	二〇〇	七〇一九
六七五	一	二、五〇六	三三六
一一九	三九二	二〇九	一一、二五二

(リ) 伯刺西爾出入船舶

一九二〇年及び一九二一年に於て伯國諸港灣に出入した内外國船舶數及び噸數は次の如くであつた。

各種器具
活動寫眞附屬品
寫眞器械附屬品
電氣器具器械種々
紡績機附屬雜品
各種器具器械
木家具
妻楊子
木製品雜品
象牙貝細工頭飾
角骨細工品
金銀白金細工
花簾類
トラップ
新聞圖書雜誌類
印刷物
書筒用紙類
雜用紙類
板紙
紙製品種々
化粧粧品
印刷用インキ
化學製品藥品
絹仕立服
絹織物

七八八	一、二九二	五、二五八	一一、三一
一一三	一三	二、五五八	四四二
二、八二二	八、六五二	一七、四三〇	九八、九八〇
二〇	一七	一四六	二三七
三	五一	一	三六三
二〇〇	二二三	一、五二二	四、二三六
一	一	一	一八八
一	二	一	六二
一	二一〇	一	二五三
一	二二	一	三四
一	二七	一	二八七
二七、七九四	二五、〇九七	九六、五二七	一四四、九一六
三二二	一〇、四一	一〇、四一	一
三	五六	一六	六七六
八、七四九	一、〇二四	九三、六九九	八、九三五
一〇	一七	二四二	一
九八	一	二、四〇二	四八
七九	一	四〇〇	二六五
一八	一	四二	一
二三七	五、一六二	三、五三〇	九、四六四
一	一	九三、三、九八一	二五三
五、五五七	八〇一	一	一二七、五五一

入港船舶		一九二〇年		一九二一年	
種別	噸數	隻數	噸數	隻數	噸數
伯國汽船	一三,八九九	一	九,三六四,八〇八	一	八,九六五,九三六
同國汽船	五,六八九	一	二一〇,八七七	一	一八六,九八一
外國汽船	一九,五八八	一	九,五七五,六八五	一	九,一五二,九一七
外國帆船	五,〇九三	一	一五,二七五,五三六	一	一三,八九一,一九五
同國帆船	一,四四八	一	九〇,二四五	一	六九,〇四四
外國帆船	五,二四一	一	一五,三六五,七八一	一	一三,九六〇,二三九
汽船合計	一八,八九二	一	二四,六四〇,三四四	一	二二,八五七,一三一
帆船合計	五,八三七	一	三〇,一,一二二	一	二五,六〇,二五
總計	二四,八二九	一	二四,九四一,四六六	一	二二,七二八

出港船舶		一九二〇年		一九二一年	
種別	噸數	隻數	噸數	隻數	噸數
伯國汽船	一三,八五三	一	九,三二〇,二〇一	一	八,九二〇,一一一
同國汽船	五,六八九	一	二二二,二一〇	一	一八三,八七八
外國汽船	一九,五四二	一	九,五四〇,四一一	一	九,一〇三,九九九
外國帆船	五,〇四六	一	一五,一三二,九四〇	一	一三,九九五,三五五
同國帆船	一,四四八	一	九六,五五三	一	六九,二九九
外國帆船	五,一九四	一	一五,二二九,四九三	一	一四,〇六四,六五四
汽船合計	一八,八九九	一	二四,四六一,一四一	一	二二,九〇五,四七六
帆船合計	五,八三七	一	三〇,八,七六三	一	二五,三一,七七
總計	二四,七三六	一	二四,七六九,九〇四	一	二二,一六八,六五三

右の内リオ・デ・ジャヤ子イロ港の、出入船舶數及び噸數は

入港		一九二〇年		一九二一年	
種別	噸數	隻數	噸數	隻數	噸數
伯國汽船	一,四一八	一	一,一一〇,八四三	一	一,〇五二,〇〇六
外國汽船	二,〇三二	一	七,一〇七,六六〇	一	五,六七一,八八五
外國帆船	三,四五〇	一	八,二一八,五〇三	一	六,七二三,八九一
汽船合計	三,四五〇	一	一,〇七三,九四四	一	一,〇四一,八一七
帆船合計	一,三七九	一	七,〇五六,八四一	一	五,七〇二,〇四八
總計	三,三九三	一	八,一三〇,七八五	一	六,七四三,八六五

出港		一九二〇年		一九二一年	
種別	噸數	隻數	噸數	隻數	噸數
伯國汽船	一,三七九	一	一,〇七三,九四四	一	一,〇四一,八一七
外國汽船	二,〇一四	一	七,〇五六,八四一	一	五,七〇二,〇四八
外國帆船	三,三九三	一	八,一三〇,七八五	一	六,七四三,八六五
汽船合計	三,三九三	一	一,〇七三,九四四	一	一,〇四一,八一七
帆船合計	一,三七九	一	七,〇五六,八四一	一	五,七〇二,〇四八
總計	三,三九三	一	八,一三〇,七八五	一	六,七四三,八六五

又サントス港に於ける、出入船舶數及び噸數は

入港		一九二〇年		一九二一年	
種別	噸數	隻數	噸數	隻數	噸數
伯國汽船	八七六	一	七四九,三三六	一	八二九
外國汽船	九二八	一	三,三五七,七八五	一	三,五九八,〇一六
外國帆船	一,八〇四	一	四,一〇七,一一一	一	四,三五四,六八一
汽船合計	一,八〇四	一	七四七,六七八	一	七四八,三七三
帆船合計	八七二	一	三,二九七,九五五	一	三,六三一,四七〇
總計	一,七八二	一	四,〇四五,六三三	一	四,三七九,八四三

出港		一九二〇年		一九二一年	
種別	噸數	隻數	噸數	隻數	噸數
伯國汽船	八七二	一	七四七,六七八	一	七四八,三七三
外國汽船	九一〇	一	三,二九七,九五五	一	三,六三一,四七〇
外國帆船	一,七八二	一	四,〇四五,六三三	一	四,三七九,八四三
汽船合計	一,七八二	一	七四七,六七八	一	七四八,三七三
帆船合計	八七二	一	三,二九七,九五五	一	三,六三一,四七〇
總計	一,七八二	一	四,〇四五,六三三	一	四,三七九,八四三

全伯國出入船舶數百隻以上を所有する主なる諸國及日本船を國籍別に表示すれば

入港		一九二〇年		一九二一年	
國籍	隻數	噸數	隻數	噸數	噸數
伯國	一	一,四一八	一	一,一一〇,八四三	一,〇五二,〇〇六
外國	一	二,〇三二	一	七,一〇七,六六〇	五,六七一,八八五
總計	二	三,四五〇	二	八,二一八,五〇三	六,七二三,八九一

出港		一九二〇年		一九二一年	
國籍	隻數	噸數	隻數	噸數	噸數
伯國	一	一,三七九	一	一,〇七三,九四四	一,〇四一,八一七
外國	一	二,〇一四	一	七,〇五六,八四一	五,七〇二,〇四八
總計	二	三,三九三	二	八,一三〇,七八五	六,七四三,八六五

西班	獨逸	丁抹	日本	瑞典	荷蘭	白耳	亞爾	ウ	ダ	芬	智	秘	露	合
二〇	五	一四	二四	二二	三四	二七	一八	二	二	一	一	一	一	一、八〇四
四三	三二	二七	二五	二一	一七	一一	二	一	一	一	一	一	一	一、七五七
二〇	四	三三	二二	三五	二五	二二	二	一	一	一	一	一	一	一、七八二
四二	三一	二八	二六	二一	一七	一四	二	二	一	一	一	一	一	一、七六八

尙一九二二年六月中のサントス港船舶出入動靜は、汽船一六七、帆船六、合計一七三隻の入港船で、國籍別にすれば、伯國八二、英國二四、伊太利一二、佛蘭西九、和蘭八、諾威八、米國七、獨逸七、瑞典六、西班牙三、白耳義三、丁抹二、日本一、葡萄牙一で、噸數は伯國船七四、五八一噸、外國船三五四、二三三噸、合計四二八、八一四噸であつた。

又出港船は汽船一七三、帆船九、合計一八二隻で、國籍別にすれば、伯國八八、英國二七、伊太利一二、

英	米	亞爾	佛	伊	和	諾	獨	西	日
一、九九九	八三三	五六八	四五二	二九五	二五三	二四六	四九	二七	六九
一、五四一	五一一	五〇七	三六八	二八七	二四〇	二三三	一三八	一〇四	七〇
一、九七七	八一三	五七七	四五二	二九四	二五〇	二四五	四五	二七	六八
一、五五八	五二七	五〇五	三六八	二八六	二四〇	二三五	一四〇	一〇二	七二

同様にサントス港出入船舶を國籍別に示せば

伯	英	米	伊	佛	和	諾	獨	西	日
八七六	三〇四	一四六	一〇一	一〇七	六二	六二	六一	六二	六一
八二九	二三五	一三三	一二八	九一	八三	八三	七五	八三	七五
八七二	二九三	一三八	一〇一	一〇六	六三	六三	六〇	六三	六〇
八二六	二四二	一三六	一二八	九〇	八二	八二	七八	八二	七八

佛蘭西八、獨逸八、諾威七、米國六、瑞典六、和蘭六、西班牙四、丁抹三、日本二、葡萄牙一、で其の噸數は伯國船七四、〇二三噸、外國船三五九、二六六噸、合計四三三、二八九噸であつた。

(ヌ) 最近爲替相場

一八五六年以降一八六六年迄は、伯貨「ミルレース」の平均爲替相場(倫敦)は、廿一片から廿七片台を上下してゐた、一八六七年に十九片台に落ち六八年には十四片台に、七一年に再び廿四片台に上つた、かくて一八九〇年には十片に急落、九八年には五片台と云ふ記録を残した、之を極度として漸時上向き、十一乃至十六を上下して一九二〇年には十四片を保つてゐたが、大入超が影響して一九二一年にかけて底知らずに底下し、一八九八年前後の悲況を再現するに至り、遂に一九二一年の平均相場は八片となり、一九二二年に入つても料々しく上向く模様が見へない。今一九一五年以降一九二一年の伯貨と、英米佛貨との平均價値を對比して示せば、

伯貨「ミルレース」換

年	英片	米貨	佛貨	英片	米貨	佛貨	
一九一五年	二二、三二一分三	〇、二二五	一、三三五	一一、六四分五九	〇、二二三	一、三三八	
一九一七年	二二、三二一分三	〇、二二五	一、四四	一二、六四分五五	〇、二二五	一、四二	
一九一九年	一四、六四分二五	〇、二二六	一、八〇	一四、六四分三三	〇、二二二	二、九八	
一九二一年	八、三三分九	〇、二二三	一、七〇				
英貨磅、米貨弗、佛貨法は							
一九一五年	英貨磅 一九、三四五	米貨弗 四、〇五三	佛貨法 〇、七三七	一九一六年	英貨磅 二〇、二三一	米貨弗 四、二五七	佛貨法 〇、七三三

(ル) 主要なる輸出品に就いて

之迄に大体伯刺西爾の對外貿易に就て説明した、本項ではその輸出貿易中の主要なるものを選んで畧説する事にした。

1 珈琲

珈琲の世界總産額の、四分の三以上は伯刺西爾が生産し、世界の珈琲需用量の約七割は、伯刺西爾が之を供給する、従つて伯刺西爾を口にするものは先づ珈琲を思ふ、然し伯國全体から生産するのではなく、主要な産地はサンパウロ州で、伯國全産額の約八割は此州で生産する、之に次いでリオ・デ・ジャネイロ州、ミナス・ジエラエス州、エスピリト・サント州、バイア州、ベルナンブコ州及びセアラ州等だが、之をサンパウロ州の生産高に比較する時は云ふに足らない、又最近隆々と擡頭し、將來有力な産地たるを思はしむるものにパラナ州がある、該州は一九一三―一四年に初めて四千七百七十袋(六十基入)を出し、順次産額を増加して、一九二〇―二一年には八萬一千餘袋を産出し、サンパウロ州産額の約一分に相當した、即ち七年間に二十倍を増加したのである、此の地方には現在四百五十萬本の珈琲樹があり、尙六千萬本を收容し得る餘地があるので、現下リオ・ブランコマで開通して居る鐵道が、セロアヅールを経てイグアペ、サントスへ聯絡、其他豫定各支線が敷設され運輸能力が充實し、パラナグア又はサントスへの輸送が容易くなつた時こそは、

パナナの珈琲の活躍する時であらう、現在サントスへの運賃珈琲一袋につきハミル二百レートを要する事が、同州發展の最大障碍となつてゐる。

さて最近年間の伯國産珈琲と世界總産額、及びその消費量との關係を示せば、

産出地別	一九二六年	一九二九年	一九三二年	一九三三年
伯國産	一五、八三六	九、七二二	七、五〇〇	一四、四九六
諸外國産	三、〇一一	四、五〇〇	七、六八一	五、七八七
世界總産高	一八、八四七	一四、二二二	一五、一八一	二〇、二八三
世界消費量	一四、八三三	一五、九六八	一八、四九九	一八、五〇〇

▲注意 上記数量中一袋は六〇キロ入

この中一九一八—一九一九年及び一九一九—二〇年の伯國産減少は霜害に依つての打撃である、尙ほ上表に依り伯國産高と、世界消費量とに如何に密接な關係があるか知らるべく、従つて世界市場を左右し得る關係上、投機的危險性を帯ぶると思はるゝ、價格調節策を政府事業としてなし得らるゝを了解する事が出來やう。

又戦前並びに最近数年間の、珈琲輸出額を示せば次の如くで、伯國輸出總額の約五割を占めて居る。

年別	數量	伯貨額	英貨額
一九二三	一三、二六八	六、一六九	四〇、七七九
一九二八	七、四三三	三、五二七	一九、〇四一
一九一九	一一、九六三	一、二二六	七、二六〇
一九二〇	一一、五二五	八、六〇九	五、二八二
一九二一	一一、三六九	一、〇一九	三、四九四

一九二二年の輸出額を主なる輸出港別に示せば

港名

港名	數量	價額
サントス	八、七七〇	七六、三三七
リオデジャネイロ	二、六六〇	一八八、六八六
アイトリア	六、五八	四七、二五四
パイア	二、三二六	一九、〇三一

更に一九一九乃至一九二〇年の、主なる輸出仕向國別に、輸出數量を表示すれば(單位一袋は六十キロ入)

仕向國	一九一九年	一九二〇年	一九二一年
米國	六、二四八	六、二四八	六、一三六
佛蘭西	三、三七〇	一、五三九	一、五五五
和蘭	二、五二六	三、七六二	一、一四五
獨逸	八、九二二	五、四五八	九、二二五
伊太利	二〇、四二一	一、〇〇二	七、五四三
白耳義	五、二三六	三、一九八	三、八二一
亞爾然丁	一九九	二、八五二	二、九六三
瑞典	五、一七二	三、八五七	三、三三三
日本	二、五〇三	二、六〇三	二、六〇六

即ち最大仕向國は米國で、實に輸出總量の五割に當つて居る、獨逸へは戦前二百萬袋に近く輸出し、戦時中は途絶したが、一九一九年から再始一九二一年には戦前の約半數を輸出した。

一九二二年一月乃至三月の、第一期三ヶ月間に於ける珈琲輸出價額は、伯國總輸出額の六割七分に相當した、戦前及び最近數年同期間の輸出状況は

年次	數量	伯貨額	英貨額	平均價格
一九二三	二、七七四	一五九、二六〇	九、九五二	五、四

一九一九	一〇八八	三四二、六九二	一八、六三七	八四
一九二〇	二、八七七	二五三、三五七	一八、五九一	八八
一九二一	三、三〇四	一九五、九六二	七、七二五	五九
一九二二	三、四七五	三六四、六一二	一一、四四六	一〇五

2 綿花

綿工業は鐵鋼工業と同様に、大工業の繁榮を計る尺度だと云はれる、伯國は百五十二萬一千七百の紡錘を有して、日本の所有せる數に比ぶればまだ四割に充たないが、南米に於ては第一位にある、そして其の原料の綿花は自給自足で、其の上多量に世界各地へ輸出してゐる、國內綿工業の原料綿花を、外國の供給に仰がず而も其の輸出國として重要視されるものは、世界の中で伯刺西爾唯一國である。

伯國綿花生産力はまだ世界總産額の四分に過ぎない、即ち年産七十萬捆(一捆五百英斤)と計上されてゐる、然し綿花栽培可能面積は、米國の綿花栽培地方より遙かに廣大なので、將來に於ける發達は目醒ましいものがあらう、而も伯國産綿花の品質は優等で、北部諸州からは頗る長纖維のものを産出し、埃及綿と上下を争ひ、埃及綿の品質を好く見せ高價に賣られる爲に、伯國綿を埃及綿に混交して販賣せられると云ふ程である、たゞ種子の選擇が完全しないのと、精製技術に充分でない所があるのが缺點であると云ふ。

主要産地は、バラ、マラニオン、ピアウイ、セアラ、リオ・グランデ・ド・ノルテ、バライバ、ベルナンブコ、アラゴアス、エスピリト・サント、サン・パウロ、ミナス・ジェラエスの諸州で、又バラナ州の北部サンタ・カタリナ州等にも少量を産出する。此の中サン・パウロは極めて最近にその産出量を増大したのである、葡國の紡績業者は其の纖維の長い關係から、マラニオン産を好んで輸入する。

一九二二年一月乃至五月の綿花輸出額を、前數年及び戰前同期間の輸出額と對比すれば

年次	數量	伯貨額	英貨額	噸當平均價格
一九一三(自一月至五月)	一五、八八九	紙幣コント(千、レリス)	九五四	九〇〇
一九一九(同)	一、七三七	五、四〇〇	三〇〇	三、一八〇
一九二〇(同)	二〇、二一一	六六、三三三	四、七三三	三、二八〇
一九二一(同)	三、二四二	九〇、六七	三五四	二、四二三
一九二二(同)	一六、八六八	四一、八三二	一、三一七	二、四八〇

輸出額順に依る主要仕向國は、英國、葡萄牙、佛蘭西、獨逸、米國、伊太利、白耳義、和蘭等で、主要輸出港はサントス(サン・パウロ州)レシイフェ(ベルナンブゴ州)フォルタレザ(セアラ州)カペデロ(バライバ州)サン・ルイス(マラニオン州)イリヤ・デ・カジュエロ(マラニオン州)リオ・デ・ジャチイロ等其他である。

3 ゴ

伯刺西爾産護謨と云へば、殆ど云ふに足らない栽培護謨はあるが、全部天然護謨である、そして南部地方を除いて、殆ど全國から天然護謨を産出するが、主なる産地はアマゾン流域の、アマゾナス、バラの兩州で、馬來、印度地方産の栽培護謨が、未だ市場に勢力を現はさなかつた、一九一〇年頃迄は世界産額の約半額を生産し、従つて珈琲に於けるが如く大勢力を有し、天井知らずの好景氣續きに、前記三州には黄金が唸り、資本家も勞働者も吾も／＼と集ひ寄つた、あの莊麗なマナオスの市街や、完備した同港及びバラ港の築港設備は皆アマゾン流域の天然護謨が惠んだ賜物である、殊に一九一〇年はその黄金時代で、輸出量は三萬八千噸

に達し、平均価格一キロ五ミル乃至六ミルを上下してゐたものが、俄に約十ミルに騰貴した結果、輸出額は三七三、三八二コントス（一コントは千ミル）に上り、珈琲輸出額の壘を摩して、其差は僅に十萬コントスに過ぎなかつた。

然し常夏の國にも秋風の吹かではやまず、一八七七年に初めてアマゾンから移植された、印度、馬來地方の栽培護謨が、市場に生産物を供給し初め、非常な加速度で生産力を増大すると共に、低廉な生活費と豊富な勞力を以てする結果、生産費は極めて低廉なため、天然護謨は其品質に於て優等の地位を占むるとは云へ、多大な影響を蒙らすにはゐられなかつた、一九一一年の伯國護謨輸出は一キロ平均価格は六ミルに落ち、爾後年を追ふて五ミル、四ミル、三ミルと漸落、一九二〇年には二ミルに、更に一九二一年に於ては一ミルと云ふ、十年前に比して十分の一の大暴落を底として、一九二二年には二ミルに挽回した、然しこの急激の痛手にアマゾナス地方、昔日の盛華は見るに由なく、立ち並ぶ高莊な市街の眺めに、ありし榮華を偲ぶばかり轉た秋風落日の觀がある。

けれども一面世界の需用消費量を見れば、現今其の用途は三萬種に上ると云ひ、電氣、機械、運輸の諸工業の發達に連れて益々其の需用消費量を増加して行く、たゞ一九二一年の消費量は、戦後經濟界膨脹の大反動を受けた、一九二〇年の世界工業界一般の大緊縮に基き、消費漸増の傾向に逆行し、俄然減少を示したが之は一時的現象に止まつて、前途の悲觀材料にはなり得べくもない、殊に自動車工業のみに要する護謨は、世界産額の三分の一である云ひ、今後航空事業の發達と共に、需用量は愈々増大すべく、前途は實に洋々たるものがある、そして此の傾向は一九二二年の護謨貿易上にはこの見へて來た。

戦前一九一三年及び最近數年間の一月乃至五月の五ヶ月間に於ける、伯國護謨輸出は

年次	數量	伯貨額	英貨額	噸當平均價格
一九一三	一九,四五六	九二,五八五	六,一七一	四,七五九
一九一九	一五,一五二	四七,八一八	二,六四六	三,一五〇
一九二〇	一二,五三七	三三,四〇五	二,三八八	二,六六四
一九二一	七,二九七	一二,四七二	四七一	一,七〇九
一九二二	七,八三〇	一五,一七七	五〇〇	二,〇二八

以上の如く一九二二年の輸出量は、一九二〇年に比する時は、尙ほ非常に下位にあるが、昨年にして確に見直した趣があるのは、平均輸出價格に於ても然りである。

戦前と一九一九年乃至一九二二年の各地生産高及び消費量を對比すれば

年次	生産量		計	消費量
	栽培護謨	伯國產天然護謨		
一九一三	四七,六一八	三〇,三七〇	二一,四五二	九九,三四〇
一九一九	三四〇,二二五	三四,二八五	七,三五〇	三八一,八六〇
一九二〇	三〇四,八一六	三〇,七〇〇	八,一二五	三四三,六四一
一九二一	二七二,五一九	一九,八三七	二,八九〇	二九五,二四六
				三〇三八一六

護謨の世界最大消費地は米國で、世界消費量の六割乃至七割に當る、そして其の中の七割は自動車工業に使用されるのだと云ふ、又日本の消費量も年々増大し、一九一九年には一萬二千噸、一九二〇年には五千五百噸、一九二一年には二萬一千噸を消費した。

伯國護謨の主要輸出港は、マナオス、パラオ、コロンバアで、主な輸出仕向國は米國で、輸出護謨總量の六割以上を仕向ける、次いで獨、佛、英、ウルグアイ諸國である。

茶

マテ茶も護謨と同じく、殆ど無限の伯國天然産物の一である。護謨や綿やに正反對し、之は巴拉ナ州以南の三州に産する、殊に主産地は巴拉ナ州で、巴拉ナ州財源の八割はマテ茶に依つて擔はれてゐる事、サン・パウロ州に於ける珈琲と同様である。そして此のマテ茶は極めて少數の栽培樹を除いて、殆ど全部は森林野生のマテ樹から得るので、最近に於けるマテ茶の價格騰貴に連れて、該樹を栽培する者も出て來た、此のマテ樹は唯植付けてさへ置けば、何等の手入を要せずして、三年目から收穫をなし得られるのである。マテ樹は氣候の關係から、巴拉ナ高原地帯以南サンタ・カタリナ州、リオ・グランデ・ド・スル州の一部及びパラグアイ國にのみ産し、亞爾然丁では近頃其の栽培に努力して居る、巴拉ナ州ボンタグロッツサ以南の森林地帯に産するマテは、計り知る事が出來ず無盡藏だとされて居る。

近最數年間のマテ茶輸出趨勢は

年次	數量	伯貨額
一九一三	六五、八四三	紙幣コント(千ミルレス) 三五、五七六
一九一八	七二、七八一	二、三三二
一九一九	九〇、二〇〇	三九、七五〇
一九二〇	九〇、六八六	五二、五一二
一九二一	七一、八九九	五〇、五五九
		四三、四三六
		二、九七三
		一、四九二

主要輸出港は巴拉ナグア、アントニイナ、フォツス・ド・イグアツスウ(以上巴拉ナ州)サン・フランシスコ(サンタ・カタリナ州)ポルトアレグレ、サンタアンナリブラメント、ウルグアイアナ(以上リオ・グラン

デ・ド・スル州)で、主な輸出仕向國は亞爾然丁、智利、ウルグアイで、一九二一年輸出總數量七萬二千噸中、四萬八千噸は亞爾然丁へ仕向けられた、かくの如く總輸出量の殆ど七割は毎年亞國へ輸出される、其他獨逸、ポルビア、米國、佛蘭西、英國、西班牙、葡萄牙、パラグアイ等へ、極めて少量が輸出される。

輸出包装は普通樽、麻袋、布筒詰等で、精製品と粗製品(カンシアドと云ふ)とが輸出される。この粗製品は亞國着後精製されるのである。

5 煙 草

伯刺西爾の煙草は、既に十六世紀中頃から、重要輸出品中に數へられてゐた。主要産地はバイア州を第一として、サン・パウロ、ピアウイ、リオ・グランデ・ド・スル、サンタ・カタリナ其他諸州に産する、

又輸出煙草の約九割は葉煙草であるが、少量ながら刻み、繩煙草、葉卷、紙卷、煙草蜜から喫ぎ煙草まで製造輸出する、輸出葉煙草の殆ど全部は、バイア港から出ると云つても過言ではない、其の少量の輸出額の順位に依る諸港を示せば、リオ(聯邦首都)サントス(サン・パウロ州)サン・フランシスコ(サンタ・カタリナ州)リオ・グランデ、ペロツタス、ポルトアレグレ(以上リオ・グランデ・ド・スル州)である。

輸出仕向國は獨逸が第一で、戦前に於ては殆ど獨占の形あり、戦時中は影をひそめたが、目下は再び昔日の地位をかち得た、其に次いで佛蘭西、和蘭、亞爾然丁、瑞典、ウルグアイの順である。

一九一三年及び一九一九年乃至一九二二年各年の、一月乃至五月間に於ける煙草輸出状況は次の如し。

年次	數量	伯貨額	英貨額	噸當平均價格
一九一三	一七、七六七	紙幣コント(千ミルレス) 一五、四四四	千磅 八三〇	紙幣ミルレス 八五八

6 砂 糖

伯國の砂糖は十八世紀初期頃迄は、歐洲市場を支配したが、其の後西印度に於ける甘蔗栽培の急激の發達の爲に打撃を受けた、然し世界砂糖消費趨勢から推す時は、伯國糖業の前途は決して悲觀すべきものではない。

伯國に於ける砂糖の主要産地は、ベルナンブゴ、リオ・デ・ジャチイロ、バイア、サン・パウロ其他諸州である、殊にリオ・グランデ・ド・スル州最近の活動は頗る著しく、製糖機械の輸入額は、同州輸入品中の首位を占めて居る。一九二〇—二一年度全伯國製糖量は、六九五、五一六、四〇〇キロと計上された、然し伯國の全生産能力は八〇〇、〇〇〇噸と見積られて居る。

一九二二年一月乃至五月間の輸出量を、前數年及び戰前同期間の輸出額と對照すれば

年次	數量	伯貨額	英貨額	噸當平均價格
	噸	紙幣コント(千ミルレス)	千磅	紙幣ミルレス
一九一三	四、九五七	八八一	五八	一七七
一九一九	一八、三七三	一二、五五五	六八六	六八三
一九二〇	三三、二五八	三四、七二一	一、四七三	一、〇四四
一九二一	六二、六〇七	四四、八七七	一、六九二	七二八
一九二二	九五、六二四	三八、二八一	一、二〇八	四〇〇

一九一九	一七、〇六八	二六、三八七	九九八	一、五四六
一九二〇	六、五二四	一〇、一七七	一、三三八	一、五六〇
一九二一	一八、六四〇	三二、一三五	五三〇	一、七二四
一九二二	九、九九九	一一、一七九	五八八	一、一一八

7 米

輸出仕向國の主なるものは英國、ウルグアイ、亞爾然丁、葡萄牙、伊太利、米國、佛蘭西等で、最大量輸出港はレシイフエ、ベルナンブゴ州である。

一九一〇年迄伯國は外國から米を多量に輸入して居た、所が歐洲大戰と共に國內の米作が急激に發達し、戦後と共に輸出をするに至り、僅かの間米の輸入國から輸出國に變つてしまつた。最も盛な米作地方はリオ・グランデ・ド・スル州で主要輸出港はポルト・アレグレ、ペロツタス(以上リオ・グランデ・ド・スル州)リオ・デ・ジャチイロ(聯邦首都)、サントス(サンパウロ)等である、又主な輸出仕向國は、亞爾然丁、獨逸、ウルグアイ、葡萄牙等で、亞國市場に於ける伯國米は、常に他國産より高價に取引されて居る。

戰前及び最近年間一月乃至五月間の輸出を示せば

年次	數量	伯貨額	英貨額	噸當平均價格
	噸	紙幣コント(千ミルレス)	千磅	紙幣ミルレス
一九一三	二四	一一二	一四六	五〇〇
一九一九	三、九〇七	二、五七三	一四六	六五〇
一九二〇	五一、九一六	三七、八一二	二、六七二	七二八
一九二一	九、三八六	六、三〇六	二、三三二	六七二
一九二二	一一、六七〇	六、六九六	二一〇	五二九

8 木 材

殆ど國內到る處千古斧鉞を知らぬ、大森林を抱擁する伯刺西爾は、その木材の輸出は、まだ比較的少ない然し輿地からの運輸方法の發達と共に、將來に於ける増進は目醒ましいものがあらう。ともかく既に亞國市

場は充分に掌握して居るのである、伯國の輸出木材の大部分を占むるは、巴拉ナ、サンタ・カタリナ諸州の南部伯刺西爾に産する松材(Pinho)の對亞國輸出である。其他耐火力に富み、極めて堅牢な爲建築材料に適し、北部伯刺西爾地方に産するアカブウ(Acupu)で葡國へ輸出される、バララ、巴拉ナ、リオ・グランデ・ド・スル諸州から亞爾然丁、米國、諾威、葡萄牙、ウルグアイ等へ輸出される杉類(Cedro)、バイア、ビクトリア、リオ・デ・ジャネイロ等から、歐洲各國や米國へ出る紫檀(Jacaranda)、主として對米輸出のブラジル樹(Pine-Brazil)、獨、佛白、米等へ輸出されるセバチオン・デ・アルウダ(Sebastiao de Arundia柳の一種)、リオ以北諸州及び中部伯國に産する、黎科植物の一種 Misaraninha 其他種々ある。

一月乃至五月間最近各年の木材輸出額は左の通り

年次	數量	伯貨額	英貨額	噸當平均價格
一九一三	四、七九四	紙幣コント(千レリス) 六〇九	千磅 四一	紙幣ミルレリス 一二七
一九一九	二八、六六一	三、九二二	二一八	一三七
一九二〇	四五、六六八	六、五〇三	四六二	一四二
一九二一	三四、七七〇	六、二〇七	二三九	一七八
一九二二	五四、〇〇五	九、〇二二	二八四	一六七

然して松材の輸出は一九一三年中には一萬二千噸、一九一五年に三萬噸、一九一八年には十五萬二千噸、一九二〇年には十二萬五千噸に達した。

9 マンヂオカ粉

一九一三年以前に於ては、國內の需用を充たした後、極めて少量のマンヂオカ粉(大戟科植物の根から製

した、伯國人の常食物)が亞爾然丁、ウルグアイ、英吉利に輸出されたに過ぎなかつた。所が戦争の爲食糧品缺乏の結果から、莫大な需用となり、大量生産輸出を刺激した、輸出量の記録を示したのは一九一八年で六萬六千噸に上つたが、平和と共に一時減少し、一九二一年から一九二二年にかけて再び擡頭の氣勢を見せるに至つた。

最近數年間一月乃至五月の輸出状況は次の如くである。

年次	數量	伯貨額	英貨額	噸當平均價格
一九一三	一、七二六	紙幣コント(千ミルレリス) 二九六	千磅 一九	紙幣ミルレリス 一六八
一九一九	一五、八七七	五、四三三	二九六	三四二
一九二〇	二、一三八	六七〇	四七	三二二
一九二一	四、四八五	一、三七八	五二	三〇一
一九二二	五、七四四	一、七七二	五六	三九九

一九一三年に於ける主要仕向國は、亞爾然丁、ウルグアイ、英國であつた、一九一八年には英、佛、ウルグアイの順、一九一九年には英、佛、葡となり、一九二〇年には亞、ウルグアイ、佛から一九二一年にはウルグアイ、亞爾然丁、佛蘭西の順となつた、主要輸出港はリオ・グランデ・ド・スルの諸港及びリオ港である

10 搾油用果實

伯國から搾油用として輸出される果實は、落花生、マモナ、棉核、バラ栗、椰子の實等で、殊に伯國は椰子の各種類が豊富で、其の果實は搾油として到る處に歓迎せられる。そして之等果實の輸出は、戦後著しく發展した、戦前獨逸は百七十萬噸、英國は百六十萬噸、佛國百六十萬噸、和蘭七十萬噸を年々輸入してゐ

たが、戦後一般經濟界恐慌に影響を受けたが、各種工業發展と共に、益々需用を擴める油脂界の前途は愈々樂觀される。

過去數年間一月乃至五月の輸出高は

年別	數量	伯貨額	英貨額	噸當平均價格
一九一三	三四,三二九噸	紙幣コソト(千ミルレース)	四,四五二	一三〇
一九一九	三二,二三一	紙幣コソト(千ミルレース)	二九七	一三〇
一九二〇	四三,八四二	紙幣コソト(千ミルレース)	一八,七一三	五八一
一九二一	二一,三三八	紙幣コソト(千ミルレース)	二,一九〇〇	五〇二
一九二二	四三,〇六四	紙幣コソト(千ミルレース)	一七,四七三	八一九
		紙幣コソト(千ミルレース)	三〇,八九四	九七六

(オ) 主要輸入品に就て

主要輸入品に關する統計は、前輸出輸入貿易の狀態を説いた時に掲出した、茲には其等の中の數點に就て要綱を記して見る。

1 小麥と小麥粉

小麥の伯國輸入は戦前に比して、價格に増大を來たしたが數量に於ては減少した、之は一面に國內産額の増加を語るものである、殊に小麥粉輸入の減少は、國內製粉工場の活躍を示してゐる。

伯刺西爾で小麥を栽培し得る地方は南部諸州即ちリオ・グランデ・ド・スル、サンタ・カタリナ、バラナ、サンパウロ、リオ諸州の一部で最も發達して居るのはリオ・グランデ・ド・スル州である同州では國內消費量の

三分の一を充し、他日バラナ、サンタ・カタリナ兩州の小麥作發達の曉は國內消費量自給自足をなし得る見込だと云ふ、バラナ州へは先年聯邦政府の施設で、小麥試驗農場が設けられた、一九二一年度の國內産額は一三五、八四五、二二五キロ、價格六七、九二二、六一二ミル五〇〇レースであつた、尙バラナ州小麥作の成績は極めてよく、一莖のもとに十七本の穂を生ずること珍しくない。

輸入仕出國の主なものには亞爾然丁、米國、ウルグアイで、一九二一年の輸出高を、上記三國の仕出國別に示せば

國別	小麥		小麥粉	
	數量	伯貨額	數量	伯貨額
亞爾然丁	三二,一八五噸	紙幣コソト(千ミルレース)	二一,九七三	紙幣コソト(千ミルレース)
米國	二六,二九六	紙幣コソト(千ミルレース)	三二,八六二	紙幣コソト(千ミルレース)
ウルグアイ	五,三九〇	紙幣コソト(千ミルレース)	四八,二二七	紙幣コソト(千ミルレース)
		紙幣コソト(千ミルレース)	一,七二三	紙幣コソト(千ミルレース)
		紙幣コソト(千ミルレース)	四,五〇九	紙幣コソト(千ミルレース)
		紙幣コソト(千ミルレース)	二九,四四八	紙幣コソト(千ミルレース)
		紙幣コソト(千ミルレース)	二九五	紙幣コソト(千ミルレース)

2 干 鱈

戦前に比して戦後輸入量は約半減した、主要輸入國はニュウファウンドランド、加奈陀、諾威、英國、米國で、一九二一年輸入總額の五割以上は、ニュウファウンドランドから輸入されたのである、次に一九二一年に於ける輸入數量を、主要仕出國別に示せば、

國別	數量		伯貨額	
	噸	噸	紙幣コソト(千ミルレース)	紙幣コソト(千ミルレース)
ニュウファウンドランド	九,三六七	噸	一六,八六九	噸
諾威	二,四三二	噸	五,三九五	噸
米國	五,六二二	噸	一〇,二八	噸
		噸	四,二七七	噸
		噸	八,五七八	噸
		噸	九七〇	噸
		噸	二,六七八	噸

3 ジュッタ(黄麻)

伯國主要産物が農産物であり、その取扱用總て袋を用ふ爲、本品の輸入は最も重要なものである、仕出國は印度で、英國の手を経て輸入されるものと、直接印度から輸入されるものがある、輸入港の主なものにはサントス、次いでリオ港で、サントスに於けるジュッタ工業は、南米のダンデイとも思はれる、既に聖州では印度から六人の技術者を招き、聖市を距る八百基米突、ブレシデンテ・ブルデンテに試作を始め、非常な好成绩を得た、即ち印度に於ては普通纖維の長さは三米突半なるに對し、サンパウロ産は四米突が普通であると云ふ、同地方では日本人植民者の栽培を始めてゐるものもある。かくてジュッタの伯國栽培可能性は充分にあるが、唯不足せるは資本と勞力とである。

4 石炭

試験の結果は日本産より上等だと銘を打たれた石炭が、伯國內諸所に産出するが、資金と勞力との不足の爲及び運輸の便等の爲、現在の炭坑は極めて小規模で、産出量も微々たるものである、その中最も盛大なのはリオ・グランデ・ド・スル州のサン・ジエロニモ炭礦である。

伯國輸入石炭の最大仕出國は米國で次いで英國である、一九二一年の輸入額約八十萬噸中、米國よりの輸入量は六十萬噸であつた。

主要輸入港はリオ・デ・ジャチイロ、次いでサントス港である

5 セメント

伯國にはセメント製造原料たる、石灰及び陶土を各地に夥多に産出する、熔爐に使用する燃料の石炭は不足だが、大森林を有し従つて比較的廉價に得られる木炭を使用出来る、動力は豊富な水力を利用して電力を起すか、容易に廉價に得られる薪を以てする事が出来る、然るにまだ國內セメント製造業は稚々として進まない。

伯國へのセメント輸入主要國は、戦時及び戦後は米國が第一位、第二位に英國であつた、然し最近には獨逸が第一位を占めて、一九二一年の輸入總量十五萬七千噸中、八萬三千噸を輸入した、次いで英國より二萬二千噸、丁抹から一萬七千噸、白耳義から一萬一千噸、伊太利から一萬噸、米國から八千噸、其他佛、亞、諾、瑞典、ウルグアイ等から輸入した、輸入港の主なもの、は、リオ、サントス、レシイフェ、バイア等である

6 紙類

パラナ州の如く製紙原料として、パラナ松、エデイキオアコロナル(俗にジャスミンと呼び、萎茄に似た野生の植物)が豊富にあるに拘らず、製紙工場は極めて少なく、生産高もまだ云ふに足らない、機械と技術の不完全な爲に、漸く包紙等を製造するに過ぎない。

伯國輸入印刷紙類の主なる仕出國は、戦前にあつては獨逸が第一に、次いで諾威であつた、一九二一年には芬蘭が第一位に、第二獨逸、第三諾威であつた、主要輸入港は、リオ、サントス、ポルト・アレグレである。

(ワ) 正貨外國銀行券輸出入

之迄説いたのは、實際貨物の輸出入のみであつて、正貨や外國銀行券輸出入に就ては言を及ぼしてゐな

つた、今一九一三年より一九二二年迄の正貨流出入高を、最近発表の聯邦大藏省統計局調査により掲出する

年別	伯貨額 (單位コントス即千ミルレス)		英貨額 (單位磅)	
	輸入	輸出	輸入	輸出
一九一三	一八、七三	六〇、九二	一、四八、四六一	六、六〇、七〇四
一九一四	二六、六〇	二六、四三	八、五七、八〇五	九、一〇、八四三
一九一五	八七	九七、九四	四、九二、九一三	五、一九、四三三
一九一六	七	三、三三	三、七五	一、六二、五八八
一九一七	一六〇	六三	八、三六	三、四、八五
一九一八	一九	二〇	一〇、〇〇	四、七二
一九一九	二、五七	一〇	二、六、四四	一〇、五五
一九二〇	二、七三	五七〇	一、五、二二	一、六、四四
一九二一	一五	三三	一、五、二二	一、五、二二
合計	一〇、三三	一〇、三三	一〇、三三	一〇、三三

(カ) 内外國銀行

聯邦大藏省統計局調査に依ると、一九一五年にはリオ市所在銀行数は、本支店代理店を合せて十六行を數へ内九行は外國銀行七行は内國銀行であつた、一九二二年九月には總數三十八行、内外國十八内國二十に上つた、聖州内及び全伯國に於ける一九一五年及び一九二二年の銀行數は

州	一九一五年		一九二二年	
	外國銀行	内國銀行	外國銀行	内國銀行
聖州	一二	六	一九	一五
全伯國	一八	一八	三三	三三

更に此兩年末の動靜を對比すれば

貸方の部	一九一五年		一九二二年	
	手形割引	内國銀行	手形割引	内國銀行
手形割引	一四三、二二一	七四、二二一	一、二六三、一五三	三二二、七九一
内國銀行	六八、九九〇	三八九、一六〇	九五〇、三六二	一、六三七、一〇五
當座貸付	一七四、六一三	二一四、五四七	七六一、三九一	八七五、七一四
内國銀行	三三、一八三	一八四、五六四	八五九、一八二	五〇八、二四〇
外國銀行	一五六、六一九	三五〇、九四二	三、五〇、九四二	三五〇、九四二
借方の部	一九一五年	一九二二年	一九一五年	一九二二年
當座預金	四三九、八八三	二、一〇〇、〇〇九	二四八、三〇七	八三八、六五五
内國銀行	一九一、五七六	一、二六一、三五四	二七三、三六〇	九七四、八五〇
定期預金	二二八、七八〇	三一一、二八〇	一四、五八〇	六六三、二七〇
内國銀行	一四、五八〇	一三六、〇四二	四三、九二五	六二五、六四八
外國銀行	二八六、五六四	四九四、一五六	二八六、五六四	四九四、一五六

而して一九一五年に於ける紙幣流通高は九八二、〇〇〇コントス、一九二二年に於ける流通高は一、八〇〇、〇〇〇コントスである。

一四、工業

(イ) 全國工業概要

殆どあらゆる種類の製造工業原料品を、限り知れぬまで豊富に抱擁して、日に日に進み行く伯刺西爾の工

業の前途は、實に洋々として世界各國から羨望されてゐる。獨立百年を閲する今日、常に資金と勞力との不足勝と闘つて來たので、現在の工業状態は誇るべきものはない、然しそれだけに將來に於ける活躍は、今から想像するに難くない、伯國は凡ての性質の工業に對して、無限の材料を提供して、他からの資本と勞力との援助を待つて居るのである。米國は更なり、戦後財政復興に全力を盡くす英國も、或は鐵道敷設に、或は製鐵事業に、或は製紙、或は紡績と、競つてその投資に心懸けてゐる。

工業に就ては完全な統計類が得られないのと、詳細に亘れば限りがないので、斷片的に大略を説く事にす

一九二二年五月に開かれた、聯邦議會に對する、大統領の教書に依れば、全國内現存の大小諸種製造工場數は一萬九千以上と算せられ、就働職工數三十五萬以上に上る。資本全額は二百萬コントス（一コントは千ミルレース）、年産額約三百萬コントスとされてゐる。最も工業の盛大な地方は、聯邦首都及びサン・パウロ州で、全國生産額の約半額は、此の兩者で生産し、その三分の一はサン・パウロ州の工場によつて産せられる。

尙ほ工業製造品消費税課税の關係から、稅務當局の調査に依ると、一九二〇年末現在に於て、全國工場總數三萬六千三百三十八を數へ、その中主なるものを種類別にして示せば次の如くである。

種類	工場數	種類	工場數
飲料	一五、二九三	靴類	七、六七〇
牛酪	二、一五八	咖啡焙煎磨碎	一、三九二
煙草及其加工	一、三七〇	特別藥種	一、三五六
	一、一六一	家具	一、〇四〇

織物加工	帽	子
一、〇〇〇	九一二	
鐘錶	七九〇	香料化粧品
七九〇	六六七	
醸造	五二六	織物
五二六	三三三	
蠟燭	二〇二	
二〇二		

更に所在州別に示すときは、

州名	工場數	州名	工場數
サンパウロ	八、〇六六	ミナスジエラエス	六、九九三
リオグランデドスル	四、七九〇	サンタカタリナ	二、六五六
聯邦首都	二、〇三四	ペルナンブコ	一、七三九
リオデジャネイロ	一、六六八	バイア	一、五二〇
パラナ	一、二五七	セルジペ	七九二
セアラ	七一九	アラゴアス	六四一
マラニオン	五八一	マラニオン	五五九
ゴヤス	五三〇	パライバ	四七一
エスピリトサント	四五三	マトグロソ	二八三
リオグランデノルテ	二四九	アマゾン	二〇一
ピアウイ	一三六	計	三六、三三八

又各州別に主要な製造工業状態を述べれば、（北部より南へ順に）

1 アマゾン州。越幾斯工業即ち、護謨、カ、オ、バラ栗採取工業を主とし、製造工業には燐寸、蠟燭、石鹼、家具、靴類、寶石等がある。

2 バラ州。護謨は前者と同じく第一である、麥稈帽子、紙巻煙草、石鹼、染料インキ、護謨用箱、封蠟、飲料物、香料、釘、箒、チョコレート、ジュツタ織物、麻紐類等の諸工場があり、殊清涼飲料の有名な工場

と、日々六十箱(塋詰入)を製造する火酒醸造工場がある。

- 3 マラニオン州。織物工場十三の外、瓦斯、發電所、護謨、マンジオカ粉、カ、オ、食鹽の工業がある
- 4 ピアウイ州。牧畜に適す土地が多く、その方面に自然力を傾倒するので、他の工業は進歩してゐない
- 5 セアラ州。多数の製靴、帽子、織物、石鹼、蠟燭、食料品、葡萄酒等の工場がある、護謨、カ、オ、椰子蠟、食鹽等の製造も盛である。
- 6 リオ・グランデ・ド・ノルテ州。本州も牧畜が第一に押されて居るので、他の工業はまだ見るべきものがない。

7 バライバ州。バライバ紡織工場は國內に有名なもの、一である、其他四百の製糖工場、二百酒精蒸溜工場の他製紐繩及びセメント工場がある。

8 パルナンブコ州。最も盛なのは精製糖工場で、その他に、鑄鐵、織物、葉巻煙草、蠟燭、石鹼、製紙の諸工場がある。

9 アラゴア州。綿織物。酒精、石鹼、煙草、砂糖、蠟燭、屋根瓦、敷瓦、煉瓦等の諸工業が盛である

10 セルジベ州。セルジベ工業會社の紡織工場は伯國有数のものである、其他綿織物、洋傘、化學工業品、油脂、鐘詰、菓子、製材、セメント加工等の六十七工場を有し、四百八十一の製糖工場がある、その中リアシエロ郡の中央製糖工場は、實に南米第一の稱がある。

11 バイア州。多数の精製糖、綿織物、葉巻煙草、嗅煙草、製帽、製靴、石鹼、蠟燭、油脂、陶器、屋根瓦、家具、チョコレート等の諸工場があり、サンフェリクス市のジェラルド・ダンチマン葉巻工場は、南米第一のものである。又護謨。カ、オ等の製造も盛である。捕鯨、鯨魚等の漁業も大に行はれる。

12 エスピリト・サント州他州に比べて工業は稍劣る、首位にあるは製糖業で、酒精及び乾酪工業も見べきものがある。ピクトリア、エスピリト・サント、カシヨエロ・ド・イタベミリンの各市にある、三大綿紡績工場は有名なものである。

13 リオ・デ・ジャチイロ州。聯邦首都、サンパウロ州に次ぐ工業地である。陶器。カ、オ、乾酪、牛酪、織物、帽子、葉巻煙草、紙巻煙草、燐寸、麥酒、ゴヤバダ果製羊羹、饅頭、鐘詰、酒精等の諸工場が多い、カポフリオ及びアララマの各郡には、製鹽業盛に毎年十一月から翌三月迄の間に、約五十萬俵(一俵八十キロ入)の製鹽高がある。巴里の伯國製糖會社經營の製糖工場が、レオボルヂイナ鐵道線の、クビンとコスとの二箇所にある。カンボス市には三十四製糖工場あり、ブラドビライにはリオボニイ工場と稱する、機械設備の點に於て伯國第一流の製糖工場がある。

14 聯邦首都。工業生産上南米中この地方の右に出づるものはあるまい、多数の綿、毛、絹紡績、靴、帽子、燐寸、麥酒、葉巻煙草、紙煙卷、蠟燭、食料捏粉、化粧品、石鹼、レース、陶器、彫像、家具、襟飾、製紙、チョコレート、硝子、酒精、樂器、光視學器械等の工場が盛に活動してゐる。

15 サンパウロ州。紡績、蠟燭、石鹼、硝子、製紙、麥酒、葡萄酒、製靴帽、燐寸、家具、屋根瓦、敷瓦、煉瓦、石灰等の各工場は、既述の通り八千餘を有す、ピラシカバには佛蘭西資金のもとに、伯國製糖會社が經營する一大製糖場がある、該工場は一八八〇年創設され伯國有数のものである、附屬として千五百ヘクタール(一ヘクタールは約日本の一町歩)の面積を有する甘蔗園を有してゐる。砂糖年産額五十萬アロバ(一アロバは十五キロ)即ち十二萬五千袋である。同地には又ロドルフォ・デ・ミランダ・イ・フイリョ商會の營むア

レツシナ紡績工場がある、一八八一年の創立にかゝり、内國産綿花を原料として、年産額二百萬米突の綿布を織出す、原料は平均三百六十コントス(一コントは千ミルレース)を要すると云ふ、此地を距る六基米突の地にモンテ・アレグレ製糖工場がある、三百アルケリス(一アルケルは日本の約二町五反)の甘蔗園を有し一年十六萬アロバ、即ち四萬袋を生産する。巴里の伯國製糖會社はビララツファルド、ポルトフェリス、ロレナにも重要な製糖工場を有して居る。聖市を距る地カイエラスに、石灰、屋根瓦、煉瓦及び各種陶土器製造の大工場がある。イツウの瀧の附近には三個の紡績工場と、メルケルト商會の經營する製紙工場がある、之は製紙工場として伯國最初に創立されたものである、サン・ジョアン・ド・イバチマ及びリベロン・ブレイト市には大製鐵工場がある、殊に後者には南米第一の熔鑪を有する製鐵場がある。

一九一四年乃至一九一九年の諸種工業生産額は

年 別	生 産 額
一九一四	二二二、三三一、七三〇(ミルレース)
一九一五	二七四、一四七、四二二
一九一六	三五八、九一一、九六八
一九一七	五六二、三八一、六五一
一九一八	五五六、八〇一、一〇〇
一九一九	七一一、六六二、三二七

又一九一九年の主要數品の生産量を示せば

品 種	生 産 量
綿 織 物	一七五、二五五、〇六八米突

16 バラナ州。最も主なる工業は、マテ茶精製工場と製材所とである、之に次で豚脂、燐寸、ハム、腸詰肉、麥酒、麥稈帽子、硝子、製紙、ピアノ、石鹼、蠟燭、火酒、膠、乾肉、乾酪、牛酪、靴、皮革加工、製粉、屋根瓦、煉瓦、陶器、石灰、製氷、飲料水、餛飩、葡萄酒、車輛、織物、葉及紙煙草、菓子、鞣皮、家具、鐵工、釘、鑄鐵等がある、マテ茶精製工場は二十ヶ所の餘に上り、製材所は到る處に散在する。燐寸製造はバラナ主要の工業でクリチバ市に四工場ある、州外輸出額年二千コントス餘である。主なもの、州外輸出額を擧ぐれば、

黃麻織物	九、一七七、九六三米突
男女用帽子	二、五八六、二九八個
靴	六、二一八、四〇六足
燐 寸	九三、一二四、〇一六箱
品 種	價 額
麥 酒	六〇〇、〇〇〇(ミルレース)
燐 寸	二、〇〇〇、〇〇〇
豚 脂	一、五〇〇、〇〇〇
ハ ム 類	二、二〇〇、〇〇〇
皮 革	二五〇、〇〇〇
小 麥 粉	一、二〇〇、〇〇〇
邊用麥稈	五〇〇、〇〇〇
其 他	一、〇〇〇、〇〇〇

製材所として有名なものは、マイル、バカララン會社のもので、一八八六年歐洲に於ての試験の結果、その松材

製材機は、歐洲工場以上と評定された。パラナの大部森林を覆ふパラナ松は、普通十米突乃至二十米突に生育し、時には三十五米突にもなる、直径二乃至三米突半を有する、州内には約八千萬本の松があると思はれて居る。

此の他將來に有望な工業は、大麻、亞麻、綿織物、綿種子油、落花生油等の搾油、氣候が養蠶に好適なので養蠶と共に絹織物、果實罐詰、漁業等で、外國から資本と勞力の入るのを待ち構えて居る、既に米國資本團はパラナ松繁生地を買収し、同松を材料にカシヨエリイニヤに製紙工場を設けんとし、同じく米資でモレツテスに於ては野生のエデイキオ、アコロナル(俗名ジャスミン)を以て製紙に着手事業開始をしてゐる、又伯國人の一資本團は、パラナグアに最近タンニン製造工場を設けつゝある、英米人其他歐洲人は本州を呼ぶに、豊饒の地と呼んでゐる。

17 サンタ・カタリナ州。鑄鐵、織物、家具、麥酒等の工場中有名なのは、リタ、マリア製釘鐵條製造場及びジョインピレ市のアシム會社のメリヤス工場である。

18 リオ・グランデ・ド・スル州。伊太利植民地のカシアス地方の、葡萄酒の醸造は有名なもので、伊國のキャンテとも匹敵し得るとまで云はれて居る。又本州の毛織物工業が發達し上等品の出來ることも有名である、其他數多くの織物、麥酒、製帽靴、煙草、燐寸等の工場が繁榮して居る。尙ほ最近鑛産が開發されて、英獨白の資本家に依り、金、銅、銀、錫、鐵、石炭等の採鑛冶金が盛になり出した。

19 ミナス・ジエラエス州。同州農務部調査に依れば、現在各種工場數は六千百五十に達し、左の如き種類を有する。

織種類物

工場數 六一

煙種類草

工場數 九四

牛酪	七三三	乾酪	四二五
豚脂	一八	麥酒	四九
乾肉等	三七	製粉	一〇一
食料品	六四	瓦煉	四五
鞣皮	一〇〇	砂糖	一、〇〇二
製材	二二五	飲料	一五七
製鐵其他	一一一	馬具	一一一
燐寸	三七	石鹼	三七
石炭	一五	化學工業	八
其他各種	二、六三七	合計	六、一五〇

而して最も盛大なるは牛乳加工工業で、エントレ・リオ市のモンチア會社は模範的のものである。金剛石マンガン、金、鐵等鑛業は國內一で、マンガンは露國西班牙と共に、世界三大産地の一である。一九一七年末にペロ・オリゾンテ市(首府)に大理石工場が創立された、石材はアルコベルデ地方から採掘される、ロドリゴ・シルバ植民地々方では最近に養蠶が擡頭して來た。

20 ゴヤス州。精米、煙草加工、乾肉、牛乳、皮革等の加工業が主要なものである

21 マットグロソ州。サン・ルイス・デ・カアセレス及びミランダ市に、乾肉が盛である、前者の附近に牛肉、罐詰の一大工場があつて、製品は「シビルス」と云ふ名でよく知られてゐる。金其他金屬の採鑛は、The Matto Grosso Gold Dredging Comp. 其他二三の會社によつてなされる。

22 アトレ直轄地。最も發展してゐるのは護謨事業で、其他に製糖、製粉、煙草火酒醸造等の工場がある。

かく述べて来た如く、全國殆ど各種の工業は普及してゐるが、唯一つ石油採掘がない、けれども之は伯國が石油を産しない、と云ふのではない、資本と勢力の關係から、今日まだそこまで組織的に探索の歩が進んでゐないのである、既にマラニオン、ビアウイ、バイア、ゴヤス、ミナス・ジエラエス、サンパウロ、バラナ、サンタ・カタリナ、リオ・グランデ・ド・スル諸州は、其地質學上含油層だと云ふことは、諸學者の意見の一致して居る所である、アスファルトの如きもゴヤス及びバラナ州、バイアの南部、サンパウロ州のサンペドロ郡内に発見されたと云ふ、最近セルジベに於ては、コンフィアンサ紡績會社が、新機械据付の爲地面を掘り下げてゐる中に、重油が流れ出したと報じてゐる、又伯刺西爾石油會社はゴヤス州に於て石油採取の見込みありとして、八十萬エーカーの土地を買収した。英米人にして石油鑛発見の目的で、内地踏査に従事して居る者は尠くない。

さて全國主要工業生産額を示せば

種類	生産額 コント(千レル)	種類	生産額 コント(千レル)
飲料	三〇〇,〇〇〇	煙草	一〇〇,〇〇〇
織物加工	三八,〇〇〇	織物	三五,〇〇〇
鹽	六,八〇〇	織物寸	一一四,〇〇〇
葡萄酒	五,七〇〇	靴	一一〇,六〇〇
化粧品	二五,〇〇〇	帽	四四,〇〇〇
陶器硝子	五三,〇〇〇	咖啡焙煎挽碎	五〇,〇〇〇
藥物	七,〇〇〇	酢	六,五〇〇
金物類	三四,〇〇〇	牛酪	三四,〇〇〇
蠟燭	一五,〇〇〇	トラン	二二,〇〇〇
皮革	一六,〇〇〇	ステツキ	一一〇,〇〇〇

右表織物八二四、〇〇〇コントス中六十五萬コントスは綿織物である。

(ロ) 紡 織 工 業

伯國工業中最も發展して居るのは紡織工業である、各種纖維が豊富なので、黄麻ジュツと僅かの羊毛ウールを除いた、外は皆自給自足である。此の中で最も盛なのは綿紡織業で、一八六五年には全國を通じて、僅かに九工場に過ぎなかつたのが、今日では二百六十餘工場を數ふるに至り、錘數百四十六萬五千、織機四萬九千六百四十八台、従事職工數七萬二千九百四十三人と云ふ素晴らしい發展振を見せてゐる。綿紡織工業を所在州別に示せば、

州名	工場數	州名	工場數
ミナス・ジエラエス	六〇	サン・パウロ	五五
リオデジャネイロ	二二	バイア	一七
マラニオン	一六	聯邦首都	一四
エスピリトサント	一一	セアラー	一一
アラゴアス	一〇	セルジベ	九
ペルナンブコ	八	リオグランデ・ド・スル	八
サンタカタリナ	六	リオグランデ・ド・ノルテ	四
パラナ	一		
パライバ	一		

之等の資本金合計は三萬七千七百コントスである。

普通は十八番及び二十番手系で作業して居るが、八十番手以上の細糸で作業して居るものも尠くない。

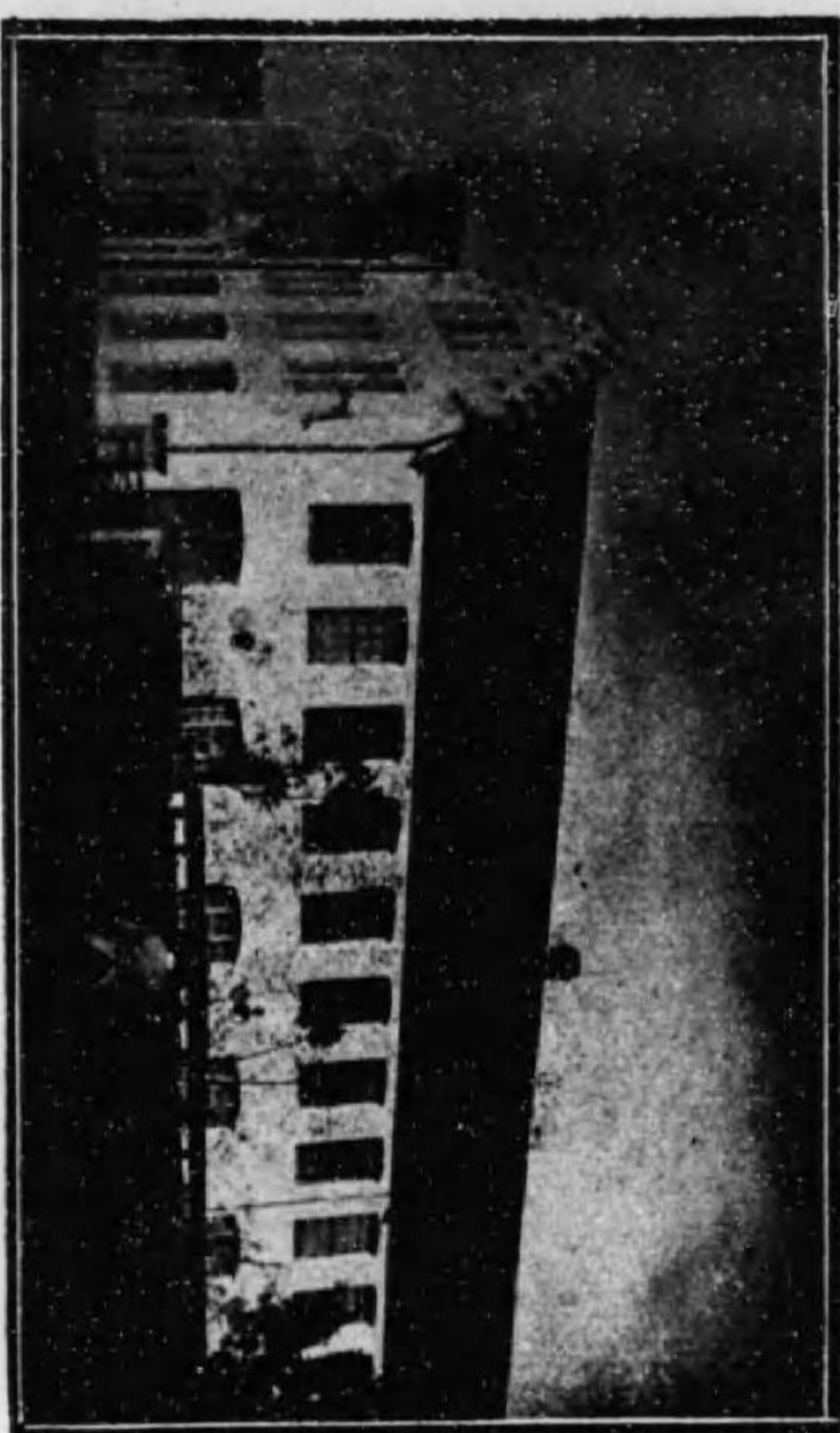
技術職工待遇其他に於て伯國の模範紡織工場とされて居るサン・パウロ市の Companhia Nacional Teidos de Lã 經營の綿紡織工場の如きは、百五十番手系の作業をして居る、而も之等の細糸を取るに櫛を用ゐずに見事に採り得ると云ふのを得意とし、英國邊の技術者も舌を巻いてゐる、綿紡織業の年収益は平均一割二分と計算される。

黄麻紡織に就てサン・パウロ市が、英國のダンデイと對比されてゐることは、既に商業の編で説いた、國內ジユッタ栽培が普及すると、やがて此の方も自給自足になり得やう、前記 Companhia Nacional では、新しい試みとして、黄麻で毛布代用物を織り、一枚四「ミルレトス」の卸値で、年々三十萬乃至四十萬枚内地へ賣行があると云ふ。

毛織物工場は全國に廿五を數へる、今所在州別に資本額と生産額とを表示すれば。

所在州	工場數	資本額 コント(千ミルレリス)	生産額 コント(千ミルレリス)
聯邦 邦 首都	一〇	五六三〇	二二、五六〇
リオデジャネイロ州	三	三一〇〇	四、三〇〇
サンパウロ州	五	八、三〇〇	八、八〇〇
ミナスジエラエス州	一	一九〇	六〇〇
リオグランデス州	六	五九五〇	五、〇〇〇
計	二五	二二、二七〇	四二、二六〇

伯國織物は先進國製品と肩を比べて劣る事なく、亞爾然丁へ多額に輸出され、同國に於ては之を英國品として買入してゐる事は、既に久しい事實で、最近にはブラグアイ國アツスンシオン市の有力な商人は、今まで亞國市場で、英國品として買入れてゐた織物が、皆伯刺西爾製品だつたと知り、同地駐在の伯國領事の手を介して、伯國織物會社と直取引を希望する等、伯國品の名譽大に擧がり、英國マンチエスター邊でも、密

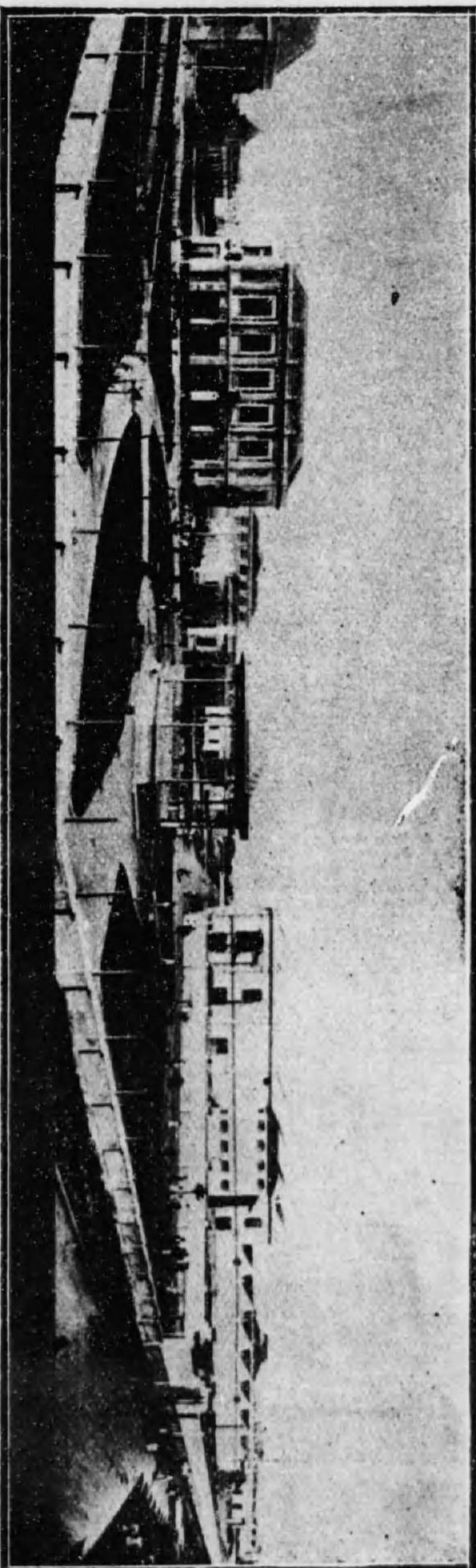


シヨインズ市メクス工場アツンシオン會社

サンパウロ市ブラグアイ工場



サンパウロ市模範工場シヨッタ紡織會社

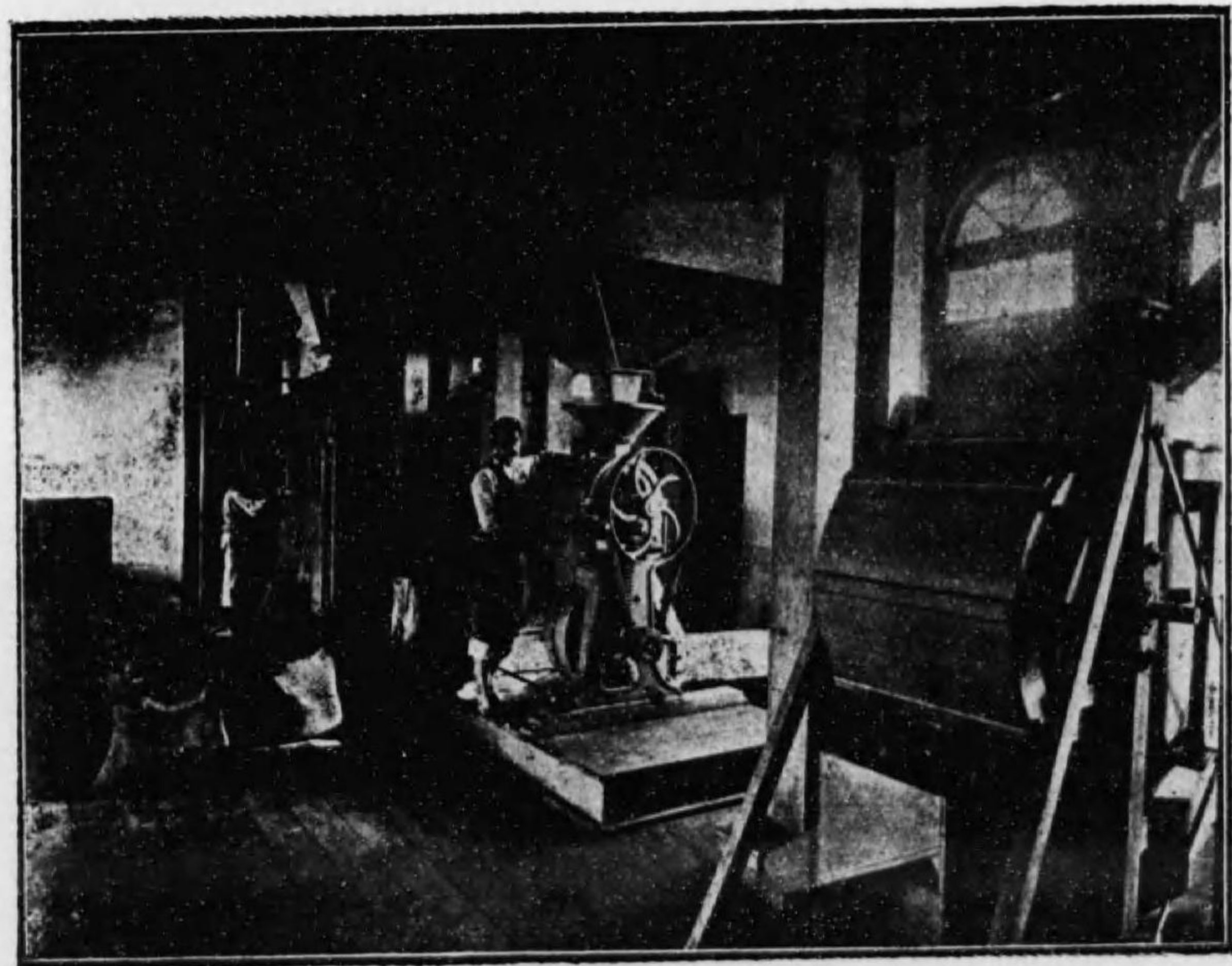
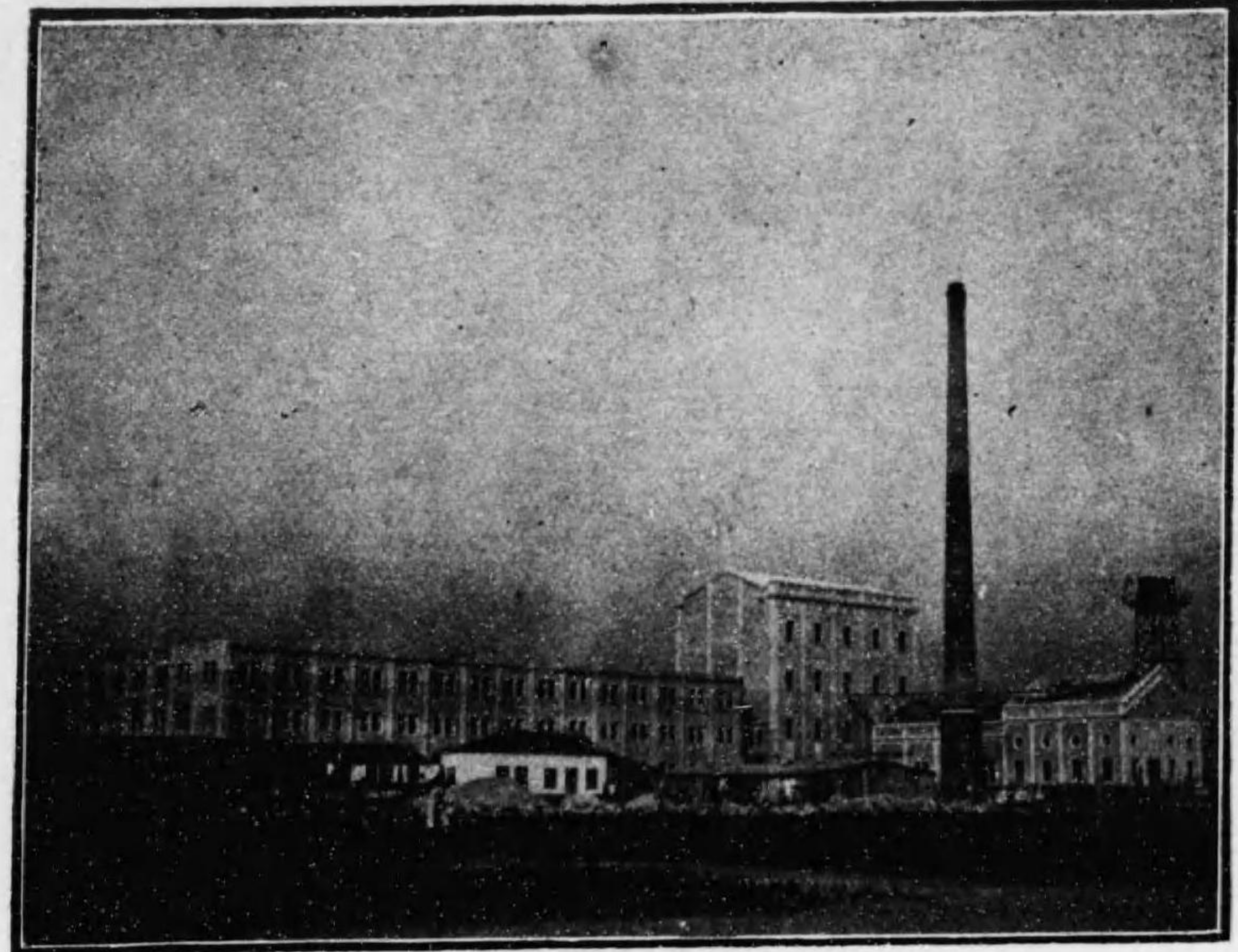


に恐をなしてゐる。

(ハ) 鐵 工 業

埋藏せられて限知られぬ伯國の天富に、英米を始め諸方面から、開拓の食指を動かすもの、近來殊に著しいが、伯國製鐵鋼業も最近多大の注意を惹くに至つた。又政府側に於ても、同事業發達を促す爲、種々な便宜や補助獎勵法を設けてゐる。

Belga-Mineira (ベルギイ、ミナス州合同會社) Nacional de Altos Fornos (内國高度熔爐會社) Usina Gullizoz Junior (グリズスジュニオル工業所) Anglo-Brazilian Iron and Steel Syndicate (伯英製鐵鋼組合) Metalurgia Brasileira (伯刺西爾冶金會社)の諸會社は既に採鐵製煉に従事して居る、中には銑鐵や煉鐵を製するのみならず、製鋼から鐵道軌道を造り出さうとして居る。マツトデントロのイタビラ鐵山に於て採掘の目的で Tabira Iron Co. (イタビラ鐵礦會社) が創立されて居る。同社では採掘原鐵の二歩に相當する量を、精煉すると云ふ條件で、その原鐵を輸出しやうと計畫して居る。グリズスジュニオル工業所の、ミナス州ミゲルブルニエル及びエスペランサに於ける熔鐵爐の成績は極めてよく、ミゲルブルニエルには二熔鐵爐を有し、一九二一年には九千九百噸を製産した、エスペランサの生産量は一日十二噸半である、又サン・パウロ州リベロン・プレート市には、伯人會社が大電氣熔鐵爐を經營して居る。或る英人企業團はリオ・デ・ジャネイロ州に伯國の第一人者たることを期して、大規模の製鐵鋼を營まんとして居る。サン・パウロ市の郊外イビラウंगाに經營してゐる、サン・パウロ鑄鋼會社はその設備の最新式なる點に於て有名である、同社では主として鐵道、橋渠、自動車、農具器械類の鑄造を主とし、製鋼能力は一日八噸乃至十二噸である、同社所有の熔



所米精スタロへのルース・ド・テンラグ・オリ (上)
景の轉運器製精非珈の付据地耕非珈 (下)

鑛爐は南米最大のもので云はれる。尙ほ伯國産鐵鑛の含鐵量に就て、伯刺西爾冶金會社の技師長、瑞典人ヘルリン氏が同社所有の鑛區、ミナス・ジエラエス州ジャクイ、サン・セバステオン・ド・パライン、モウロドフェロ等視察しての話によると、有名な瑞典のカイルナ鐵山の鑛質に等しく、含鐵量は六十五%であると云ふ。

伯刺西爾に於ける本業の將來は、ユーカリト樹から製した木炭を以てし、電氣熔鑛爐に依らねばならないと云ふ意見が有力である、即ち伯國の石炭から、コークスを經濟的に得る事が發達せず、外國炭は高價ばかりでなく、工業獨立上外國炭を使用するのは面白くないと云ふのである。

(二) 肥料製造

現下伯國産業の首位にあるは農業であるので、密接な關係を有する肥料製造工業に就て一言する。

伯刺西爾全國內現在の肥料工場は總計十九を數ふるに過ぎない、之を各州所在別に示せば

州名	工場數	州名	工場數
サンパウロ州	七	リオ・グランデ・ド・スル州	七
聯邦首都	一	セアラ州	一
パライバ州	一	パラナ州	一
サンタカタリナ州	一		

又一九一九年と一九二〇年との、國內肥料の消費量を比較する時は、後年は前年に比して倍増し、一、二、〇一九、〇〇〇キロ、價額二、九六一、〇〇〇「ミルレース」に上り、その大部分はサンパウロ州の珈琲園、リオ・グランデ・ド・スル州の米作に消費された、尙一九二〇年に於て七九、六二七、三七九キロ、價額一九、七

八九、五一七「ミルレース」の肥料製造原料を輸出した事によつて、國內肥料原料は豊富に得られる事が知られる。

(ホ) 水電事業

工業の發達と共に於て廻る動力問題は、忘れてはならない大問題である。石炭の供給の不便な伯刺西爾は、動力用として利用し得べき水力が到る處夥しい、従つて二十年來水力電氣事業は著しく發達した、そして投資者の眼は皆此方面に向けられるに至つた。リオ市、サンパウロ市等の大都會は無論の事、津々浦々に至るまで、稍人口稠密な所は水力發電に依る電燈會社があるに至つた、全國の電氣會社中極めて少數のものを除き殆ど水力利用をしてゐる。

殊にサン・パウロ州の如き、二百三十六市町村に對し、五十一水力發電所、十二萬二千馬力を算してゐる、その中馬力數に依る發電所數は、百馬力以下七、百乃至五百馬力十九、五百以上一千馬力八、千乃至二千馬力七、二千以上三千馬力四、三千以上五千馬力二、五千乃至一萬馬力二、一萬以上五萬馬力二、で發電機は獨逸製と米國製とである。

サン・パウロ州の電氣界に於ては、電燈及び各工場動力以外に、珈琲耕地の珈琲精洗機用に使用せられる電力は頗る多く、又各鐵道會社は繞つて電化計畫をして居るので、近き將來に於ける水電事業は、豊富な水力を利用して、非常な盛觀を呈するであらう。

將來の伯國水電事業の參考として、墨國のザンベズ瀧より巾廣く、米國のナイヤガラ瀑布より、巾と高さ共に優るパラナ州のイグアッスウ大瀑布に就いて少し説明を加へて置かう、イグアッスウの瀧と云つても、